

(別紙)

造船所章程第五條ヲ改正スル事左之通

港内碇泊場ヲ指揮シ及艦艇修理製造之海軍艦船ヲ統轄シ且本省所管横須賀浦賀等ニアル諸廠舎一切之營繕及ヒ横濱東海鎮守府新築改造等ノ事ヲ管理ス

海軍省ヘ達 十一年十月十九日

内務省所轄横濱製鐵所之儀自今其省ヘ被附候條受取方等之儀内務省ヘ協議可致此旨相達候事

海軍省達 十一年十月二十一

横濱製鐵所之儀今般當省ヘ被附候ニ付別紙之通横須賀造船所ニ相達候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

横須賀造船所

内務省所轄横濱製鐵所之儀自今當省ニ被附受取方等之儀別紙之通被相達候ニ付右製鐵所之儀其所所轉被仰付候條其筋ヘ協議之上受取方可取計此旨相達候事

横須賀造船所ヨリ海軍省ヘ届 十一年十一月十六日

當所修復船掛ヲ置キ内外諸艦船修理ニ係ル事務爲取扱來候處右ハ事務上都合ノ儀有之今般該掛相廢從來同掛ニ於テ取扱候儀ハ造船機械兩課ニ於テ取扱ヒ候條此段御届仕候也

造船所ヨリ海軍省ヘ届 十二年十一月二十七日

當所建築課建治掛ノ儀都合有之今般相廢止從來該掛ニ於テ管理致候儀ハ該課及造船課中滑車掛ニ於テ取扱候條此段御届仕候也

内務省所轄横濱製鐵所  
ヲ海軍省ニ屬ス  
内務省ノ製鐵所ヲ管スル  
ハ七年一月二日アリ  
ト共ニ大藏省ヨリ  
ト所官職門大藏省ノ部ニ  
職ス

横濱製鐵所ヲ横須賀造  
船所ノ所轄トス

横須賀造船所修復船掛  
ヲ廢シ事務ヲ造船機械  
兩課ニ取扱ハシム  
十二年十二月二十五日横  
須賀造船所事務取扱順序  
表各課事務取扱順序  
ヲ定ム

横須賀造船所建築課建  
治掛ヲ廢シ事務ヲ同課  
及造船課中滑車掛ニ取  
扱ハシム  
十二年十二月二十五日横  
須賀造船所事務取扱順序  
表各課事務取扱順序  
ヲ定ム

造船所ヨリ海軍省ヘ届 十二年十二月八日

當所建築課中自今營繕掛ヲ置候條此段御届仕候也

横須賀造船所ヨリ海軍省ヘ届 十二年十二月十七日

當所事務ノ都合ニ寄庶務課中へ編纂掛ヲ置キ計算課中正算掛給與掛財産調査掛相廢止 從來正算給與兩  
儀ハ出納掛ニ於テ取扱財産調査掛ニ於テ取扱候條此段御届仕候也

造船所各課事務假章程 十二年十二月二十五日

横須賀造船所事務分テ九課一舎一室トシ課中分テ三十掛ヲ置キ以テ分掌スル左ノ如シ

第一庶務課

巡吏給仕用使下小使及ヒ定人足ヲ統轄シ所内一般ノ警護内外一切ノ文書往復告示編纂報告外國人雇  
入條約通辯翻譯諸員ノ履歷勤怠ノ調査及ヒ官吏進退黜陟等機密ニ涉ル事務ノ調理其他諸艦札及ヒ運  
輸馬車人夫船船ノ分配盜火ノ消防建燈ノ點火諸犯ノ懲戒傷者賑恤等ノ事ヲ掌ル是ヲ分テ掛ヲ置ク四  
事務掛

諸文書ノ受領頒布及ヒ一切ノ往復告示並ニ所内官吏ノ進退黜陟及ヒ機密ニ涉ル事務ノ調理其他給  
仕用使下小使ヲ督シテ廳中一切ノ雜事ヲ管理ス

警査掛

巡吏及定人足ヲ統轄シテ所内一般ノ取締及ヒ保護ノ事務ヲ調理シ諸員ノ履歷及ヒ出入勤惰ヲ調査  
諸艦札及ヒ其他兩門ノ出入人足船船ノ分配運輸馬車ノ使用方盜火ノ消防建燈ノ點火諸犯ノ懲戒傷  
者賑恤等ノ事ヲ管理ス

通譯掛

外國人往復告示並ニ雇入條約及ヒ翻譯通譯圖書等ノ事ヲ管理ス

編纂掛 諸公文ヲ類聚編纂シ成規定例ヲ纂輯シ事歴ノ沿革ヲ明ラカニシテ他日ノ參考ニ供シ記錄收藏保存及ヒ報告ノコトヲ管理ス

第二艦裝課 艦船ノ等位ニ應シテ艦裝修整スル事ヲ掌ル

第三造船課 大小艦船及ヒ之ニ屬スル木製諸般ノ物具等ヲ新製修覆シ及ヒ製圖並ニ内外艦船ノ木部ニ屬スル一切ノ修理其外他方ヨリ注文ノ製出品所轄船貸渡シ等ノ事ヲ掌ル之ヲ分テ掛ヲ置ク

船臺掛 諸艦船體及ヒ艦船内諸室ヲ新規製造スル事ヲ管理ス

填隙掛 艦船諸部ノ填隙方塗粧方硝子ノ取付方鋪物及ヒ内外諸部銅鐵板ノ張換或ハ摺合セノ革皮毛織類ノ附著方戸船ノ摺合方並ニ諸銷打方水拔管附著方等ノ事ヲ管理ス

船渠掛 諸艦船ノ船渠出入及ヒ渠中ノ臺木改置總テ木部ノ修繕改作並ニ水潜ノ事業ヲ管理ス

製帆掛 帆類天幕及ヒ釣床衣囊等布製ノモノ並ニ革製諸品等新製修覆裁縫一切ヲ管理ス

製網掛 細大各種ノ網索ヲ綯造スルコトヲ管理ス

船具掛 艦船ノ運用及ヒ繫留船具ノ整備方其他水陸昇降器械碎岩器械泥浚船等ノ事業及ヒ所内ノ船艇一切

灣内外ノ浮標等ヲ統轄ス

端船掛 各種ノ端船新製修理スルコトヲ管理ス

鋸鉋掛 濼力ヲ以テ諸材木割削平及ヒ櫓桁等製造ノコトヲ管理ス

滑車掛 大小各種ノ滑車並ニ轆轤ヲ以テ製出スヘキ品種及ヒ諸器具ノ木製塗粧彫刻且ツ製本等ノコトヲ管理ス

製圖掛 造船機械兩課ニ屬シテ船體機械ヲ始メ附屬諸具ノ精圖ヲ調製シ及ヒ貯藏ノ諸圖ヲ保存スルコトヲ管理ス

第四機械課 蒸氣機械課ニ金屬製ノ屬具一切ノ新製修覆及ヒ製圖並ニ内外艦船金屬諸部ノ修理其外他方ヨリ注文ノ製出品等ノ事ヲ掌ル之ヲ分テ掛ヲ置ク

鍊鐵掛 鐵鋼ノ精鍊鍛冶ノ工業一切ヲ管理ス

整飾掛 金銀銅鐵諸裝飾具一切及ヒ金屬器械ノ製作並ニ彫鏤等ノコトヲ管理ス

製罐掛 汽罐ヲ始メ銅鐵眞鍮板及ヒ亞鉛板ヲ以テ製スル者一切及ヒ機械ニ屬スル諸管筒等ノ工業ヲ管理ス

鑄造掛 諸金屬ノ熔解鑄造ノ諸業ヲ管理ス

十三年二月海軍省内第二  
十號並ニ以テ艦裝課ヲ廢  
ス  
十二年十二月二十八日遊  
船課ノ部ヲ改正ス  
十四年十二月二十日遊船  
課中整理掛ヲ設ク

十九年四月十三日端船掛  
ヲ廢シ事務ヲ船渠掛ニ屬  
ス  
十三年一月十日滑車掛ノ  
條並ニ製木ノ四字ヲ刪除  
ス

十二年十二月二十八日機  
械課ノ部ヲ改正ス  
十四年十二月二十日機械  
課中整理掛ヲ設ク

十九年四月十三日整飾掛  
ヲ廢シ事務ヲ鑄造掛ニ屬  
ス

模造掛

鑄造品ノ木型ヲ模造スル事ヲ管理ス

旋盤掛

鍛冶鑄造ヲ經テ形成ル者瀧力ヲ假リ鑽削平滑及ヒ鑿孔等ノコトヲ管理ス

鋸掛

組立掛

鍛冶鑄造ヲ經テ形成ル者鋸子ヲ以テ銷磨スルコトヲ管理ス

製圖掛

造船課中製圖掛ニ同

第五基整課

内外諸物品ノ購求及ヒ賣却且ツ運輸等ノ事ヲ掌ル

第六建築課

所屬ノ土地家屋諸建物一切及水理等ノ事ヲ管理シ兼テ本省所管ノ横須賀浦賀等ニアル諸庫舎等ノ營繕及ヒ横濱東海鎮守府新築改造等ヲ掌ル掛ヲ置クニ

營繕掛

土地並諸建物新築修繕最寄諸廳ノ新營修補東海鎮守府新築改造等ヲ掌理ス

築造掛

土工水利一切並ニ石灰煉化石ヲ製造スルコトヲ管理ス

第七倉庫課

諸物品ヲ儲蓄シテ用ニ隨ヒ支出スル事ヲ掌ル之ヲ分テ掛ヲ置クニ

記注掛

諸物品ヲ儲蓄シテ用ニ隨ヒ支出スル事ヲ掌ル之ヲ分テ掛ヲ置クニ

十四年十二月二十日海軍  
陸海軍官制ニ依リ

物品ノ支出購入簿記統計正算スル事ヲ管理ス

用度掛

現品出納ノコトヲ管理ス

第八艦材課

大小木材ヲ伐採シ及ヒ買求シテ之ヲ儲蓄シ用ニ應シテ支出スル事ヲ掌ル

但該課ヲ分テ東京ニ在勤セシメ天城山其ノ他ニ於ケル艦材伐採運搬及諸材ノ購求深川艦材園場等

ノ事ヲ管理ス其ノ一切ノ事務ハ主船局長ノ指揮ヲ受ケシムルモノトス

第九計算課

經費ノ豫算出納ヲ掌リ兼テ財産増減ノ調査及ヒ所内ノ費途ヲ統計シテ月表ヲ調製スル等ノ事ヲ掌ル

之ヲ分テ掛ヲ置クニ

出納掛

金貨出納並出納ニ關スル書類ノ勘査及官員雇外國人等俸給並諸雇給旅費恩賞賑恤等金員調出ノコトヲ管理ス

トヲ管理ス

統計掛

歲出入ノ豫算諸經費ノ統計及ヒ器械物品代價算出並各課職場船舶所用ノ機械物品及ヒ倉庫蓄品艦

材藥品圖書等ノ調査ヲ管理ス

外國費掛

雇外國人及ヒ外國艦船並ニ外商等ニ係ル現金交收ノコトヲ管理ス

第十費舍

生徒並ニ修業生徒ヲ教育シ及ヒ教科書翻譯會密等ノ事ヲ掌ル

第十一醫室

官吏以下諸職工人夫等ノ疾病被傷ヲ治療スル事ヲ掌ル

十三年六月九日艦材課中  
ニ伐採掛ヲ置クニ

横須賀造船所各課掛事務取扱假順序

庶務課

事務掛取扱假順序

第一項

- 一内外ヨリ到來ノ文書ハ勿論所内各課掛ヨリ進達ノ書類共一切ヲ受領スル者トス
- 但造船所宛ハ勿論所長宛ノ書ト雖モ祕報親展等ノ文字ナキ分ハ一切開封シ其中課掛宛ノ分ハ封ノ儘其宛名ヘ頒付スル者トス
- 一開封ノ後書面ノ右端欄外ヘ受付ノ月日ヲ細書シテ其下ニ押印シ又綴入スヘキ帳簿ノ號字ヲ右肩ニ朱書シ先ツ掛中通覽押印シテ課長ニ出シ課長又押印シテ所長ニ出ス者トス
- 一開封ノ後先ツ其所管ノ見込或ハ都合等ヲ問ヒ廻答ヲ要スル分ハ文案シテ課長ノ檢閱ヲ經テ而ル後ニ所長ニ出シテ檢印ヲ受ルモノトス
- 但甲ノ日午前受付ノ書類ハ午後二時迄ニ同シク午後受付ノ書類ハ乙ノ日十時迄ニ差出モノトス
- 一檢印濟書類ハ淨書校合シテ其誤謬ナキヲ證スル爲メ原案ノ紙端ニ主任者校正ノ二字ヲ記載押印シテ番號ヲ附シ以テ各所ニ送付スルモノトス
- 但郵送ノ書類ハ封皮ニ量數稅高ヲ記載シ郵便差立帳ニ送付スヘキ廳名並量目稅高ヲ登記シ共ニ郵便局ニ送り該帳ニ其肩印ヲ受ケ置キ毎月末同局ノ算計書ヲ得テ此帳ト共ニ計算課ニ送付シ同課ニ於テ照合統計該稅支出ノ手順ヲ爲ス者トス
- 一往復書共總テ他ノ課掛ニ關係アル者ハ該書ノ餘白ニ關涉ノ課名掛名ヲ朱書シテ之ヲ廻致ス其ノ一覽ノ後課名下タニ押印シテ返シ來ルトキ各番號ヲ附シ各帳ニ綴入スル者トス其ノ一般ニ關係アル者ノ如キハ之ヲ廻覽シテ各自押印セシメ終テ綴入スル前文ノ如シ
- 但廻覽書ハ先ツ警査掛各自押印セシメ而ル後他課掛ニ順次廻覽スルヲ例トス雇外國人ニ關係アリ通達スヘキ件ハ先ツ通譯掛ニ廻シ該掛ニテ之ヲ通告スルカ或ハ之ヲ揭示スル者トス

一總テ書類ヲ帳ニ綴入スルトキニ當リ其原因タル書類ノ番號或ハ答書ノ番號等凡テ其次第ヲ紙末ニ朱書シ以テ他日ノ搜索ニ便ス

一職工入業退業ノ節各掛ニ於テ其申出帳ニ記載技術課長檢印濟ノ上ニ送り來ルトキハ成規ノ通入退業證ヲ認メ試驗ノ者ナレハ庶務課印ヲ該帳ト割印セシノミ又入業ノ者ナレハ同シク割印セシ上ニ中央ニ應印シテ該證ハ其掛ヘ授付シ帳ハ警査掛ヘ送ルモノトス

一定人足入業退業ノ節ハ警査掛ニ於テ其ノ申出簿ニ當課長ノ檢印濟其入業證等取扱振前條ニ同シ

第二項

一艦船申出ノ書類ハ所長檢印濟ノ節其造船機械兩課主務ニ係ル分ハ更ニ違案ヲ作り所長ノ檢印ヲ受ケ淨書番號ヲ付シテ該課ニ達シ其他ニ係ル分ハ原書ヘ檢印濟ノ節別ニ一通ヲ謄寫シ本書ト割印シテ共ニ番號ヲ附シ寫ハ配達録ニ記載シテ其主務ノ課掛ニ送付スル者トス假令ハ物品ハ分庫ヘ送付スル如キ

但諸申出書ノ内造船機械課ノ取扱ニ係ル分ハ所長檢閱濟ミ分庫ニ係ル分ハ所長檢閱前一應ノ意見ヲ問ヒ再ヒ檢印ヲ受ケテ施行スルモノトス且ツ本文申出書ヲ廻シ本課ノ帳簿ヘハ寫ヲ綴入スルヲ例トス

一送付セル課名月日ヲ其本紙ノ末ニ朱書シテ其艦ノ帳簿ニ綴入スル者トス

但各艦船ノ申出書ヘ其所轄ノ副書アル者假令ハ艦隊ノ船ハ鎮守府ニテ御召及ヒ省達ヲ經シ者ヲ取扱フヲ例トス

一海軍艦船ノ修覆其所轄廳ヨリ申込アルトキハ必ス修理ヲ要スルヤ否ト著手ノ都合等ヲ造船機械兩課ニ尋問シ所長檢印濟更ニ修覆著手スヘキ旨達方ノ取扱ヲ爲スノ順序凡テ前文ノ通

但省外艦船ニ於テモ該課ヘ達方順序ハ右ニ同シ其内

外國軍艦ハ本國公使ノ添書ヲ以テ外務省ヲ經テ當所ヘ願出又

外國商船ハ其國領事ヨリ其在留地ノ府縣ヲ經テ當所ヘ願出ルヲ例トス

內國船ハ船主所在府縣ノ添書ヲ以テ當所ヘ願出又

- 一 三菱會社船ハ其ノ所轄タル驛遞局ノ添書ヲ以テ願出ルヲ例トス
- 一 修覆箇所ノ内乗組ノ手ニ於テ取扱フヘキ爲メ其使用ノ物品ヲ請求スルコトアレハ造船機械兩課ニ於テ調製スルモノト同視シ請求書ヘ所長檢印濟該兩課ヘ達シテ「手順ハ前ニ云フ所ト異ナルナシ」該品渡サシムルモノトス
- 一 省外ノ船舶修理ノタメ入灣スルトキハ舊船ノ届書ヲ添テ船鑑札ト檢印帳ト差出サセ預リ置キ追テ修理落成ノ期出灣時刻届出ノトキ該檢印帳ヘ入灣出灣ノ年月日記載シ記名ノ下ニ押印シテ印鑑ト共ニ該船ニ返附スル者トス
- 一 但修覆費概算高上納濟ノ上ニアラサレハ返附スヘカラサルノ定規トス
- 一 修覆艦船灣内ヘ出入ノトキ海軍艦船ナレハ之ヲ本省ヘ届出省外ノ艦船ハ届出ルコトナシ
- 一 但其出入ハ巡吏ヲシテ入灣簿ニ登記セシムルモノトス
- 一 同シク船渠ヘ出入スル艦船ハ自他ヲ問ハズ總テ本省ヘ届出ル者トス
- 一 但出入届出方前ニ同シ
- 一 三菱會社船ノ修覆費精算濟ニテ同社ヘ上納方ヲ達セシ金高統計掛ヨリ申出ルトキハ其金高ヲ驛遞局ヘ通報スルモノトス

第三項

- 一 廳中一般ノ取締ヲ旨トシ掃淨其外國旗ノ上下方及ヒ號鐘ノ撞チ方等總テ使用ニ指揮スル者トス
- 一 但大旗小旗ノ揚日並ニ號鐘ノ杵數時限等ハ條例ノ通
- 一 廳内ノ營繕ハ勿論備付品ノ引換修覆等其他臨時ノ分ハ凡テ所長檢印濟ノ書面ヲ其主務ノ課掛ニ送テ之ヲ整備セシム
- 一 廳内日用ノ品具即チ各課共用ノ分並所長詰所用及當課用ノ常用品ハ證書ト物品受取帳ト割印シテ證書ハ主務ニ送り物品ト引替受取モノトス
- 一 但警査掛通譯掛編纂掛用ノ分同シク課印ヲ以テ受取ト雖モ警査掛ノ分ハ廳外ニ屬スルヲ以テ別ニ

受取帳ヲ置モノトス

- 一 毎月末ニ至リ其月内受取タル諸品ノ證書ト渡品牒ヲ倉庫課ヨリ送り來ルトキ證書ニ照シテ渡品帳ノ各品名上ニ小印シ渡品帳ハ倉庫課ニ返付シ證書ハ其ノ儘受取り置ク者トス
- 一 同シク其月内受取品ヲ區別シテ表ヲ製シ廳名ノ下ニ掛ノ内小印シ月々之ヲ倉庫課ニ送ルモノトス

警査掛取扱假順序

第一項

- 一 巡吏ヲ督シ時々構内ヲ巡視シ盜賊及ヒ非常ノ豫防ハ勿論官吏及職工人足等ノ勤惰行狀ヲ監査シ構内出入衆庶ヲ取締リ職工人足等ノ保護ヲ爲スモノトス
- 一 巡吏召募及筆算雇々入ノ節ハ試驗規則ニ照ラシ試驗ヲ爲シ其適當ノ者ハ検査表ヲ製シ本人履歷ヲ添ヘ課長ニ出ス課長檢印シテ所長ニ出シ所長檢印濟本人採用ノ手續キハ事務掛ノ管理スル所トス
- 一 但巡吏試驗ハ掛二員醫官一名巡吏取締一人列席ス筆算雇試驗ハ掛一員其ノ他ハ定規ノ諸員列席ス
- 一 巡吏被服ヲ保存期限ニ照ラシ其ノ保損ヲ點檢調製セシメ代價ヲ計算課ニ通牒シテ該課ニ預リアル各自ノ積金ヲ以テ拂出シノ手順ヲ爲スモノトス

第二項

- 一 各課各掛及分庫其他職工人足諸請負人等都テ物品門外ニ携帶スルモノハ其ノ物品ト通門證トヲ鑑査シ巡吏ヲシテ其證書面ヲ出門簿ニ記載セシメ警査印ヲ捺シテ出門ヲ許スモノトス
- 一 毎朝夕職工人足出頭退散ノ際巡吏及ヒ出面調專務雇ノ者ヲ指揮シ職札掛ケ外シテ監督セシメ且ツ亂襪ヲ防制セシムルモノトス

第三項

- 一 出火ノ節ハポンプ付定人足ヲ指揮シテ消防ニ盡力セシメ巡吏ヲシテ亂襪竊盜ノ防禦ヲササシムルモノトス
- 一 非常道具ヲ管轄シ毎土曜日退鐘一時間前ヨリポンプ付定人足及船渠人足ヲシテポンプ取扱演習ヲナ

サシムルモノトス  
 但毎月十五日非常道具格護所各品ノ調査ヲ爲シ其ノ破損スルモノハ品名數等證書紙ニ記載印ヲ捺シ現品ト共ニ倉庫課ニ納付シテ損品引換ヲ爲ス新規請求ニ涉ルモノハ所長ノ檢印ヲ受ケ該課ニ交收スルモノトス

第四項

一 火藥庫ノ鎖鑰ヲ管シ巡更ヲシテ該庫ノ守衛ヲ爲サシムルモノトス  
 一 各職場早出居殘人員ヲ監査シ判任官以下職工人足ニ至ル迄ソノ出退時刻及ヒ定斷リ臨時斷リ等各職場ノ通告牒記載ノ時刻ト現員出退時刻ノ異同ヲ照査シ警査印ヲ捺ス若シ時刻ノ相違アレハ現時刻ヲ朱書シ當直自印ヲ捺シ時刻相違ノ證トス

但休日工業ノ節出退及ヒ常日休日共晝息ミ時間從業增働等ノ時間ヲ檢閱スル本文ニ準ス且ツ翌朝何時ヨリ何某等早出ノ旨各職場ヨリ通知アルトキハ其早出スヘキ者ノ職札ヲ札場東側棚上ニ竝列シ早出出業ノ區別ヲ爲サシムルモノトス

一 毎日當直一員宿直所ヘ出勤シ工手職工人足出頭退散ヲ監視シ臨時人足ノ強弱ヲ點檢シ其ノ使役ニ耐ヘカタク認ムルモノハ百キロニアタル鐵塊ヲ負擔セシメ強壯ノ者ヲ撰拔シテ各課各掛等ニ分配スルモノトス

一 當直ニ當ル者ハ毎日午前九時ニ交代シ甲ノ日當直ノ者ハ乙ノ日當直ノ者ヘ事務引續キ相濟ミ直務終ルモノトス隨テ退散ス乙ノ日當直ノ者ハ甲ノ日起發セシ事務ノ整理ニ至ラサルモノハ滯留ナラサル様力メテ完了スヘキモノトス

但兩門出入一切ノコトヲ管理シ職場一覽許可ノ事ヲ取扱フモノトス  
 一 技術官及等外吏加俸增働職工人足日給增働其他諸賄料等各課各掛ノ調書ヲ鑑査檢印シテ計算課ニ送付スルモノトス  
 但本文調書上半月分ハ十五日迄ニ檢査シ十六日迄ニ計算課ニ送付シ下半月分ハ大三十一日 日迄ニ

檢査ヲ遂ケ翌月一日迄ニ該課ヘ交付スルノ手順トス尤非常ノ劇務或ハ人少等ノ節ハ此ノ限ヲ必ストセス

一 等外吏以下出勤中門外ニ出ル節ハ公私ノ別ナク其出門スル事故ヲ記載シタル出門帳ヲ檢閱警査印ヲ捺シ該帳ト共ニ通門札ヲ渡シ出門セシムルモノトス

但通門鑑札ハ出入證「出切證」トノ二様アリ出入證ヲ渡スモノハ入門スル節最初渡ス所ノ鑑札ヲ自ラ返納セシメ出切證ハ門監ニ於テ取束テ相納ムルモノトス

一 諸運船發着巡更巡回簿出入門簿船改簿ポンプ付定人足船渠人足分配簿職工人足總員出面簿犯罪者摘要簿倉庫者摘撮簿等毎日當直檢印課長ニ出ス課長檢閱各簿押印シ分配簿ハ所長ニ出シ犯罪摘要簿ハ同掛中處罰取調主務ヘ廻付スルモノトス

一 構内燈臺ヲ管シ燈臺番ヲシテ巡更ニ附屬セシメ點燈及該臺一切ノ取扱ヲサシムルモノトス  
 但該臺任用ノランプ及油附木ノ出納ハ巡更ヲシテ調理セシメ總監スルモノトス

第五項

一 職工人足等被傷者有之節ハ其ノ傷痕ヲ點檢シ保護ノ手當ヲナシ軍醫ヨリ報告書ヲ廻付シ來ルトキ醫務局ヘ廻報ノ手順ヲ爲ス其ノ他疾病疵傷ヲ論セス官給藥劑代納藥劑證ヲ醫室ヨリ送付スルトキ該證ニ記載スル藥品名數ヲ藥石配劑簿ニ騰寫シ勒合印ヲナシ該證ヲ請藥者ニ附與シ藥石ヲ受取ラシム且ツ五等傷以上ノ者傷痕治療ノ上軍醫ヨリ診斷書送り來ルトキハ傷者ノ職務明細表ト共ニ醫務局ヘ送付ノ手順ヲ爲シ該局長審查ノ上診斷書返付シ來ルトキ等傷ニ應シ官役人夫死傷手當規則ニ照準シ相當手當給與ノ申出ヲ爲シ所長檢印濟該書面ヲ騰寫シ寫ヲ本課簿書ニ綴入シ本紙ヲ計算課ニ送付シテ金員渡シ方ヲ爲サシメ本省届出ノ手順ヲ爲スモノトス

但年期職工病死或ハ滿期ニ至ルモノハ其ノ入業年數ヲ調査シ定雇職工規則ニ照ラシ手當支給ノ手順ヲ爲スモ本文ト異ナルナシ

第六項

官役人夫死傷手當規則ハ八年四月第五十四號達ヲ以テ定ムル所發檢門扶助ノ部ニ載ス  
 定雇職工規則ハ九年四月海軍省甲第二號布達ヲ以テ定ムル所下ニ載ス

一 毎朝掛り鳴鐘後ハ札場出入口ヲ閉鎖シ該鐘後十分迄ノ遅参ハ其遅参ヲ督責シ履ヲシテ職札渡シ方ヲ爲シシム十分以上遅刻スルモノハ其ノ何時ニ出業シタル旨本人出場ノ掛官員ノ證書ヲ得テ日給歩引キ列規ニ照ラシ簿記セシメ始メテ職札渡シ方ヲ爲シシムルモノトス

一 諸官員以下工手及給仕用使筆算履等ニ至ル迄ノ勤惰簿ヲ製シ前月二十六日迄ニ毎日各出勤定限ノ刻ヲ過クレハ該簿ヲ調査シ遅刻病氣引或ハ出張等不参ノ者ハ遅煩出張等ノ印ヲ捺シ若シ故ナク不参ノ者ハ之ヲ取札シ其事由ヲ詳ニシテ其時々所長ニ報告スヘキモノトス

但委任官ハ所長詰所判任官ハ庶務課等外以下ハ當直所ニ於テ各自捺印スルノ定規タリ

一 一箇月毎ニ勤惰簿ヲ調査シ各員ノ姓名上勤不勤ノ日數ヲ詳記シ置キ五月前年十一月ヨリ五月迄前月十一月ト十一月前月十一月ト迄ニ至リ半歳ツ、ノ勤惰表ヲ調製シテ以テ所長ニ申告スルモノトス

但職工定人足勤怠表モ本文ト同シク調製ス

第七項

一 職工出面調專務履ノ者ヲ督シ毎朝出業職工人足等ノ出面調査合計セシメ出面ト不参トヲ區別シ總員出面帳ヲ檢閲捺印シ而シテ退散ニ至ル迄ノ間筆算履以下職工人足等ノ病氣不時退散及ヒ遅刻出頭スルモノハ日給歩引キノ例規ニ照ラシ簿記セシムルモノトス

一 臨時人足及傳馬船等履入ノ儀各課各掛分庫等ヨリ其人員船數ヲ帳簿ニ記載シ申入レアラハ出面表調專務ノ者ヲシテ臨時人足簿ニ登錄セシメ其人員船數翌日差出スヘク旨請負月番ノ者ハ相違シ請印セシム各課掛ヨリ送達スル帳簿ヘ檢印シテ返付スルモノトス

一 修履艦船使用ノ傳馬船通船及人足履高各艦船ノ區別ヲ爲月表ヲ調製シ毎月末統計掛ヘ廻付スルモノトス

第八項

一 出面表調專務ノ者ヲシテ技術官以下職工人足等ノ出面及工業區分表ヲ調製セシメ檢印シテ課長ニ出シ課長又檢閱シテ所長ニ出スモノトス

一 職工定人足職札出入鑑札及ヒ臨時人足請負人並同人使役ノ職工人足等ヘ相渡ス諸鑑札ヲ管理スルモノトス

ノトス

一 構内ニ於テ職工人足等犯則者ノ糾問處罰其ノ他犯罪ニ關スル事務ハ一切掌理スルモノトス

第九項

一 諸艦船入灣スルトキハ巡吏ヲシテ其ノ入灣船ノ事故艦船長姓名等尋問艦船入灣簿ニ記載セシメ海軍艦船ハ尋問ヲ要セス直ニ艦船名ヲ記載ス日本形運輸船ハ船主及物品等ヲ檢査セシメ船改簿ニ登記セシムルモノトス

但出灣スルトキノ手順モ本文ニ準ス

第十項

一 毎月倉庫課ヨリ受領スル諸品月表調製ハ事務掛ノ手順ト異ナルナシ

一 諸建物棚等破損ノ箇所見及フトキハ速ニ其掛ニ通知シテ修理ノ手順ヲ爲サシメ又各職場使用ノ諸器械物品ハ勿論艦船附屬品等ノ亂雑アルトキ其主務ノ各課各掛ニ通告シ取片付ヲ爲サシメ且ツポン  
フ付定人足ヲシテ構内塵芥取除キ其他一般掃除ヲ爲サシムルモノトス

第十一項

一 漂流船及遺失物拾得ヲ届出ルトキハ遺失物ハ警察署漂流船ハ浦役場ヘ現品交付ノ手順ヲ爲シ兩門揭示場ヘ其始末ヲ揭示スルモノトス

第十二項

一 毎日諸官員以下等外吏履給仕用使等ニ至ル迄ノ勤怠簿調査及諸向ヨリ進達スル病氣引給暇湯治歸省願出張發著改印落失品拾得品忌引諸届等ヲ受領シ上達下達ノ事ヲ管理スルモノトス

第十三項

一 非常用ポンプ並提燈等各掛ニ於テ使用ノ申入レアルトキハ其ノ借用證ヲ受取り貸渡スモノトス

一 官員履歷編纂及年期職工日履職工定人足各原籍簿ヲ編製シ官員以下諸職工ニ至ル迄ノ印鑑簿ヲ製スルモノトス

十三年三月十日官制陸海軍官制ノ七字ヲ刪除ス

十七年三月二十八日巡更  
ノ職ノ職務ヲ監督スル  
則チ定ム

一職工入退申出簿ヲ格納シ各掛ノ申入レニ應シ該簿ヲ其掛ヘ相渡ス而シテ技術課長檢印濟ノ申出簿ト  
本人原籍トテ事務掛ニ受ケ其原籍簿編入削除及職工出面調專務者ヲシテ職札掛ケ外シ出面簿ヘ姓名  
日給記入或ハ削除等ノ手順ヲ爲サシメ納簿スルモノトス

但定人足入退ハ本課ノ管理スル所ニシテ其ノ雇入ヲ要スルトキハ規則ニ因テ體格力量ヲ試驗シ入  
退共定人足申出簿ニ記載シ課長檢印濟ミノ手順ハ本文ト異ナルナシ

巡吏職務假規則

第一條 事務ヲ庶務課ニ承ケ兩門ヲ守衛シ晝夜無間斷構内ヲ巡回シ一般ノ取締ト保護トヲ以テ目的ト  
スヘキ事

第二條 警査掛當直所南方一間ヲ以テ巡吏取締及當番巡吏ノ詰所トシ其南隅一間ヲ休息所ト相定ムル事  
但喫飯吸烟等ハ該休息所ニ於テ可致事

第三條 巡吏取締ハ一般ノ巡回ニ不拘構内ヲ巡回シ各巡吏ノ勤怠ヲ視察シ諸達ノ傳達巡吏一同諸願伺  
届等ノ上達其外該吏ノ職務ニ係ル職務ノ取扱ヲナスヘキ事

第四條 上官ノ命令ヲ違奉シ諸規則ヲ遵守スヘキ事  
第五條 專ラ行儀作法ヲ正シクシ威權ケ間敷儀之レナクシテ諸職工人足等ノ侮慢ヲ受ケサル様心掛ク  
ヘキ事

第六條 當番中制服ヲ脱スヘカラス非番中制服スヘカラサル事  
但非番タリトモ構内ニ出入スルトキハ制服ヲ服スヘシ

第七條 職務上ニ付上官ヘ申立ノ事都テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間敷事  
第八條 兇器類ヲ携ル儀不相成且上官ヨリ相渡サレタル品ハ大切ニ取扱フヘキ事

第九條 巡回中最モ體裁ヲ正シ他人ト同行雜話致ス間敷事  
但同役タリトモ無用ノ談話ヲ爲スヘカラス

第十條 門番所竝見張所ニ於テ無用ノ雜話又ハ議論カマシキ高聲ノ所爲アルヘカラス假令職務上ニ於

テ衆論スル事アルモ穩ニ之ヲ議シ輕薄ノ舉動アル間敷事

第十一條 職務上止ムヲ得サル事故アルノ外特區ヲ離ルヘカラス止ムヲ得スシテ持場ヲ離ルトキハ隣  
區ノ者ニ托シ置クヘキ事  
但非常ノ急ハ此ノ限リニアラス

第十二條 巡回中建物ニ倚カ、リ或ハ物ニ腰カケ或ハ吹烟睡眠等スヘカラサル事  
第十三條 當番中ハ勿論非番タリトモ構内ニ於テ飲酒スヘカラサル事

第十四條 巡回中竝見張所及門番所ニ於テ官員ニ禮儀スルトキハ右手ヲ帽ニ致シ辭ヲ接スルトキハ帽  
ヲ右手ニ脱シ談終テ一禮シ後帽ヲ被ルヘキ事

第十五條 巡回中奏任以上ニ禮儀スルトキハ歩ヲ止メ右手ヲ帽ニ致シ其ノ通過ヲ待テ回路ニツクヘシ  
判任ニ對スルトキハ右手ヲ帽ニ致スノミニテ歩ヲ止ムルニ不及事

第十六條 職工人足等平生ノ入トナリニ至ル迄ヲ注意シ怪敷者ト認ムルトキハ常ニ注目シテ其舉動ヲ  
察スヘキ事

第十七條 官廳及倉庫各職場竝柵扉等ノ損破ヲ見認ムルトキハ之ヲ警査掛ニ報知スヘキ事  
第十八條 出火ノ節ハ合圖ヲナシ一般ニ知ラシメ消防ニ盡力スヘシ尤消防人足來集スルニ至レハ勉メ

テ亂雜及竊盜ヲ防クノ注意ヲナスヘキ事  
但一般ヘ通報鳴鐘等ノ儀ハ警査掛ノ差圖ヲ受クヘキ事

第十九條 怪シキ者ト見認ルトキハ取札ノ様子ニ依リ詰所ニ連行シ警査掛ニ報知シ差圖ヲ受クヘシ倉  
卒ノ取計アル間敷事

第二十條 非番タリトモ合圖アルカ又ハ臨時呼出ヲ受クレハ迅速其場ニ馳付ヘキ事  
第二十一條 各職場ノ鍵毎夕警査掛ヨリ受取り置キ翌朝各鍵番出頭之際相渡スヘキ事

第二十二條 巡回中萬一傍人ノ嘲哂スルコトアルトモ耻辱ト思フヘカラス耐忍シテ相當ノ處置ヲ爲シ  
決シテ憤怒ノ色ヲ顯シ爭鬪箇間敷振舞等致ス間敷事



- 第二十三條 構内ニ於テ困難事ノ出来スルヲ見聞セハ力ヲ盡シ之ヲ防護スヘシ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ懇切ニ取扱速ニ警査掛ヘ通告シ差圖ヲ受クヘキ事  
但職場一覽其他ノ者ト雖モ本文ノ如キハ懸篤ニ取計フヘシ
- 第二十四條 構内ノ荒蕪及ヒ不潔物アルハ之ヲ警査掛ニ報告シ差圖ヲ受ケ掃除ノ手續ヲ爲スヘキ事
- 第二十五條 職工人足等鬪爭暴動等ノ變事ニ至ラントスル勢アラハ取鎮ムヘシ萬一其場ニ於テ取鎮ムカタクトキハ臨機取押ヘ詰所ニ連行シ警査掛ヘ報告シ指圖ヲ受クヘキ事
- 第二十六條 犯人ヲ取押ヘシトキハ其始末ヲ筆記シ證據情狀逐一警査掛ヘ報告スヘキ事
- 第二十七條 他行中ト雖モ出火等非常ノ事故アルヲ傳聞セハ速ニ歸所スヘキ事
- 第二十八條 各職場一覽ノ者等群集スル節ハ申合亂雜ヲ防制スヘキ事
- 第二十九條 職場一覽人其他ノ者等酒ニ酔ヒ失心スルアラハ注意シテ穩ニ取扱一覽人ハ其旅店ノ主人ヘ引渡シ其ノ他ノ者ハ同行ノ者アラハ引渡シ獨行ノ者ハ詰所ヘ連行シ醉ノ醒ルヲ待チ歸スヘキ事
- 第三十條 構内ニ變死人等見當ルトキハ速ニ警査掛ニ注進スヘキ事
- 第三十一條 職場一覽人等ヲ取扱ニハ温和ヲ旨トシ辨ヘナキモノハ別シテ穩ニ取扱決シテ凌辱ヲ加ヘ手荒ノ處置之レアル間敷事
- 第三十二條 若シ取調等ノ爲メ市在ノ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ致スヘク尤公私ノ分ヲ守リ狎狎敷儀等決シテ之有間敷事
- 第三十三條 構内へ出入ノ商人ヨリ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ致ス間敷事
- 第三十四條 犯罪人ヨリ取上ケタル物品ハ其事由ヲ詳記シテ物品ト共ニ警査掛ニ差出スヘキ事
- 第三十五條 犯罪人ト見認タルモノヲ奔逃シテ外國人ノ住居内ニ匿入スルトキハ其周圍ノ各路ヲ遮斷シ警査掛ニ報告シ差圖ヲ受クヘキ事
- 第三十六條 構内ニ於テ外國人殺傷或ハ割盜放火等顯レタル罪ヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカタキトキハ其人ヲ其場ニ引キ留メ置キ警査掛ヘ報知シテ指圖ヲ受クヘキ事

- 第三十七條 構内ニ於テ外國人妨碍ヲ爲シ或ハ制禁ヲ犯サントスルハ之ヲ制シ猶ホ犯ス者ハ其住居氏名國名等ヲ問キ名刺ヲ受取り其始末ヲ詳悉警査掛ヘ報告スヘキ事
- 第三十八條 現行犯罪ノ者之レアルトキハ直ニ取押ヘ警査掛ニ報告シ指圖ヲ受クヘキ事
- 第三十九條 艦船ノ入出灣入出渠スルアラハ艦船名及入出時刻ハ外國艦船ヲ入出灣簿ニ記載シ事務警査兩掛ヘ報告スヘキ事
- 第四十條 構内狂犬アツテ人ヲ妨害スルトキハ之ヲ殺スヘシ飼主アルハ屍ヲ其主ニ渡シ外國人等ノ畜犬ハナルヘク之ヲソノ主ニ報知シ取締ヲナサシムヘキ事
- 第四十一條 同勤中一心同體ト相心得平常謙和温順誠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務怠ラサル様互ニ獎勵スルヲ要ス
- 第四十二條 同役タリトモ犯則ノ者アラハ速ニ警査掛ヘ報告スヘキ事
- 第四十三條 各職場及ヒ倉庫等退散後戸扉ノ開放セシコト等アラハ速ニ警査掛ニ報告シ器械物品紛失ノ有無ヲ改メ之カ鎖閉ヲナスヘキ事
- 第四十四條 構内燈臺用ノ油及ランプ等ノ出納ヲ管理シ燈臺番人ヲシテ點燈及ヒ該臺掃除等ヲ爲サシムル事
- 第四十五條 火藥庫守衛一人順番相勤ムヘキ事
- 第四十六條 非番タリトモ青樓ニ登ル間敷事
- 第四十七條 出勤中讀書及ヒ習字ハ勿論職務外ノ所業決シテ致ス間敷事  
但非巡中新聞紙ニ限リ默讀ヲ許ス
- 第四十八條 非番タリトモ酔體ニテ構内へ出入致ス間敷事
- 第四十九條 構内へ出入スルモノ諸官員及ヒ等外吏並諸職工人足山勤中ノ出入ハ且ツ艦船乗組ノ者ハ從前ノ定規アリハ且ツ艦船乗組ノ者ハ山勤中ノ出入ハ且ツ艦船乗組ノ者ハサレモ在艦船人ノ外ハ晝間ト雖モ入出門毎ニ姓名事故必ス聞糺シ通行セシムヘキ事  
員判然タルモノ

- 第五十條 商賈ノ構内へ出入スル者ハ本人姓名事故聞糺シ出門スル節ハ通門證ト携帶品ト照査ノ上  
出門セシムル事  
但三ヶ保浦碇泊ノ艦船ヘ日々出入スル八百屋肴屋洗濯屋等ノ如キモ入門毎ニ一應聞糺シ出門スル  
節ハ所持ノ物品相改メ通門セシムヘキ事
- 第五十一條 婦人ノ構内へ出入スル者諸官員以下諸職工人足ニ至ル迄ノ辨當運ヒ竝自家使等ノ外一切  
出入爲致間敷事  
但職場一覽人ハ此ノ限ニラス
- 第五十二條 傳婢竝割烹店及貸座敷等ノ男女一切構内へ出入爲致間敷事
- 第五十三條 構内ニ於テ放歌スル者ハ相制シ若シ制詞ヲ聞入レサル者ハ本人ヲ警査掛宿直所ヘ連行シ  
該掛ノ指圖ヲ受クヘキ事  
但威權箇間敷振舞等決シテ有之間敷事
- 第五十四條 構内ニ於テ頭巾或ハ手拭等ニテ面貌ヲ蔽隠スル者ハ相制スヘキ事
- 第五十五條 表門ヨリ裏門ヘ私用ニテ通抜ケ致サセ間敷事
- 第五十六條 各自出勤中他所ヨリ私用ニテ尋來ル者ハ假令懸意ノ者タリトモ兩門竝詰所等ヘ一切立入  
ラセ間敷事
- 第五十七條 諸官員竝家族等遊歩ノ爲メ構内へ出入スル者ハ差留ムヘキ事
- 第五十八條 艦材煉化石火山灰石灰石灰石竝商賈納品等ノ運輸船發着岸ノ節ハ總テ精密點檢ヲ遂ケ水  
主姓名及ヒ某月日某某ノ月日出帆某改濟等ヲ簿記シ該簿ハ日々警査掛宿直ノ點檢ヲ受クヘキ事  
但埃取捨竝入渠艦船有之節ノ食物商賈船等モ同斷ノ事
- 第五十九條 各職场内ニ於テ犯則ノ者看認ムル節ハ掛技術官ヘ一應相斷リ本人警査掛當直所ヘ連行ス  
ヘク職場外ニ於テ同斷ノ節ハ直チニ連行スヘキ事
- 第六十條 當番中非守門非巡同等ノ節晝間ハ該詰所ヘ出頭スヘキ事

- 第六十一條 兩守門ハ正面入口ヲ閉鎖スヘカラス必ス正面ニ向テ監門スヘキ事
- 第六十二條 巡同中或ハ出勤退散ノ際兩門竝見張所等ヘ私事ノ爲メ立寄ルコト一切不相成候事
- 第六十三條 守門巡同見張中吸煙スヘカラサル事  
但非守門非巡同等ノ節吸煙スルトキハ休息所ニ於テ吸煙スヘキ事
- 第六十四條 各自出勤退散ノ節ハ警査當直ノ面前ニ於テ勤怠録ニ捺印スヘシ何等ノ事故アルモ決シテ  
他人ニ托シ捺印等スヘカラサル事
- 第六十五條 守門巡同見張番等ニ赴クトキハ午前八時ヨリ午後十時マテノ間ハ出所ノトキ警査當直ノ  
面前ニアル巡同簿ニ姓名ヲ自記シ歸所ノトキ捺印シ同區ノ景況ヲ届クヘキ事  
但午後十時ヨリ翌日午前八時マテハ取締詰所ニ於テ本文ノ通タルヘシ
- 第六十六條 巡同ハ出先キニ於テ交代スヘキ事  
但取締ハ各巡吏ノ交代時間巡番ノ錯雜混亂ヲ生セス時間ノ遲速ヲキ様注意スヘシ時機變換スルト  
キハ必ス警査當直ノ許可ヲ受クヘシ決シテ私ニ變換前後スル等ノ事アルヘカラス
- 第六十七條 取締ハ午後七時ヨリ十時マテ休息ヲ許ス事
- 第六十八條 各見張守門巡區ニ赴クトキ竝出テ先キ交代歸所ノトキ共私用ニテ脇道ニ立寄時刻遲延致  
スマシク事
- 第六十九條 小海機械納屋ノ儀晝間兩度夜間三度三區巡同ノ者巡見スヘキ事尤巡同簿ヘ其巡視ノ旨ヲ  
記載スヘキ事
- 第七十條 詰所出頭中容儀ヲ正シクシ高聲雜話等スヘカラス其他不急ノ談論ニ長スヘカラサル事
- 第七十一條 非巡同非守門等ニテ詰所出頭中帽竝外套雨衣等ハ兼テ定メアル位置ニ掛ケ置クヘシ決シ  
テ亂雜ノ儀有之間敷且ツ詰所ヲ離ルトキハ暫時タリトモ脱帽スヘカラス
- 第七十二條 出頭中晝間ハ食用或ハ吹烟ノ外猥ニ休息所ニ立入ルヘカラス夜間ハ非巡同非守門中各自  
休息勝手タルヘシ

但夜間非巡回非守門中ト雖モ公用關クヘカラサルトキハ警査掛當直ノ指揮ニ可從事  
第七十三條 諸職工等退散ノ節ハ非巡回非守門ノ者三名職工溜場ヘ出頭警査當直ノ指揮ヲ受ケ繰出シ  
方可致事

第七十四條 物品運輸船其外發着岸ノ節點檢ノ儀ハ右持區見張或ハ巡回ノ者見掛ケ次第相改其詳細ヲ  
手帳ニ筆記シ警査當直所ニ備フル船改ノ簿ニ記載シ捺印ノ上當直ヘ可屆事

第七十五條 夜間タリトモ市店ニ命シ食物等ヲ持參セシムル等ノ事一切不相成事  
第七十六條 構内一般取締向キノ儀ハ兼テ定規アル條款ハ勿論其他臨時ノ儀等都テ警査當直ノ指揮ニ  
可從事

第七十七條 非巡回非守門ノ者ハ諸出門品帳簿記載方取扱可致事  
但各課各掛等ヨリ出門證持參スル節ハ現品調査該證記載ノ儘ヲ帳簿ニ謄寫シ取扱ヲ爲シタル者小  
印ヲ捺シ警査掛ニ於テ檢査ノ割印ヲ受ケ該證持參ノ者ヘ相可渡事

第七十八條 門監ハ出門證ト物品トヲ勘査シテ通門差許スヘク該證ヘハ取扱タル者捺印ノ上警査掛ヘ  
可相納事  
但通門證ト物品名數等符合セツルカ警査掛ノ捺印無之トキハ通門致サスマシク尤職工道具箱ノ如  
キハ小道具類一々該證ニ記載無之分ハ該箱内細密檢査ノ上通門セシムヘシ萬一疑敷品有之節ハ警  
査掛當直ノ指揮ヲ受クヘキ事

第七十九條 毎朝警査掛ニ於テ人足點檢ノ節ハ職工人足督責專務ノ巡更場所出頭當直ノ指揮ヲ受ケ人  
員點檢及鑑札渡方可致事

第八十條 職工人足怠業督責專務ノ巡更ハ寄セ鳴鐘出勤掛リ鳴鐘ヨリ停業迄間斷ナク職場外竝艦船  
修復ノ場所等ヲ巡視シ怠業ノ者アラハ督責ヲ加ヘ速カニ業ニ就カシメ其ノ怠業ノ始末及時間本人姓  
名職場名等一々手帳ニ留メ置キ職工人足怠業始末摘要ニ記載シ毎日警査掛ニ報告スヘキ事

第八十一條 督責專務巡更ニ於テ怠惰ノ者督責致シ候節萬一抵抗スル等ノ儀アラハ本人警査掛當直所  
ヘ連行始末當直ヘ届出ツヘキ事

第八十二條 督責專務ノ巡更ハ非常道具格納所一切ノ取締ヲ專任シ警査掛ノ指揮ヲ受ケポン付定人  
足竝船渠人足分配方及毎土曜日該人足ヲシテポン取扱演習ヲ指揮スヘキ事  
但毎日ポン付定人足ヲシテ構内一般掃除及ポン磨キ方ヲ爲サシムル事

第八十三條 督責專務ノ巡更ハ非常道具格納諸物品ノ出納ヲ管理シ毎月警査掛ノ調査ヲ受クヘキ事  
第八十四條 督責專務ノ巡更ハ請負人使役職工人足ト雖モ怠惰ノ者ハ督責ヲ加ヘ其怠業始末竝本人姓  
名及何某使役等ノ儀ヲ怠業摘要ニ記載シ警査掛ヘ報告スヘキ事

第八十五條 督責專務巡更ハ毎朝警査掛ニ於テ臨時人足點檢ノ節該掛ノ指圖ヲ受ケ人撰及ヒ鑑札渡方  
可致事

但退散ノ節本文鑑札受取方可致事  
第八十六條 各職場内視察巡更ハ掛リ鳴鐘出頭各自持場内ヲ間斷ナク回視怠業者ヲ督責シ場内諸般ヲ  
視察スルモノトス

但シ退散ノ節各自受持職場内其日ノ景狀警査掛當直ヘ可相屆事  
第八十七條 各職場ヲ區劃シテ五區トシ場内視察巡更毎區一名トス

職場區劃

第一區	製網掛	船具掛	建造	築	端船掛
第二區	船蠶掛	鋸鉤掛	滑車掛	模製掛	
第三區	煉鐵掛	整飾掛	填隙掛	船渠掛	築造掛
第四區	組立掛	旋盤掛	鑪盤掛	鑄造掛	
第五區	製罐掛	製帆掛			

一構内巡回遊各所監守規程

表門 一名		裏門 一名		巡回 二名		見張 二名		屯所 二名	
但正午十二時一同交代スヘキモノトス									
表門 甲		休息 戊		裏門 戊		倉庫見張 巳		休息 甲	
倉庫見張 乙		同 巳		倉庫見張 巳		同 巳		休息 甲	
三ヶ保見張 丙		同 庚		三ヶ保見張 庚		同 庚		同 丙	
巡回 丁		同 辛		巡回 辛		同 辛		同 丁	
但二時間ニシテ順次交代スヘキモノトス									
外ニ									

火藥庫監 一名

但一晝夜ニシテ交代セシム

一巡吏總員二十八名トス

各職場内ヲ視察スル者五名 但日勤

構内職場外並艦船修復等各工ノ場所ヲ巡視スル者三名 但日勤

構内一般巡視及兩門火藥庫等監守其外日々警護ニ涉ル諸般ノ事務ヲ辨理スル者九名 内取締一名

但本文總員十八名ニシテ交代

十三年四月二十四日巡吏  
二名ヲ増員ス

巡吏會議假規則

第一條 每月三日巡吏總員ヲ會集當番ノ者見張守門諸所出頭一員ヲ除クシ取締ノ事務ヲ審議討論シ一和協同ソノ職ヲ盡

サシムルヲ常例トス

但臨時休會スル儀モアルモノトス

第二條 警査掛會長タルヘキ事

第三條 各員建議ノ可否ヲ決スルハ同論ノ多キニ依據スヘシ

第四條 各員建議スル事件ニ付會議ニ於テ可ト決スルト雖モ實地施行スルト否ハ本課ニ於テ之ヲ裁ス

ヘシ

第五條 建議セント欲スルモノ議案ヲ會長ニ出ストキハ會長之ヲ展讀シテ其議事ヲ始ム建議者尙ホ其

旨趣ヲ貫徹センカ爲メ總員ニ之ヲ辯明セント乞フ者ハ會長展讀ノ後之ヲ陳述セシム

第六條 發言ノ前後ハ官等ノ順次ニヨルヘシ

但一議ノ論決ヲ待スシテ他事ヲ發言スヘカラス

第七條 一員發論中ハ各員默聽スヘシ

第八條 甲員乙員ニ向ヒ質問セント欲セハ會長ニ向ヒ演述スヘシ乙亦之ニ答ルモ會長ニ向テ發言スヘ

シ

第九條 事ヲ議スル虚心平易無私ヲ旨トス規則ヲ亂ル者ハ會長之ヲ警メ尙ホ犯ス者ハ直チニ會席ヲ退

去セシム

第十條 會長ノ職務ハ會議ノ規則ヲ掌リ各員ノ建議ニ就テ衆議ヲ興シ其立論ノ旨趣ヲ熟考シ同數兩立

ノ衆議ヲ判定シテ自己ノ論ヲ發スルコトヲ得ス尤巡吏規則上ノ疑問ニ至ラハ直チニ之ヲ辯明スヘシ

第十一條 會議ノ時間ハ午前九時ヨリ正午十二時迄三時間ヲ限リトス

第十二條 會議中雜話ハ勿論吹烟等スヘカラス

第十三條 會長臨席スルトキハ各員起テ禮ヲ爲スヘシ

第十四條 病氣等ニテ闕席スル者ハ同僚中へ代理ヲ托シ其旨ヲ届出ツヘシ  
巡吏召募規則

- 第一條 召募合格ノ者
- 一 年齡二十歳ヨリ四十歳迄
  - 一 一通リ讀書差間ナキ者
  - 一 普通書翰往復ニ差間ナキ者
  - 一 三箇年以上勤續差間ナキ者
  - 一 職務ニ害アル疾病ナキ者
  - 一 性質耐忍ニシテ酒癖ナキ者
  - 一 保證人アル者
  - 一 破廉耻及ヒ賍罪等ヲ犯セシトナキ者
  - 一 身丈五尺以上ノ者
- 第二條 巡吏志願書
- 一 私儀造船所巡吏奉務仕度御検査奉願候也

前書願ノ趣相違無之候條與印仕候也

寄留人  
有書式  
有書式同前

何府縣何郡何番地  
士族及三男  
平民某厄介  
何府縣何郡何番地寄留

志願人 姓 名 年 名 印

保證人 姓 名 印

年號月日

有書式同前

戸長 姓 名 印

横須賀 造船所 御中

第三條 巡吏奉職受書並保證書式  
奉職受書式

今般御試験相濟何等巡吏拜命仕候然ル上ハ御規則ヲ遵奉シ專ラ職務勵精可仕候仍テ御受書如此候也

横須賀造船所巡吏

年號月日

姓 名 印

右ノ者巡吏志願ニ付御試験ノ上何等巡吏拜命仕候然ル上ハ御規則ヲ遵奉セシメ本人身分ニ付萬事引受可仕候仍テ保證狀如此候也

年號月日

有書式前ニ同シ

保證人 姓 名 印

横須賀 造船所 御中

第四條 巡吏志願ノ者ハ警査掛二人醫師一人立會第一條ニ照ラシテ検査シ表ニ記載シテ所長ニ呈ス

第五條 華士族平民ヲ論セス検査ノ上合格ノ者ハ四等巡吏ニ充ツヘシ

第六條 試験畢リテ奉職シタル者ハ履歷簿式ニ照シテ記載セシメ之ヲ警査掛ニ留メ置キ其進退功勞アル毎ニ記載スヘシ

用紙美濃界紙  
巡更履歷簿

召募番號

生國

住所

實父

祖父

前職務

職務進退

何年何月何日何等巡吏

功勞

褒賞

勤怠

處罰

巡更試驗體格運動次序

第一

一雙腕上下

五分間

第二

一同旋轉

前後 共五分間

第三

一趨歩

五分間

右

用紙美濃界紙

何縣府  
何士族

何

何族

誰

何年何月何歲何月

巡更検査表

姓名

風族職業

生國

住所

年齢

保證姓名風族居所

身ノ丈

讀書筆蹟

賞罰有無

検査醫師官姓名

右無病壯 巡更職適當

年號月日

何某

庶務課印

通譯掛取扱假順序

第一項

一外國人ヨリ送致ノ横文及ヒ外國人ヘノ送書案ヲ事務掛ヨリ廻付シ來ルトキ其來書ハ之ヲ翻譯シ送書案ハ之ヲ横文ニ譯シ清書校合シテ其誤謬ナキヲ證スル爲メ主任者原案ニ校正ノ二字ヲ記シ押印シテ該掛ニ送付スルモノトス

第二項

一官廳備付圖書ノ書目ヲ製シ出納ヲ掌リ借覽ヲ請フモノアルトキハ例規ニヨリ所長檢印濟ノ借用證ヲ掌領シテ貸渡スモノトス

一各課掛ニ於テ某シノ圖書必要ノ旨申入レアルトキハ其事故ヲ詳記シ本課ヲ經所長ノ檢印ヲ乞ヒ倉庫課ニ回付シテ注文シ其ノ購入シタル圖書該課ヨリ送付シ來ルトキハ書目ニ記入シ造船所文書房印ヲ捺シ例規ニ因リ要主ニ貸渡シノ手順ヲ爲スモノトス

第三項

一外國人來所スルトキ或ハ入灣ノ外國艦船等通辯ノ儀其主務ノ報告ニ應シ處辨スルモノトス

第四項

一造船事業ニ關ル洋籍及外國新聞等ヲ覽閱シ其工業上ニ必要ナル件ハ之ヲ譯述シ本課ヲ經所長ノ閱ニ供スルモノトス

但各課掛ニ於テ必要ノ件翻譯ヲ申入ルトキハ其需ニ應シ譯述スルモノトス  
編纂掛取扱假順序

第一項

一創設以來ノ沿革ヲ編年蒐輯シ諸公文ヲ事務掛ニ領受シ之ヲ編纂シテ文簿ノ書目ヲ作り收藏保存簿書出納等書室一切ノ事ヲ整理スルモノトス

一成規定例ノ部門ヲ分チ類集編纂シテ各課掛ノ參照ニ供スルモノトス

第二項

一各課掛處務ノ報告ヲ得定則ニ依リ年月報ヲ調整シ甲月分ハ乙月二十五日其ノ計費ニ係ル分ハ三箇月後レ一月分ヲ製表事務掛ニ廻付該掛ニ於テ進達副書案ヲ作り所長檢印濟後ヲ進達ノ手順ヲ爲スモノトス

第三項

一官吏以下ノ進退出入ニ關スル書類事務掛ヨリ送り來ルトキ之ヲ本人ノ履歷簿ニ登記シ職員錄ノ名刺ヲ修整シテ後該書ニ調印返付スルモノトス

機裝課取扱假順序

第一項

一新艦機裝ニ臨ミ其器具一切諸帆及ヒ甲板上ノ屬具一切或ハ號令座楫取場ノ位置及車或ハ諸至倉庫彈藥庫銃砲ノ裝置等ヲ調理スルトキ所因ニテ製出スヘキ分ハ所長ノ檢印アル證書ヲ以テ其主務ノ課ニ送り製造或ハ附著セシメ所外ノ廳ニ關スル部分ニ於テハ書面ヲ以テ申出其指令ヲ受ルモノトス

一右機裝整頓シ其所轄ヘ引渡ノ期ニ臨テ同艦ヘ整備スヘキ品具ハ書面ニテ申出各所管ノ廳ヨリ受取品物ハ主船局ノ倉庫ヨリ兵什ハ兵器局之ヲ艦船目錄ニ掲載スルモノトス  
ヨリ測量器ハ水路局ヨリ受取ノ類ニテ艦船目錄ニ掲載スルモノトス  
但常用トシテ月々倉庫ヨリ請取ルヘキ支消品ノ類ハ此限ニ非ス

第二項

一日常需用品ノ類ハ課印ヲ捺シタル證書ヲ以テ其課掛ヨリ受取り而シテ月末ニ至リ其月分ノ渡品帳ト受取諸書ト倉庫課ヨリ送り來ルトキ證書ニ照シテ渡品帳ノ品名上ニ小印シ渡品帳ハ倉庫課ニ返付シ證書ハ其儘留置クモノトス  
一課内ニ器具ヲ増備セントスルトキハ受取證書ニ所長ノ檢印ヲ受ケ其主務ノ課掛ニ送り現物受取ルモノトス

造船課取扱假順序

第一項

一艦船新製或修復且ツ屬具ノ改造修理及ヒ他方ヨリ注文ノ製造品等本部ニ係ル一切ヲ工事並ニ所管部  
品ノ貸渡等所達ヲ受ケ主務ノ各掛ニ分賦處辨セシメ主管ノ諸事業ヲ監査シ其疎漏誤謬ナカラシムルモノトス

一艦船修覆及屬具改造或ハ他方注文品等其ノ書面ヲ庶務課ヨリ廻付シテ其ノ修理改造可否ノ意見著手  
ノ都合等來問アルトキハ直チニ點檢ノ上實況ヲ詳記シテ回報スルモノトス

第二項

一船渠出入ノ先後及ヒ艦船灣内繫留ノコトヲ其主務ニ指示シテ繫船セシムルモノトス  
一艦船修復箇所ノ内乗組ノ手ニ於テ取扱ノ爲メ其ノ物品ヲ請求スルトキハ所達ヲ受ケ各主務ニ通達シ

十二年十二月二十八日  
船渠ノ部第一項ヲ改正ス

一 現品渡付ヲ爲サシムルモノトス  
一 修復艦船海軍内外ヲ間ハス修理整備ノ上各主務ニ於テ其ノ入費ニ係ル調書ヲ作ラシメ然シテ計算課統計掛ニ廻付スルモノトス

一 他方ヨリ注文ノ製出品取扱同上

一 内外人民所有ノ船舶ハ其修理調フト雖モ概算金納濟ミノ旨計算課ノ通知アルニアラサレハ本船ヲシテ出灣セシメサルモノトス

但概算金納付濟ノ來報ヲ得テ之ヲ庶務課ニ通明シ本船ニ出灣ヲ達スルモノトス

第三項

一 課用ノ常用品ハ證書ト物品受取帳ト割印シテ證書ハ倉庫課ニ送り物品ト引替受取ルモノトス  
一 毎月末ニ至リ其月内受取リタル諸品ノ證書ト渡品帳ヲ倉庫課ヨリ送り來ルトキ證書ニ照ラシテ渡品帳ノ各品名上小印シテ渡品帳ハ倉庫課ニ返付シ證書ハ其儘受取リ置クモノトス

一 每一箇月ノ受取品ヲ區別シテ表ヲ製シ課名ノ下ニ掛ノ内小印シ月々之ヲ倉庫課ニ送ルモノトス

船臺掛取扱假順序

第一項

一 艦船ヲ新製スルニ臨ミ原圖ニ基キ先ツ木形ヲ造リ入用ノ木材ハ艦材課ヨリ釘及ヒ金物等ハ倉庫課ヨリ各々證書ヲ以テ受取ルモノトス

第二項

一 毎朝出業セシ職工ヲ調査シ其人名ヲ出業帳ニ記シ置クモノトス

一 出業ノ工手職工以下ニ各々工業ヲ分附シ及ヒ工業用諸器具ヲ調査シテ之レヲ各自ニ配付スルモノトス

一 日々退鐘ノ後職場内及ヒ製造中ノ艦船内ヲ巡視シ遺品火失等ヲキヤ内外ヲ點檢シ終テ錠鎖シ鍵ハ警査掛當直ニ渡シテ後退去スルモノトス

第二項

一 差急キノ工事アリテ早出及ヒ夜業セシムルトキハ其旨課長ヲ經テ所長ノ許可ヲ受ケ其ノ姓名ト時間ヲ早出居殘簿ニ記載捺印シテ警査掛ニ通報スルモノトス

第四項

一 翌朝使用ノ人夫將船等ハ其人員艘數ヲ 人足傳 馬船 申出簿ニ記載押印シテ前日退鐘前ニ警査掛ヘ申入置クモノトス

第五項

一 職工出業日數毎月兩度之レヲ統計シテ警査掛ニ廻シ對查濟ノ節調印シテ計算課ニ廻シ貨錢受取ラシムルモノトス

一 工手職工ノ工數並ヒ諸向ヨリ受取リタル物品等一箇月分ノ遣拂ヲ取調ヘ各艦船ヲ區分シテ月表ヲ製シ其受得タル課ノ渡高ト對查濟ノ上之レヲ調印シテ統計掛ヘ送付スルモノトス

第六項

一 不足ノ工具アリテ之レヲ増サントスルトキハ其申出書ニ該掛班頭ノ者調印シテ所長ノ檢印ヲ受ケ之レヲ倉庫課ニ送テ該品ヲ受取モノトス

但在來品ノ損シタルトキ新品ト引換或ハ修理スルトキハ申出書ニ課長ノ檢印ヲ受ケ其主管ノ課ニ送ルモノトス

一 工具職工ノ柄或ハ臺木等公業ノ爲メ毀損セシヲ確認スルトキハ倉庫課ニ照會シテ其代品製作スヘキ相應ノ本品ト毀損ノ現品ト引換本人ニ附與スルモノトス

一 右ノ代品製造セントスルトキハ先ツ其旨ヲ警査掛ニ通告シテ晝休ミ時間中製作セシムルモノトス

第七項

一 工手職工ヨリ願届等ノ書面ヲ出セシトキハ先ツ事實ヲ調査シ全ク相違ナキニ於テハ之レニ添書調印シテ警査掛ニ送致ス



一 諸布告布達等ヲ工手職工一同へ告諭解示スルモトス

第八項

一 職工志願ノ者先ツ試験ノ爲メ出業セシムル節ハ之ヲ入業帳ニ記載シテ課長ニ出シ検印ヲ受ケテ之ヲ庶務課へ送り出業證書ヲ受ケ本人ニ授付スルモノトス

但無給試験ノ内ハ證書ヲ受クルコトヲ爲サス

一 右試験済ノ節其技術ノ巧拙ヲ課長ニ申出賃錢ヲ定メ又之ヲ入業帳ニ記シテ課長ノ検印ヲ受ケ入業願書ヲ添テ庶務課ニ出シ更ニ入業證書ヲ受ケ本人ニ授付スル前條ニ同シ

但退業セシムル節モ其事實課長ニ具陳シ及ヒ退業帳ニ記シテ検印ヲ受ケ庶務課ニ送り除名證書ヲ受ル等凡テ入業ノトキニ同シ

一 右入退業帳ハ警査掛ニ格納シ其ノ申出ノ時々受取ルモノトス

一 日雇職工ノ内業前被群ナル者及ヒ若年ニシテ業前モ相應ニテ後年上達ノ見込アル者ハ之ヲ課長ニ申出例規ニ照ラシ志願書者ヲ出サセ之ヲ庶務課ニ出シ所長許可濟定雇職工許可ノ證ヲ庶務課ニ受ケ之ヲ本人ニ附與ス其内若年ノ者ハ修業職工トシ毎半日賃舍ニ於テ傍ラ就學セシムル者トス

但定雇職工願出手順ハ定雇職工規則ノ通

一 修業職工願ハ雛形ノ通り添書押印シ之ヲ賃舍ニ出シテ後修業職工申付ノ辭令ヲ庶務課ヨリ受ケテ本人ニ授付スルモノトス

但免セラレ、節モ凡テ本文ノ手順ニ同シ

一 定人足ハ庶務課ノ管轄タルカ故之カ入退ヲサントスルトキハ該課ニ申入ル、モノトス

但定員ヲ増ントスルトキハ申出書ヲ作り課長ヲ經所長ノ裁可ヲ請テ該課ニ申入ルモノトス

一 工業繁多ニシテ臨時職工ヲ雇上ルトキハ臨時職工雇入帳ニ記載シテ課長ノ検印ヲ受ケ庶務課ニ出スモノトス

但該帳ハ警査掛ニ格納スルモノトス

一 業生工手ハ一箇年一度職工ハ一箇年二度ツ、其ノ業前上達ト退歩トヲ審案シ傍ラ勤怠ヲモ交加商量シテ細歩ノ見込ヲ課長へ申出俸給ノ増減ヲ所長ニ乞フモノトス

但定人足ハ其見込書ヲ庶務課ニ出シテ増減ヲ得ルモノトス

一 等外技術吏及職工ノ業前巧拙表ト就業上ノ勤怠表トヲ製シ五月ト十一月ト毎歲兩次所長ノ檢閲ニ供スルモノトス

一 每週工業表ヲ調製シテ庶務課ニ出シ所長ノ檢閲ニ供スルモノトス

第九項

一 凡テ職工人足ノ内工業中過テ被傷スルトキハ添書シテ醫室ニ送り治療セシムルモノトス

一 業生工手以下出業中工業ノ爲メ出入門或ハ病氣等ニテ刻限前退散セシムルトキハ通門帳ニ記シテ警査掛ニ出シ鑑札ヲ受ケ門衛ニ出シテ出入セシムルモノトス

但物品携帯シテ出門ノトキモ本文ニ同シ

一 定雇職工病氣ノ節六日迄ハ本人届出ノ旨添書ヲ以テ警査掛マテ届置キ七日以上ハ本人届書差出サセ十五日以上ハ醫證相副願出サセ添書調印シテ同掛ヘ差廻スモノトス

但無據事故アリ他行スル者ハ日數ノ多少ニ拘ハラズ書面ヲ以テ願出サスルモノトス

一 業生工手及ヒ定雇職工忌服ノトキハ工業ノ都合ニ由リ除服ノ申出ヲ爲スモノトス

但定雇職工ハ指令ヲ得テ掛職場ヨリ本人ニ達スルモノトス

第十項

一 業生工手以下其掛技術官ノ令ヲ用ヒカルカ或ハ工業ニツキ不都合アル等ノトキハ之ヲ警査掛ニ通告シテ本人ヲ處分スルモノトス

一 斷リナクシテ出業セサル者アレハ之ヲ警査掛ニ通告スルモノトス

第十一項

一 當掛ニ於テ使用スル工具類ハ其ノ製作ヲ爲シ得ルモノト雖モ必ス倉庫課ニ注文シテ現品ヲ交收スルヲ成規トス

填隙掛取扱假順序

第一項

一 管掌ノ事業ニ付主務ノ課掛ヨリ工業ノ通達アルトキ物品ハ證書ヲ以テ倉庫課ヨリ受取り著手スル者トス

第二項

但船渠戸船ノ填隙並新艦水卸ノ節豕油船臺へ塗方等モ亦所管トス

一 以下船臺掛ニ同シ

船渠掛取扱假順序

第一項

一 艦船ノ船渠出入ヲ本課及機械課ヨリ通達アルトキ戸船ノ開閉及ヒ渠中ノ水ヲ干満セシメ渠内船艦ノ傾斜セサル様勾梁ヲ縮メ或ハ放シ方等ノ業ヲ爲且ツ戸船ノ位置ニ復スルトキ障碍物ノ有無ヲ検査ノ爲メ水潜ノ業ヲ爲サシムル者トス

但該船ヲ渠中迄曳入レ或ハ曳出スハ船具掛マタ戸船ノ摺合セ填隙等ハ填隙掛ノ所管トス

一 艦船修理ノ爲メ管掌ノ事業ニ付需用スル金物等ノ如キ他掛ニテ製出スヘキ物ハ直ニ其掛ニ證書ヲ以テ注文シ落成ノトキ受取り附著スル者トス

第二項

一 以下船臺掛ニ同シ

製帆掛取扱假順序

第一項

一 管掌ノ物品裁縫方ヲ主務ノ課掛ヨリ證書ヲ以テ注文アルトキハ其用品ハ倉庫課ヨリ受込ミ各分配シテ著手セシムルモノトス

第二項

一 以下船臺掛ニ同シ

製綱掛取扱假順序

第一項

一 生麻ヲ倉庫課ヨリ受取<sup>證書</sup>リ之ヲ一人毎ニ「四十キロ」乃至「四十六キロ」ツ、ヲ分配シ<sup>備キ時間ノ長短ニ因リ區別アル</sup>トス<sup>トス</sup>停業ノ後其裂キ上ケタルヲ三等ニ區別シ屑減等ヲ掛改メ又裂麻及ヒ屑麻ヲ以テ白製瀝青製ノ品トナスモノトス

一 マニラ受取方等生麻ニ同シ但一人ニ付一日三十キロヲ制限トシ一ニ白打ニ製スル者トス

一 瀝青ハ證書ヲ以テ之ヲ倉庫課ニ受取ルモノトス

第二項

一 瀝青取扱關涉ノ手工職工ヲシテ毎月月頭毎土曜日退散鐘後瀝青ノ掃除ヲ爲サシムルモノトス

第三項

一 以下船臺掛第二項以下ニ同シ

船具掛取扱假順序

第一項

一 管掌ノ事業ニ付課掛等ヨリ通達アルトキ其用品ハ證書ヲ以テ倉庫課ヨリ受取り職工ニ分配シテ著手セシムルモノトス

但修復ノ艦船ヲ渠中ニ出入セシムルハ管掌タリト雖モ既ニ出入渠ノ後渠中ノ事業ハ凡テ船渠掛ノ管掌トス

第二項

一 小汽船ヘ手工職工ヲ乗組交替セシムル凡九十日ヲ以テ一期トスルト雖モ場内工業ノ都合ニ寄り或ハ日數ヲ伸縮スルコトアルモノトス

一 小汽船ハ當掛ノ所管タリト雖モ他方貸渡竝ヒ曳船等ニ發船ノ時刻等ハ庶務課ノ管掌スル所トス故ニ

同課ヨリ本課ニ通達シ本課ノ指示ニ應シ之ヲ乗組工手ニ令シテ發船ノ準備セシムルモノトス  
 一 小漁船及ヒ上陸揚箱船棧橋ノ修覆ヲ要スルトキハ申出書ニ課長ノ印ヲ受ケ之ヲ庶務課ニ出タス  
 一 重荷昇降器械ノ運轉及ヒ泥濘岩碎等ノ工業ハ必ス其課掛ヨリ申込ノ證書ヲ得テ著手スルモノトス  
 但他ニ貸渡シテ數日ヲ涉リ乗組ノ者交替セシムルトキハ届書ニ課長ノ印ヲ受ケ之ヲ庶務課ニ出タス

第三項

一 暴風波ノ節ハ晝夜ヲ問ハス速ニ出業シテ碇泊修覆ノ諸艦船及ヒ所轄ノ船艇ヲ擁護スルモノトス

第四項

一 以下船臺掛第二項以下ニ同シ

端船掛取扱假順序

第一項

一 新造艦船ニ屬スヘキ端船ハ機裝課ヨリ其餘艦船ノ分ハ一切本課ヨリ指示ヲ得テ新製或ハ修理スルモノトス

一 入用ノ木材ハ艦材課ヨリ物品ハ倉庫課ヨリ證書ヲ以テ受取り又入用ノ金物等ハ直チニ其主務ニ注文シテ製作ノ後受取り附著スルモノトス

但屬品タル「オール」「クラッチ」「ハーカ」「フラフ」「フラフストック」ノ五品ハ主船局分庫ヨリ備付モノトス

第二項

一 以下船臺掛ニ同シ

鋸鉋掛取扱假順序

第一項

一 木材ノ割斷竝ニ削平方及ヒ樁桁製作等ヲ各課掛ヨリ注文アルトキハ必ス其證書ヲ得テ著手スルモノトス

トス

第二項

一 鋸鉋器械ハ毎土曜日退鐘一時間前ヨリ運動ヲ止メ機械ヲ掃淨セシメ又毎月一回罐中ノ汚水ヲ悉ク射注シ新水ヲ盈タシム

一 機械損傷ヲ受ルトキハ申出書ニ課長ノ印ヲ受ケ庶務課ニ出シ更ニ所長ノ檢印ヲ受ケテ之ヲ組立掛ヘ廻シ補理ヲ受クルモノトス

一場内据付ケ大形汽罐毎月頭日曜日一度ツ、掃除ヲ爲サシムルモノトス

但月頭休日事業上ノ支障之レアル節ハ第二回目ノ日曜日トス

一場内据付ケノ小形汽罐ハ毎月頭土曜日ト十五日後初度ノ土曜日ト兩度掃除ヲ爲サシムルモノトス  
 但汽罐取扱擔任ノ者ノミ退散鐘後居残り施行セシムルモノトス

第三項

一 以下船臺掛第二項以下ニ同シ

滑車掛取扱假順序

第一項

一 滑車及ヒ諸彫刻物其外凡テ機軸ニテ製出ノ品類竝艦船及ヒ各課用ノ木製器具等注文ヲ受ルトキハ木材物品等證書ヲ以テ其課掛ヨリ受取り又入用ノ金物等ハ直ニ其主務ニ注文シテ製作ノ後受取り附著スルモノトス

一 工手職工機械ニ據リ工業ヲ爲ス者ハ毎土曜日退散鐘一時間前停業各自使用機械磨キ方ヲ爲サシムルモノトス

一 各課掛用机烟草盆、書函、手車、木札、職場道具、竝諸艦船内部油漆及ヒ金箔置其外手箱釣床棹衣服箱儀辰函等課掛ノ注文ニ應シ製出スルモノトス

第二項

一以下船臺掛ニ同シ

製圖掛取扱假順序

第一項

一各課ヨリ大小諸部ノ圖面ヲ要スルトキハ其ノ注文ニ應シ入用ノ物品ハ證書ヲ以テ倉庫課ヨリ受取リ著手スル者トス

一所藏ノ圖面貸渡ストキハ必ス其ノ證書ヲ得テ交附シ出入共之ヲ元帳ニ記入スル者トス

第二項

一以下船臺掛ニ同シ

機械課取扱假順序

一主管スル所金屬部類ノ新製修補ニ係ルモノニシテ其ノ取扱振ニ於テハ造船課ト殊異アルコトナシ

練鐵掛取扱假順序

第一項

一管掌ノ事業ニ付其課掛ヨリ證書ヲ以テ注文アルトキハ入用ノ地鐵類ハ證書ヲ以テ倉庫課ヨリ受取リ工業ニ著手シ落成ノ上ハ之ヲ鐵鑿掛ニ送り仕上ケノ後又之ヲ注文セシ課掛ニ送付スル者トス

但本課ヨリ注文ノ分ハ其工數及ヒ物品ノ遣拂ヒ等取調へ本課ニ差出スモノトス

第二項

一毎月頭日曜日一度ツ、大形瀛罐ノ掃除ヲ爲サシムルモノトス

但月頭日曜日事業ノ爲メ支障アル節ハ第二回日曜日トス

第三項

一以下船臺掛第二項以下ニ同シ

整飾掛取扱假順序

第一項

十二年十二月二十八日機  
械課ノ部ヲ改正ス

一管掌ノ事業ニ付各課掛ヨリ證書ヲ以テ注文アルトキハ入用ノ地金物品等ハ證書ヲ以テ倉庫課ヨリ受取リ工業ニ著手シ落成ノ節注文セシ課掛ニ送り送品帳ニ受取印ヲ附ケ置ク者トス  
但本課ヨリ通達ノ分ハ其工數及ヒ物品ノ遣拂ヒ等取調へ本課ニ差出スモノトス

第二項

一以下船臺掛ニ同シ

製罐掛取扱假順序

第一項

一管掌ノ事業ニ付各課掛ヨリ注文ヲ受ルトキハ必ス證書ヲ得テ著手シ落成ノ上ハ注文セシ課掛ニ送付スル者トス

但本課ヨリノ注文品ハ其工數及ヒ物品ノ遣拂ヒ等取調へ本課ニ送ルモノトス

一入用ノ地鐵物品等ハ證書ヲ以テ倉庫課ヨリ受取ル者トス

第二項

一毎月頭日曜日一度ツ、大形瀛罐ノ掃除ヲ爲サシムルモノトス

但月頭日曜日事業上支障アル節ハ第二回日曜日トス

第三項

一船臺掛第二項以下ニ同シ

鑄造掛取扱假順序

第一項

一各課掛ヨリ鑄造ノ注文ヲ受ルトキハ其入用ノ地鐵物品等證書ヲ以テ倉庫課ヨリ受取リ其見本或ハ木型ニ據テ製出スル者トス

一見本木型等アラサルトキハ新ニ圖ヲ製シ之ヲ模型掛ニ送り木型ヲ作ラシメテ後著手スル者トス

一鑄成ノ後仕上ケヲ要スルモノハ先ツ量數ヲ掛改メ之ヲ送達帳ニ記載シテ鐵鑿掛整飾掛等ニ送り其仕上ケヲ要セサル者ニ至テハ直チニ注文セシ課掛ニ送付スル者トス

- 第二項 一 汽罐取扱關涉ノ工手職工ヲシテ毎月頭土曜日退散鐘後汽罐ノ掃除ヲ爲サシムルモノトス
- 第三項 一 以下船臺掛第二項以下ニ同シ  
模型掛取扱假順序

第一項

- 一 鑄造掛ヨリ鑄型ノ注文アルトキハ先ツ木品等證書ヲ以テ艦材課ヨリ受取り其見本或ハ圖面ニ應シテ製出シ該掛ヘ送付スルモノトス

第二項

- 一 以下船臺掛ニ同シ

第一項 旋盤掛 取扱假順序

第一項

- 一 管掌ノ事業ニ付各課掛ヨリ證書ヲ以テ注文アルトキ大ナル物ハ旋盤ニ小ナル物ハ鑄鑿ニ分賦シテ見本或ハ圖面ニ隨ヒ仕上ケセシムルモノトス
- 一 機械ノ如キハ仕上ケノ後一旦組立試ミシ上ニテ解放シ是カ量數ヲ改メ組立掛ニ送付スルモノトス
- 一 若シ不足ノ鐵物アリテ之ヲ要スルトキ圖面又ハ木形ヲ以テ主務ノ掛ニ注文シ出來ノ上受取り仕上ケスル前文ニ同シ但些少ノ物ハ職場内ニテ製出スル儀モアルモノトス
- 一 但仕上ケノ上ハ更ニ量目ヲ改メ送達帳ニ記載シテ其注文セシ課掛ニ送付スルモノトス

第二項

- 一 二基ノ大形汽罐毎月一回就業時間中一基ツ、掃淨ヲ爲サシムルモノトス

第三項

- 一 以下船臺掛第二項以下ニ同シ

組立掛取扱假順序

第一項

- 一 汽機竝屬具等製造ノ上送り來ルトキハ之ヲ組立或ハ据付ノ工業ヲ爲ス若シ屬具等不足品アルトキハ證書ヲ以テ主務ノ掛ニ注文製造シ或ハ些細ノ物ハ職場内ニ於テ直ニ製造補綴スル儀モアルモノトス
- 一 但本課ヨリ通達ノ分ハ其工數及ヒ物品ノ遣拂等取調ヘ本課ヘ差出スモノトス

第二項

- 一 小汽船ヘ機械方ノ工手職工乗組ヲ爲サシムルモノトス但シ其交替期限等ハ船具掛ニ異ナルコトナシ
- 一 小蒸氣船運轉ノ多少ニ應シ其ノ乗組ノ者ヲシテ汽罐ノ掃除ヲ爲サシムルモノトス

第三項

- 一 以下船臺掛第二項以下ニ同シ

製圖掛取扱假順序 (造船課ノ部ニ同シ)

基盤課取扱假順序

但第一項以下九項以上ハ國內品購入及不用品賣却ノ事ニ係リ十項以下十四項以上ハ外國ヘ物品注文竝ニ他向キ讓渡シ品及ヒ預リ品其他運輸等ノ事ニ係ル

第一項

- 一 倉庫課艦材課及ヒ主船局分庫ニテ物品買入ヲ要スルトキ其品名數量等其課ノ注文簿ニ記載シテ所長ノ檢印ヲ受ケ該簿ヲ送り來ルトキ其注文ノ品名數量ヲ塗札ニ記シテ揭示シ望ノ者ニ投票ヲサシメ其内低價ノモノヘ落札シ其價額ヲ注文簿ニ記入シ投票原書ニ番號ヲ附シ該簿ニ添ヘテ所長ニ出シ檢印濟ノ後落札人ヘ該品納方ヲ命スルモノトス
- 一 該品到着ノトキ注文アリシ課掛ト共ニ品位數量ヲ檢查シ其場ニ於テ其場掛ヘ現品ヲ渡付ルモノトス
- 一 各商ヨリ納品檢印簿ヘ檢査濟ノ品名數量ヲ書載シ差出シタルトキ之ヲ調査シテ引渡簿ニ謄寫シ右兩簿ニ押印シテ引渡簿ハ該品引渡シタル其課ニ送り請取印ヲ得ルモノトス

一物品代價請取證正副二通檢印簿ニ添へ各商ヨリ差出シタルトキ引渡簿ニ照シテ該品員數及ヒ全價等ヲ調査シ之ヲ注文簿ニ騰寫押印シテ請取書ト共ニ所長ノ檢印ヲ請ケ證書ハ計算課ニ送致シテ其價金ヲ拂ハシムルモノトス

第二項

一注文ニ非サル品ニシテ所持者ヨリ買上ケテ乞フコトアレハ先ツ其品位ト價格ヲ調査シ相當ト見認ムルトキハ該品使用スヘキ課掛へ需用ノ有無ヲ問ヒ入用ナレハ所長へ申出購求スルコトアルモノトス  
 一外國人ヨリ購求スル物品ハ既ニ庫納ノ後勘定書横文ノ翻譯ヲ正算シ檢印目錄ニ價金ヲ記シ所長ノ檢印ヲ受ケ計算課へ送り代價ヲ拂ハシムルモノトス  
 但代理ノ内國人アリ國語國字ヲ以テ相辨スル者ニ限り内國商ト同視シテ取扱ヲ爲スモノトス横文洋語ニテ辨スヘキ者ハ外商品購求主務ノ扱トス

第三項

一長崎海軍出張所々管ノ唐津用所ヨリ譲り受ノ石炭廻著ノトキハ請負ノ者ニ命シテ陸揚セシメ倉庫課ト共ニ斤量ヲ検査シテ庫納ノ量數ヲ引渡簿ニ記シ倉庫課ノ請取印ヲ得ルモノトス  
 一石炭ノ送狀ニ記載アル斤量ヲ以テ定價ト運送賃トヲ算計シ長崎出張所償却金ト運賃殘金トヲ全價調書ニ作り其價額ヲ檢印目錄ニ記シ所長ノ檢印ヲ受ケ計算課へ送附スルモノトス  
 但送狀面ニ記載アル斤數ヨリ過分ノ分ハ前條注文外ノ品ヲ買入ル、手順ニ同シ

第四項

一東京在勤艦材課ヨリ木材麻草ノ類ヲ購求シテ送來ルトキハ其主務ト共ニ數量等ヲ検査シ假ニ主務ニ渡付ケ引渡簿ニ請取印ヲ得東京該課へ受取證書ヲ送ル者トス  
 一東京艦材課ニ於テ品ノ代價繰換濟ノ書類到來スルトキハ來著品ノ數量ヲ照查正算シテ檢印目錄ニ記シ所長ノ檢印ヲ受ケ計算課へ送付スル者トス  
 但東京艦材團場ニテ雇上ケノ木挽職及ヒ人足賃或ハ同地ヨリノ諸運送費等繰替濟ノ證書到來ノト

キモ其手順凡テ本條ニ同シ

第五項

一物品購入ノ費額ニ差異無カラシメンカ爲メ毎月計算課ノ拂金高ト對查ヲ爲スモノトス  
 一購求物品ノ數量及ヒ價格ノ高低等漸次ニ部類ヲ分チ輯録シ毎年七月以降翌年六月迄一箇年ノ合算表ヲ製シ之ヲ所長ノ檢閱ニ供スル者トス

第六項

一諸損品或ハ不用品ノ類拂下ケノトキハ之ヲ廣告シテ投票ヲサシムルモノトス  
 一投票中高價ニ當ル金員ヲ所長ニ申出決ヲ受ケテ落札シ現品下附ノ上該價ヲ受取り計算課へ送入スルモノトス

第七項

一凡テ購入物價拂濟ノ時々之ヲ統計掛へ通告スルモノトス  
 但拂下品ノ代價收入ノトキモ本條ノ通

第八項

一課宛到來ノ書類ハ凡テ披封シ直チニ所長ニ出シテ檢印ヲ受ケ回答ヲ要スル者ハ文案シテ同シク檢印ヲ受ケ淨書シテ庶務課ニ送付シ宛名へ郵達スルモノトス

第九項

一石灰ノ製出焚殺石炭撰分石炭ノ陸揚運送ニ限り定價ヲ以テ請負ヲ爲サシムルモノトス  
 一製作ノ爲メ見本品或ハ修復品ヲ請負ノ者ニ下附スルトキハ其品ノ預リ證書ト通門願書ヲ出サシメ預リ證書ハ見本品ノ主務ニ送致シ通門願書ト割印印シテ本人ニ授付スルモノトス  
 一製作品落成上納ノ節ハ凡テ購求品ノ手順ニ同シ  
 但納品ノ節ハ見本品ヲモ返納セシメ預リ證書ハ返付セシムルモノトス

第十項

- 一 外國ヨリ需要スル諸物品ハ倉庫課ニ於テ其數量等ヲ外國注文簿ニ記シタル所長檢印濟ノ該簿ヲ同課ニ受ケ注文品ノ量數等ヲ其備帳簿ニ寫シ各品每表代價ヲ加ヘ其物品ニ應シテ注文ノ區分運搬ノ仕方需求ノ地名製造人ノ姓名横濱ニテ注文ヲ受扱フ社名カ人名ヲ詳細記シタル一紙ノ表ヲ製シテ所長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ横文ニ譯シテ(譯文ニハ代價ヲ除ク)注文ヲ受扱ノ外商ニ購入ノ約定ヲ爲シ受書ヲ取ルモノトス
- 一 注文ノ物品横濱來著ノ旨受扱ノ外商ヨリ報知アルトキ課員或ハ雇派出シテ該品ヲ外商ヨリ受取ル者トス
- 一 注文品受取ニ臨ミ若シ外装(前或ハ箇荷ノ外面)破損アレハ受扱人ト郵船社員ト共ニ立會開撥シ箇中ノ物品ヲ悉皆現出シ每箇點檢ス若シ物品減損セルトキハ其代價ヲ郵船會社ヨリ償ハシムル者トス
- 一 注文物品ノ勘定書一葉之ヲ譯シタル通關證書ニ葉販賣セル外商ヨリ受取リ各税金ヲ書入レ之ヲ稅關ヘ出シ該關ニ於テハ郵船會社ヨリ差出シタル積荷表ト對查シ次ニ改品科ニ於テ各國物價表ト照シ勘定書ノ價格勘查通關證書面ノ量數等點檢濟ミ該證書ヘ捺印ヲ受ケテ之ヲ檢査課ヘ出シ檢關ヲ受テ稅課ニ出シ税金ヲ納メ納稅濟ノ印ヲ受ケ通關證書ニ派出ノ者ヨリ出シタル通關ノ副書ヲ得テ之ヲ上屋科ニ出シ該品ノ記號番號及ヒ諸科檢印等ノ檢査ヲ受ケ終テ船積シ雇ヲ上乘トシテ運輸スルモノトス
- 一 物品ノ來著スルトキハ先ツ倉庫國內ニ荷揚ナシ販賣人ヨリ差出シタル勘定書等ヲ直譯シ倉庫課員ト立會物品ノ量數等ヲ直譯書ニ對查シテ同課ヘ引渡シ直譯書ニ同課ノ受取印ヲ得テ之ヲ計算課ヘ出シ代價諸費ノ拂出シヲ爲サシムルモノトス

第十一項

一 品位檢査ノ爲メ販賣主ニ見本ヲ要シテ到著ノトキハ所長ノ點檢ヲ乞ヒ決テ得テ購求方ヲ外商ニ約スル手順前項ノ通り若シ石炭シマン等ノ如キ群品ノ中ヨリ撰擇スルカ斤量ヲ改ムル品ノ購入ヲ爲ストキハ課員ノ内横濱出張取扱ヲ爲ス儀モアルモノトス

第十二項

- 一 他方ヨリ物品讓受請求ノ書面所長檢印濟ノ後庶務課ヨリ送り來ルトキハ其檢印書ヲ收メ別ニ該品ノ受取證書ヲ倉庫課ニ送り物品ト引換受取り渡シ付ルモノトス
- 一 但他方官員竝ヒ内國商人ノ願受品モ凡テ本條ノ手順ニ同シ代金ハ即時上納セシムル者トス
- 一 諸外國人及ヒ當所雇外國人其外技術官吏職工メートル尺願受ケ手順モ亦前行ノ通
- 一 但代價調書統計掛ヘ送達方左ノ通
  - 横濱居留外國人願受品代 每月末毎ニ所用ヲ辨スル各社ノ者ニ限ル
  - 雇外國人願受品代 每月二十四日
  - 技術官吏職工メートル尺願受代 每月十六日
- 一 此他ハ總テ前行但書ノ通即金上納セシムルモノトス
- 一 自他艦船修綴トシテ廻艦中物品讓受ノ節モ手順亦前行ト同シ
- 一 但代價調書ハ兼テ造船機械課ヘ送り置キ現金ハ其掛ニテ收入ノ手順ヲ爲スモノトス
- 一 關乏ノ物品製造方分庫ノ注文ヲ受ルトキハ倉庫課ヘ注文證書ヲ廻シ同課ヨリ職場ヘ注文ス落成ノトキ之ヲ該課ヨリ受得テ分庫ヘ引渡スモノトス
- 一 但分庫ヘ引渡シノ後其品目ヲ翌月初旬迄二月表ヘ掲載シテ統計掛ヘ廻ス同掛ニテ代金收入ノ手順ヲ立ルモノトス

第十三項

一 造船機械課分庫等ヨリ各艦船其他ヘ物品送り方ノ申込アルトキ雇船或ハ郵船ニテ積送ル節ハ月末ニ至リ運送入費ヲ取調ヘ統計掛ヘ差廻スモノトス

第十四項

一内外諸艦船及ヒ其他ヨリ何品ヲ不問預リ方ノ儀其筋ヨリ違アルトキハ陸揚方等マテ取扱ヒ其陸揚運送ノ入費ハ其時々取調ヘ之ヲ統計掛ヘ廻シ其磨方塗方ノ入費及ヒ預リ料ハ年末或ハ現品引取ノ節調書同掛ヘ出シテ收入スルモノトス

但雨覆ノ有無並ヒ磨方塗方等ハ其品主ノ依頼ニ由リテ之ヲ扱フモノトス

第十五項

一課用ノ常用品ハ證書ト物品受取帳ト割印シテ證書ハ倉庫課ニ送り物品ト引替受取ルモノトス  
一毎月末ニ至リ其月内受取りタル諸品ノ證書ト渡品帳ヲ倉庫課ヨリ送り來ルトキ證書ニ照ラシテ渡品帳ノ各品名上小印シテ渡品帳ハ倉庫課ニ返付シ證書ハ其儘受取り置クモノトス  
一每一箇月受取品ヲ區別シテ表ヲ製シ課名ノ下ニ掛ノ内小印シ月々之ヲ倉庫課ニ送ルモノトス  
建築課

營繕掛取扱假順序

第一項

一諸建物竝土工水利等新營修理ノ節ハ先ツ入費ノ豫算調ト圖面トヲ製シ課長點檢ヲ經テ之ヲ庶務課ニ出シ所長ノ檢印濟本省經何ヲ要スルモノハ同課ニ於テ上請ノ手續ヲ爲シ許可濟ノ旨同課ノ通報ヲ得テ著手ノ準備ヲ爲ス其ノ上請ヲ要セサル分ハ所長檢印濟直ニ著手ス尤所管ノ職工ヲシテ著手セシムルト請負ニ附スルトハ實際上ノ都合ニ因ルモノトス

但土工水利ハ築造掛ニ於テ豫算調並圖面トモ調製セシメ其ノ著手ニ於ケルモ同掛ニ掌理セシムルト雖モ全ク請負ニ申付クル分ハ當掛ニ於テ取扱フモノトス

一些細ノ修繕ニシテ別ニ豫算仕様等ヲ要セサル如キハ原牒ヘ所長ノ檢印ヲ乞ヒ直ニ著手スル儀モアルモノトス

一官舎拜借及修繕願等其ノ書面ヲ庶務課ヨリ廻付シテ可否ノ來問アルトキハ實況ニヨリ意見ヲ詳記シテ回報ス其ノ許可濟竝官舎返還願所長檢印等ノ書面同課ヨリ送り來ルトキハ其受取り渡シヲ爲スモノトス

トス  
一貸渡シ官舎ノ舍稅竝官舎ニ屬スル借地料ヲ調出シテ統計掛ニ通報シテ該稅收入セシムルモノトス

第二項

一最寄諸廳ノ新築修繕ハ主船局營繕費中ノ支辨ニ係ルモノニシテ其廳ノ請求書ニ基キ實地點檢ヲ遂ケ請求ノ當否ヲ所長ニ具申シ圖面仕様等ヲ調整シ概算金ヲ附シ庶務課ニ廻シ所長檢印濟入費ノ支出方ヲ主船局ヘ協議請求廳ヘ上請スヘキ旨等庶務課ニ於テ取計濟ノ末尙本省許可濟ノ旨庶務課ノ通達ヲ得テ著手スルモノトス

但概算費百圓以下ニ涉ル分ハ所長檢印濟直ニ著手シ而シテ庶務課ニ於テ主船局ヘ通報ノ手順ヲ爲スモノトス

一最寄諸廳ニ係ル工事落成スルトキ其都度入費ノ請取證書ヲ計算課ニ廻シ該課ニ於テ類集編製シテ費額差引書ヲ附シ庶務課ニ送致シテ主船局ニ送付スルモノトス

第三項

一前條檢印濟ノ後請負ニ付スヘキ者ハ先ツ仕様書ト投票案トヲ編成シテ所長ノ檢印ヲ受ケ圖面及ヒ實地ニ就テ請負人ニ指示シ各投票スルモノトス  
一投票既ニ集リタル後開札ノ上低價ヘ落札シ請負申付而シテ其請負人竝引受保證人ヨリ落成期限等ノ證書ヲ出サセ現業ニ著手セシムルモノトス

第四項

一諸營繕落成ノトキハ仕様書ニ照シテ審査ヲ遂ケ他管ノ分ハ庶務課ニ申告シテ其所管ニ報道スルモノトス  
一費金ノ請取證書受負主ヨリ差出ストキハ之ヲ受負高ニ照查シ差異ナキトキハ本紙ヘ所長ノ檢印ヲ受ケ副紙ト共ニ計算課ニ送り現金ヲ本人ニ下付スルモノトス

第五項



一 地所新ニ買入ノ節ハ先ツ下々地持主共へ買上代價及ヒ建家引移料等ヲ示談濟ノ上其區戸長ノ奥印アル證書ヲ取り此證書へ該地ノ圖面ヲ添へ庶務課へ廻シ差支ノ有無ヲ所轄府縣へ照會ノ後官用地トシテ下附ノ儀ヲ本省へ上請アルモノトス

一 官用地上請濟ニテ地所受取方省違アルトキハ豫テ受取渡日限ヲ府縣へ申合置當日地所受取濟ノ上ハ地代金及家作引移料或ハ作毛代等出張府縣官へ相渡同官ヨリ所有人へ分賦セシムルモノトス

一 地所受取濟ノ節ハ更ニ圖面反別調ヲ庶務課ニ送り地券ノ受領用トシテ本省へ進達アルモノトス

一 當所ニ於テ直ニ地券受取ルトキハ謄寫シテ其ノ寫ヲ格護シ本紙ハ庶務課ニ廻シ主船局へ送付スルモノトス

第六項

一 山地切取或ハ地平シノ爲メ區畫ヲ要スル土地ハ先ツ實測ノ上方隅ニ杭ヲ打チ其境界ヲ定メ投票落札ノ上之ヲ請負主ニ附シテ就業セシムルモノトス

第七項

一 官有地へ賦課ノ區費村費調書其區村用掛ヨリ差出シ庶務課ヨリ送り來ルトキハ調査シテ其金員渡方ノ添書ヲ付シ所長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ計算課へ廻シ代金ヲ下附セシムルモノトス

第八項

一 各課掛用書籍諸帳簿釘裝等倉庫課ヨリ注文シ來ルトキハ其注文書ニ應シ製出セシメ該課ニ送付シテ受取帳ニ證印ヲ受ケ置クモノトス

第九項

一 土地家屋及諸具器械ノ増減等ハ月表ニ掲載シテ毎月統計掛へ送致スヘシ

第十項

一 課用ノ常用物品ハ證書ト物品受取帳ト割印シテ證書ハ倉庫課ニ送り物品ト引替受取ルモノトス  
一 毎月末ニ至リ其月内受取りタル諸品ノ諸書ト渡品帳ヲ倉庫課ヨリ送り來ルトキ證書ニ照ラシテ渡品

牒ノ各品名上小印シテ渡品牒ハ倉庫課ニ返付シ證書ハ其儘受取り置クモノトス

一 每一箇月ノ受取品ヲ區別シテ表ヲ製シ課名ノ下ニ掛ノ内小印シ月々之ヲ倉庫課ニ送ルモノトス

第十一項

一 毎歲十一月ヨリ翌年四月迄ノ間各課掛詰所並石造官舎カツヘル毎週掃除ヲ爲スモノトス

第十二項

一 毎朝出業セシ職工ヲ調査シ其人名ヲ出業牒ニ記シ置クモノトス

一 出業ノ工手職工以下ニ各々工業ヲ分賦シマタ工業用諸器具ヲ調査シテ之ヲ各自ニ配賦スルモノトス  
一 日々退鐘ノ後職場内ヲ巡視シ遺品火失等ナキヤ内外ヲ點檢シ終テ錠鎖シ鍵ハ警査掛當直ニ渡シテ後退去スル者トス

第十三項

一 差急ノ工事アリテ夜業セシムルトキハ其旨課長ヲ經テ所長ノ許可ヲ受ケ之ヲ警査掛ニ通報スルモノトス  
一 翌朝使用ノ人足及ヒ艇船ハ其人員艘數ヲ前日ヨリ警査掛へ申入置ヘキモノトス

第十四項

一 工手職工ノ工數並ニ諸向ヨリ受取りタル物品等一箇月分ノ遺拂ヲ取調ヘ各艦船ヲ區分シテ月表ヲ製シ其受得タル課ノ渡高ト對查濟ノ上之ニ調印シ課長ノ檢印ヲ受ケテ統計掛へ送附スルモノトス  
一 職工出業日數毎月兩度之ヲ統計シテ警査掛ニ廻シ對查濟ノ節調印シテ計算課ニ廻シ賃錢受取ラシムルモノトス

第十五項

一 不足ノ工具アリテ之ヲ増サントスルトキハ其申出書ニ所長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ倉庫課ニ送テ該品ヲ受取モノトス  
一 但在來品ノ損シタルトキ新品ト引換或ハ修理スルトキハ申出書ニ課長ノ檢印ヲ受ケ其主務ニ送ル

モノトス

一 工具職工ノ柄或ハ葦木等公業ノ爲メ毀損セシヲ確認スルトキハ倉庫課ニ照會シテ該代品製作スヘキ相應ノ本品ト毀損ノ現品ト引換本人ニ付與スルモノトス之ヲ修造セントスルトキハ先ツ警査掛ニ通告シテ後休息時間中書手セシムルモノトス

第十六項

一 工手職工ヨリ願届等ノ書面ヲ出セシトキハ先ツ事實ヲ調査シ全ク相違ナキニ於テハ之ニ添書調印シテ警査掛ニ送致スルモノトス

一 諸布告布達等ハ工手職工一同ヘ告諭解示スルモノトス

第十七項

一 職工志願ノ者先ツ試験ノ爲メ出業セシムル節ハ之ヲ入業帳ニ記載シテ課長ニ出シ檢印ヲ受ケテ之ヲ庶務課ヘ送り出業證書ヲ受ケ本人ニ授付スルモノトス

但工業繁雜ノ節職工定員ノ外ニ臨時雇上職工ヲ申出ル等出業證書ヲ除クノ外前ニ同シ

一 右試験済ノ節其業ノ巧拙ヲ課長ニ申出賃錢ヲ定メ之ヲ又入業帳ニ記シテ課長ノ檢印ヲ受ケ本人入業願書ヲ添テ庶務課ニ出シ更ニ入業證書ヲ受ケ本人ニ授付スル前條ニ同シ

但退業セシムル節モ其事故ヲ課長ニ申出退業帳ニ檢印ヲ受ケ庶務課ニ送り除名證書ヲ受ル等凡テ入業ノトキニ同シ

一 右入退業帳ハ警査掛ニ格納シ其ノ申出ノ時々受取ルモノトス

一 日雇職工ノ内業前披群ナル者及ヒ若年ニシテ業前モ相應ニテ後年上達ノ見込アル者ハ之ヲ課長ニ申出例規ニ照ラシ志願書ヲ出ツセ之ヲ庶務課ニ出シ所長許可濟定雇職工許可ノ證ヲ庶務課ニ受ケ之ヲ本人ニ附與ス其内若年ノ者ハ修業職工トシ毎半日發舍ニテ傍ラ就學セシムル者トス

但定雇職工願出手順ハ定雇職工規則ノ通

一 修業職工願ハ雛形ノ通り添書押印シ之ヲ發舍ニ出シテ後修業職工申付ノ辭令ヲ庶務課ニ受ケテ本人

ニ授付スルモノトス

但免セラル、節モ凡テ本文ノ手順ニ同シ

一定人足ノ儀ハ庶務課ノ管轄タルヲ以テ其増減ヲ爲サントスルトキハ該課ニ申出ルモノトス

但定員ヲ増サントスルトキハ申出書ヲ作り課長ヲ經所長ノ裁可ヲ乞テ該課ニ申入ルモノトス

一 工業繁多ニシテ臨時職工ヲ雇上ルトキハ臨時職工雇入帳ニ記載シテ課長ノ檢印ヲ受ケ庶務課ニ出スモノトス

但該帳ハ警査掛ニ格納スルモノトス

一 工手ハ一年一度職工ハ一年二度ツ、其業前上達ト退歩ヲ審案シ傍ラ勤怠ヲモ錯綜商量シテ黜陟ノ見込ヲ課長ヘ申出俸給ノ増減ヲ所長ニ乞フモノトス

但定人足ハ其ノ見込書ヲ庶務課ニ出シテ増減ヲ得ルモノトス

一 等外技術吏及職工ノ業前巧拙表ト就業上ノ勤怠表トヲ製シ五月ト十一月ト毎歲兩次所長ノ檢閱ニ供スルモノトス

第十八項

一 工手職工忌服ノトキハ工業ノ都合ニ因リ除服ノ申出ヲ爲スモノトス

但定雇職工ハ指令ヲ得テ本人ニ達スルモノトス

一 職工人足ノ内工業中過テ被傷ヲ爲ス節ハ添書シテ醫室ニ送附シ治療ヲ受シムルモノトス

一 工手以下出業中工業ノ爲メ出入門或ハ病氣等ニテ刻限前退散セシムルトキハ通門帳ニ記シテ警査掛ニ出シ鑑札ヲ受ケ門衛ニ出シテ出入セシムルモノトス

但物品携帶シテ出門ノトキモ本文ニ同シ

一定雇職工病氣ノ節六日迄ハ本人届出ノ旨端書ヲ以シ警査掛マテ届置キ七日以上ハ本人届書差出ツセ十五日以上ハ醫證相副願出ツセ副書調印シテ同掛ヘ差廻スモノトス

但無據事故等アリ他行スル者ハ日數ノ多少ニ拘ハラズ書面ヲ以テ願出サスルモノトス  
第十九項

一職工其外ノ者掛官吏ノ令ヲ用ヒス或ハ工業上不都合アル等ノトキハ之ヲ警査掛ニ通告シテ本人ヲ處分スルモノトス

一斷リナクシテ出業セサル者アレハ之ヲ警査掛ニ通告スル者トス

第二十項

一當掛ニ於テ使用スル工具類ハ其ノ製作ヲ爲シ得ルモノト雖モ必ス倉庫課ニ注文シテ現品ヲ交收スルヲ成規トス

築造掛取扱假順序

第一項

一水道石垣鐵道其他土工一切ノ新築修繕所長檢印濟證書ヲ以テ本課ヨリ送達アルトキハ實地ニ就テ得失ヲ商量シ仕様及入費積リヲ本課ニ出シ課長ノ點檢ヲ經テ更ニ所長檢印ヲ受ケ就業セシム亦請負ニ付スヘキ分ハ營繕掛ニ於テ取扱フモノトス

第二項

一修覆ノ艦船下シマンノ塗方竝各場諸機械臺石据方等其主管ノ證書ニ依リ直ニ就業スルコトモアルモノトス

第三項

一石灰白煉化石製造用ノ土石ハ證書ヲ以テ倉庫課ヨリ受取り之ヲ職工ニ配賦シ月々出來ノ員數ヲ調査シテ之ヲ同課ヘ送附ス

第四項

一工業落成ノ廠々竝職場需用ノ諸具出入ハ毎月表ニ掲載シテ統計掛ヘ送致スルモノトス

第五項

一石類砂利石灰火山灰シマン砂類著船ノ都度其主管ノ課掛ト立會品ノ良否ヲ検査スルモノトス

第六項

一毎月頭土曜日ト十五日後初度ノ土曜日ト兩度瀛漚ノ掃除ヲ爲サシムルモノトス  
但取扱關涉ノ者而已退散鐘後居殘施行セシムルモノトス

第七項

以下營繕掛取扱第十二項以下ノ手順ト異ナルコトナシ

倉庫課

用度掛取扱假順序

第一項

一庫内ニ貯蓄スル所ノ物品内國産ハ每三箇月外國購入品ハ每七箇月ノ支出高ヲ豫算シ不足ト認ムルトキハ其ノ品目ヲ關乏品簿ヘ記載シ課長ヘ出ス課長之ヲ點檢シ現在貯品ノ高及六箇月支出平均ト工業ノ實況ヲ斟酌シ購入スヘキ品名數等ヲ注文簿ニ記載押印シテ統計掛ヘ送簿平均一箇價ノ記入ヲ得テ外國注品ハ價ヲ記入スルコトヲ爲サス所長ノ檢印ヲ受ケ基整課ニ送附スルモノトス

一各課掛ニ於テ需用スル物品當工場ニ於テ製シ得ヘキ分ハ工場注文簿ニ記シ課長ニ出ス課長點檢押印シテ所長ノ檢印ヲ受ケ其工場ヘ送附シ該品落成ノ節其ノ數量形狀ヲ元入簿ヘ記シ課長ノ檢印ヲ得テ請求元ヘ渡シ付ルモノトス  
但例外ナル物品ヲ需用スルトキハ所長ノ檢印ヲ受ケタル請求品證書ヲ送り來ルモノトス

第二項

一内國商ヨリ物品庫納ノトキハ基整課員立會注文簿ニ照シテ其ノ物質ヲ検査シ數量ヲ試ミ元入簿ニ記シ引渡簿ヲ添テ課長ノ檢印ヲ得引渡簿ハ基整課ヘ元入簿ハ記注掛ヘ送簿スルモノトス  
一外國商ヨリ物品庫納ノ節品質數量簿記等取扱ノ手順ハ前項ト異ナルナシ尤賣品主ヨリ出シタル物品數量書ヲ基整課ニ於テ直譯セシ書面ニ對査濟ミノ量數ヲ朱書シ受取印ヲ捺シ元入簿ト共ニ基整課ニ

返附スルモノトス

但陸揚ケノ人夫ハ本課付定人足ナシテ運搬ヲ爲サシムルモノトス

第三項

一他向ニテ物品讓受ヲ請求スルトキハ基整課ノ受取證ヲ得テ現品渡シ付ケノ手順ヲ爲スモノトス

第四項

一各課掛ニ於テ不用ニ屬スル物品ヲ送附シ來ルトキハ直ニ領收シテ其ノ品種ヲ實驗シ尙修補シテ用ニ足ルヘキ分ハ修理ヲ加ヘ元入簿ニ記シ他日需用ニ供ス全ク不用ニ屬スル物品ハ雜庫ニ格納シ品種多數ニ至レハ投票拂ヲ申出所長ノ裁可ヲ受ケ現品基整課ニ送附スルモノトス

第五項

一各課掛ヨリ證書ヲ以テ普通ノ物品ヲ請求スルトキハ筆算履ヲシテ請求品ノ數量ヲ該證書ニ朱書セシメ現品渡シ付ヲ爲サシムルモノトス  
但一職場毎ニ區分セル渡品帳ヘ交付品名數量等ヲ記入シ甲ノ日渡シ付ノ分ハ乙ノ日午前同掛立會證書ト該帳トノ勘査ヲ爲シテ之ニ捺印シ午後一時ヨリ各職場主任者ヲシテ每證書ト該帳ト對查ヲ爲サシメ其ノ證印ヲ得テ請求品證書ハ返附スルモノトス

一職場從來備品ノ外新ニ機械物品ヲ請求スル證書ハ所長課長檢印濟ニ非ツレハ現品渡シ付クルコトヲナサス尤引換品ハ普通渡品ト異ナルコトナシ

一各職場ニ於テ一時使用ノ物品ニシテ永久ノ備付ケヲ要セス且容易ニ毀損セサルモノ流用ヲ望ムトキハ該證書ニ課長ノ檢印ヲ得テ期限ヲ約シ貸渡シヲ爲スモノトス

一庫内普通ノ使用物品ハ其ノ掛ノ證書ニ課長ノ檢印ヲ得テ相渡シ記簿法一切ノ手續ハ各課掛需用品ト異ナルコトナシ

第六項

一筆算履定人足等出業日數毎月兩回之ヲ調査シテ證書ヲ警查掛ニ廻シ對查濟ノ節調印シテ計算課ニ廻

シ日給受取ラシムルモノトス

一筆算履及定人足等早出居殘出業中門出及ヒ物品出門等ノ節ハ其ノ通門證ヲ警查掛ニ送付シテ出門セシムルモノトス

一退散鐘五分前庫内外ヲ回視點檢シ筆算履ヲシテ錠鎖ヲナサシメ鍵ヲ警查掛當直ニ納メテ後退去スルモノトス

但豫テ筆算履受持ノ場ヲ定メ置キ番順ヲ以テ火ノ元及鎖鑰ノ事ヲ擔當セシム

第七項

一毎日使役ノ人夫等働キ中過テ被傷スルモノアルトキハ治療請求ノ證書ヲ醫室ニ送り療治ヲ受ケシメ其ノ重傷ナル者手當金給與等ノ儀ハ警查掛ニ於テ取扱ヲ爲スモノトス

記注掛取扱假順序

第一項

一毎月頭用度掛ヨリ前月ノ諸渡品帳ヲ送り來ルトキハ每職場渡シ品ヲ類聚區別合算シテ帳尾ニ記載シ各職場主任者ノ編集セル月表ト照查シ表面ニ捺印シテ勘査課ヲキテ送付ス

一前月諸物品ノ納庫支出越シ高等ヲ元帳ヘ精算登錄シ之ヲ披萃シテ越シ高元入支出高等年度表ヲ調製シテ参照ニ供スルモノトス

第二項

一毎年度ノ末統計掛用度掛立會庫内貯蓄物品ノ數量ヲ檢シ過不足ヲ元帳及年度表ニ記入シ課長之ヲ點檢シテ統計掛ヘ送表シ該掛ノ查閱ヲ經テ所長ノ檢閱ニ供スルモノトス

艦材課取扱假順序

第一項

一東京或ハ各山林伐採場ヨリ諸木材廻蓄スルトキハ陸揚セシメ木數及ヒ尺貫等檢査シ木材表ニ照ラシ一本毎ニ坪ヲ割出シ其材ニ番號ヲ記シ原簿ヘ寸間番號及ヒ價ヲ記載シテ貯ヘ置クモノトス

- 一 買材ハ納入ヲ立會セ木品寸間ヲ検査シ一本毎ニ其寸間ト番號トナ帳簿ニ手記スルモノトス
- 第二項
  - 一 虫喰或ハ朽腐等アツテ船材ニ適セサルモノハ賣材主ヘ返材スル勿論ナレトモ木品ニヨリ朽腐ノ箇所ヲ減尺シテ價ヲ減セシメ買入スルコトモ有ルモノトス
  - 但其時々所長ノ決ヲ乞テ施行スルモノトス
  - 一 買材ノ點檢終リ其ノ調査シタル帳簿ト納材人ヨリ差出ス木數坪數書ト一本毎ニ對査シテ相違ナキトキハ其書面ヘ押印シテ基整課ヘ廻シ同課ニ於テ精算ノ上代價拂出シノ手順ヲ爲スモノトス
- 第三項
  - 一 諸材闕乏ノ節ハ其旨所長ニ具陳シ注文簿ニ檢印ヲ乞ヒ基整課ヘ廻簿シ同課ニテ投票ノ上買材ノ手順ヲ爲スモノトス
- 第四項
  - 一 各場或ハ各艦船等ヘ木材相渡ス節ハ主務ノ請取證書ト引換ヘ原簿ヘ番號ト寸間トナ對照シテ年月日ト波シ先キチ一本毎ニ原簿ト日々ノ波シ帳トニ記載シ翌日ニ至リ證書類ヲ集メテ代價ヲ記シ月末ニ至リ部類ヲ分チ合計シテ統計掛ヘ廻付スルモノトス
  - 但板丸太竹類モ同斷
  - 一 修復艦船其他公私讓リ渡シ木材庶務課並造船機械課等ヨリ廻付ノ證書ニ隨ヒ木品相渡シ其證書面ニ代價ヲ附シ基整課ヘ相廻スモノトス
- 第五項
  - 一 船臺鋸鉋其他ヨリ脊板鼻切類日々取集メ置キ其木材ニ應シ墨掛イタシ板或ハ轄ヲ製シ船渠船臺其他各場ノ需用ニ應スルモノトス
  - 一 構内諸建物其外古材並修履船取毀チ材等ハ日々取集メ貯ヘ置キ冬時ニ至リ各課掛ニ於テ薪ノ需用ニ供スルモノトス

- 第六項
  - 一 課用ノ常用品ハ證書ヲ以テ倉庫課ヨリ受取り而シテ月末ニ至リ其月分ノ渡品帳ト受取證書ト倉庫課ヨリ送り來ルトキ證書ニ照ラシテ渡品帳ノ品名上ニ小印シテ渡品帳ハ倉庫課ニ返付シ證書ハ其儘受取置モノトス
- 第七項 以下東京在勤ノ部
  - 但本項以下十五項以上主船局出勤本課ノ取扱ニ係ル
  - 一 課務ニ就キ局長ヘ開申スル文書ハ總シテ課長名ヲ以テシ圍場常詰及伐採場派出員ヨリ具狀スル文書ハ概シテ課長ニ宛テ課長ノ權内ニアルモノハ直ニ處分シ其ノ權外ニ涉ル事項ハ該書面ヘ課長與書シテ局長ノ裁可ヲ受ルモノトス
- 第八項
  - 一 伐採場及艦材圍場其他諸向復等諸文書一切ノ接受配賦記錄編成及ヒ報告等ヲ掌リ課中一切ニ係ル諸入費書ヲ検査統括シ主船局計算課以下計算課トハ皆倣之ヘ送致等ヲ處辨スルモノトス
- 第九項
  - 一 諸向ヨリ需求木材ノ注文書ヲ受クレハ其當否ヲ查明シテ圍場ヘ通達シ市中商人所有材買辦等ノ申出ヲ調理シ局長ヘ開申スヘキ諸文書ハ庶務課ヲ經由シテ處辨スルモノトス
  - 一 購求ノ諸材圍場ニ於テ検査済寸間代價調書並代價申受書ニ検査表ヲ副ヘ該場詰ヨリ送り來ルトキハ之ヲ清算シ局長ノ檢印ヲ受ケ計算課ヘ送付シ金員繰替拂渡シノ手順ヲ爲スモノトス
- 第十項
  - 一 課中ニ關スル諸務ニ就キ局長名ヲ以テ諸省府縣ノ往復ヲ要スルモノハ其文案ヲ草シ庶務課ヲ經テ局長ノ檢印ヲ受ケ該課ニ於テ淨書送達ノ手順ヲ爲スモノトス
- 第十一項
  - 一 遠近國派出ノ伐木場ヨリ伐採ニ係ル諸入費仕上帳正副二通ヲ送り來ルトキハ其ノ當否ヲ調査シ主任

押印トテ計算課ニ送付シ該課ニ於テ點檢清算濟艦材計算兩課長捺印シテ局長ノ檢印ヲ乞ヒ正帳ハ計算課ニテ定規ノ通處分シ副書ハ計算課ニ格納シテ他日參照ノ用ニ供スルモノトス

一 伐木場ヨリ運送スル艦材運送賃ノ内東京或ハ届先ニ於テ渡方ヲ請求スル旨ヲ送狀ヘ記載シ來ルトキハ届先ノ受取濟證書ヲ認メ金員ヲ調査シ局長ノ檢印ヲ受ケ計算課ヘ送付シ拂出ヲ得テ該船ヘ渡付其證書ヲ船積所ヘ送付シ毎月ノ仕上ケ帳ヘ組入ル、モノトス

一 伐木場使役ノ職工夫ニ給スル物具其他ノ諸品東京ニ於テ購入ヲ申越ストキハ伐採入費ノ内ヲ以テ買辦運送ス金額拂出シノ順序手數ハ前ニ同シ

一 各艦材園場ヨリ横須賀ヘ積送ル諸材運賃金ハ受領者ノ木數受取證書ヲ認メ園場詰ヨリ差出セル調書ヲ以テ局長ノ檢印ヲ受ケ例手順ヲ經テ拂渡スモノトス

一 艦材園場ニ於テ使役スル職工夫賃錢其外該場ニ係ル諸費ハ其差出セル調書ヲ監査シ局長ノ檢印ヲ受ケ例手順ヲ經テ拂出シヲ爲スモノトス

第十二項

一 艦材園場ニ係ル營繕等ノ申立アルトキハ實地ニ就キ該場詰ノモノト立會檢査ヲ遂ケ仕樣積書ヲ調理シ請負投票或ハ積リ合ヒ等都テ局長ノ裁可ヲ得テ書手方ヲ該場詰ヘ通達シ竣工ノトキ猶檢査シ仕樣書ニ對査シテ相違ナキトキハ前項順序ヲ以テ金員拂出ノ手順ヲ爲スモノトス

第十三項

一 木材賣上ヲ願出ルモノアルトキハ其願書ヲ受付シ艦材園場ヘ送付現材ノ檢査ヲ爲サシメ良材ト認ルトキハ代價ノ吟味購入等局長ノ允可ヲ得テ再ヒ園場詰ヘ通達シテ買入レ方ヲ取扱フモノトス

第十四項

一 諸木材物品賣拂代金ヲ伐木場或ハ園場詰ヨリ收入スルトキハ檢査ノ上調書ニ局長ノ檢印ヲ受ケ計算課ヘ送付スルモノトス

第十五項

一 建築用ノ石材析出ニ就テノ文書往復該事ニ係ル諸務モ此取扱假順序ニ比準シテ處辨スルモノトス

第十六項 以下第二十項ニ至ル艦材園場常詰取扱ニ係ル

一 艦材園場ニ貯蓄スル諸材元簿ニ記載スル木材ヲ管掌シ檜松、樅杉ノ類浮木ハ時々棧取ヲ積ミ替務メテ蒸腐ヲ豫防シ諸木材ノ保存看護ヲ要旨トシ各所ヨリ順次ニ來著スル諸材並ニ購入材ハ其時々元簿ヘ番號ト寸間ヲ登載シ各材ニ刻符シテ出納ニ便ナラシムル爲メ其帳簿ヲ整理シ每三箇月現在木材ノ報告書ヲ製シ主船局出勤本課以下本課トアヘ差出スモノトス

一 園場詰ハ場内官宅ニ常住シ雇及人夫ノ勤怠ヲ監査シ諸堀諸小屋ヲ巡視シ烈風高浪等ノ節ハ夜中モ回視シテ異狀ナキヤ否ヲ點檢スルモノトス

一 園場ニ係ル諸入費一切ヲ整理シ本課ヘ送附スルモノトス

第十七項

一 需用材ノ注文ヲ受クルトキハ元簿ニ照シ適當ノ材ヲ撰出シ船積セシメ木數尺メヲ記載シタル送狀ヲ該船ヘ下附シ請求元ヘ運送スルモノトス

一 諸材注文アルトキハ貯蓄材元簿ニ照シ適當ノ材ヲキトキハ購求ノ上運送スヘキヤ否課長ノ指揮ヲ得テ處辨スルモノトス

但貯蓄ノ内材品ハ適當スルト雖モ寸間ニ當テ不適當ノ分ハ臨時挽立渡スコトアルモノトス

第十八項

一 各所伐採ノ諸木回著スルトキハ元廻船ヨリ解船或ハ筏ヲ以テ園堀ヘ回材スルヲ以テ其木種木數過不足ヲ送狀ト對査シ受取證ヲ該船ヘ下附シ而シテ該材ハ一本毎ニ寸間ヲ檢査シ番號寸尺ヲ刻付シ大小長短木種等ヲ區分シ浮木ハ棧取ヲ積ミ上リ材ヲ置キ元簿ヘ一々記載シ其時々課長ヘ報告スルモノトス

第十九項

一 木材需用ニ際シ市中ニ於テ購入セントスルトキハ先ツ商人所有ノ材ヲ豫メ探知シ其所在ニ就テ適不

適ヲ點檢シ適用ト認ムルモノハ木材產出ノ地名伐木年月等記入セル木數代價ノ明細書ヲ取り從前購入ノ材ト比較シ代價不相當ナルハ減價セシメ材ノ等級ヲ區別シ商人ヨリ出セル明細書へ更ニ其旨ヲ登記セシメ具申シ課長當否ノ見込ヲ副書シテ局長ノ許可ヲ得テ請書ヲ取り購入スルモノトス

一 購入材ハ團場詰竝ニ本課詰立會木質寸尺ヲ改メ現寸銘ニ拘ハラズ疵節腐朽等ヲ検査シ惡木ハ勿捨テ其疵節アルモ用立ヘキハ疵節ノ模様ニ依リ相當ノ歩引ヲナサシメ検査濟ノ寸銘ヲ野帳ニ記載シ納メ人控帳ト對查シ現實ノ寸銘ヲ以テ代價ヲ算出シ納入ヨリ差出セル調書ニ検査表ヲ副ヘ具申スルモノトス

但受取り検査ニ付テハ木返シ人夫ハ納メ人ヨリ差出サシムルモノトス

一 商人ヨリ願書ヲ以テ艦材買上ヲ申出ルトキハ先ツ何國何山ノ産竝伐木ノ年月等ヲ詳悉尋問シ其願書ニ記入セシメ當否ノ見込ヲ副ヘ具申シ買上方ノ許可ヲ得テ其材ヲ検査シ代價ヲ吟味シ購入ノ手順ヲ爲スモノトス

一 商人ヨリ購入ノ諸材一時ニ幅濶シテ其検査數日ニ涉リ代價ノ内借ヲ納メ人ヨリ願出ルトキハ先ツ該材ヲ堀内ヘ運ヒ入レサセ後凡ソ金高ノ六歩迄ハ局長ノ許可ヲ得テ貸渡ス儀モアルモノトス

第二十項

一 諸材ノ脊板鼻切レ木端及腐朽材或ハ不用材ニシテ年月團置クトキハ腐朽ヲ生スルモノト認メシ材ハ其旨ヲ詳悉具申シ許可ヲ得テ例規ニ照シ投票或ハ直組ミヲ以テ拂渡シ代價ハ現品引替ニ納メシ課長ヲ經テ計算課ヘ送付スルモノトス

第二十一項 以下伐木場ノ取扱ニ係ル

一 諸官林中ニ於テ艦船用材ヲ需求セントスルトキハ山林局長ヘ局長照會濟ミ其立木ヲ調査シ艦材適宜ノ良樹ト認ムルモノハ該木受取方ヲ課長ヨリ局長ヘ申稟シ而シテ山林局員ノ立會ヲ得テ本木竝ニ雜木ヲ敷木等受取ルモノトス

但請取濟ノ上木數寸間尺ノ數ヲ記載シタル木元代價ノ調書ヲ山林局ヨリ廻付シ來ル時ハ現木ト對

查シ其金額伐木費ヨリ拂出シノ手順ヲ爲スモノトス

第二十二項

一 伐木ニ使役スル職工夫ハ著手前伐木場派出員ノ内飛州信州濃州等ヘ派出シ木數尺ノ數ノ多寡ト伐木場ノ難易ニ從ツテ杣職木挽職日傭職ヲ雇入シ其原籍戸長ノ證書ヲ取り賃錢前貸竝ニ旅費等相渡シ例年四月迄ニ入山セシムルモノトス

但諸樹根切ニ使役スルモノハ東京近傍竝相州邊ヨリ先山職ヲ雇入使役スルモノトス

一 山中伐採場中央ニ元會所ヲ設ケ伐場ニ係ル工業上ノ諸務東京往復ノ文書諸職工夫ノ使役伐木費金ノ出納諸物品ノ購求諸職夫ノ賃錢等例規ニ照シ支出處辨シ船積所團場及支會所入費ハ概算ヲ以テ配賦シ置キ該所ヨリ毎月送致スル諸入費書ヲ検査統括整頓シ仕上帳正副二通ヲ製シ翌月頭本課ヘ送付スルモノトス

一 諸職工夫入山スルニ至レハ其居小屋ヲ山林中ニ設ケ例規ニ照シ賃錢及米鹽醬等ヲ支給スルモノトス

一 諸立木ヲ點檢シ曲直ヲ區別シ先山職ヲシテ根切玉切輪掛等ヲ爲サシメ樹木ノ曲直ニ從テ繩墨ヲ掛ケ杣木挽職ヲシテ創立テ挽割等ヲ爲サシムルモノトス

一 削立濟ミノ諸材ハ川竝職ヲシテ毎材ヘ番號ヲ刻附セシメ寸間ヲ調整シ元簿ニ登記シテ毎材ニ極印ヲ打ツモノトス

一日ノ長短ヲ斟酌シテ工業時間ヲ定メ毎日諸職工夫就業前元會所ニ來集セシメ一人毎ニ職名姓名ヲ記載セル鑑札ヲ下附シ業ニ就カシム停業ノトキモ前同所ニ於テ各自ノ鑑札ヲ納メシメ其人員ヲ著到簿ニ登記シ毎組ノ出而帳ヲ該簿ニ照ラシ檢印下附シ置キ月末ニ至リ毎組總人員ヲ調査シテ賃錢ヲ拂渡スモノトス

但杣木挽先山職ハ時宜ニヨリ尺ノナ以テ賃錢ヲ定メ一時ノ請負ヲ命スルコトモアルモノトス

第二十三項

一番號寸間等調査濟ノ諸材ハ日雇職ヲシテ棧出澤付トナ造ラシメ溪間ニ落シ入レ或ハ敷木堀山トナ以

テ流水ヲ堰キ留メ水中ノ運輸ヲ爲シムルモノトス  
一諸材川出シニ際シ土入ト唱ヘ諸職工夫ノ勤惰ト技能ノ優劣ニ因リ其ノ時々局長ノ裁可ヲ得相當ノ物品ヲ給與スルコトアルモノトス

一山中溪間ヨリ川筋ヘ木材輸出スルトキ山中ニ建設ノ會所及諸職工夫ノ居小屋現就業場ト遠隔スルトキハ適宜ノ民家ヲ借受ケ移轉シ著到調査等ハ就業場ヘ派出シ鑑札渡方等都テ第二十二項ニ同シ  
一諸木材川筋ヘ輸出スル上ハ便宜ノ場所ヲ撰ミ土場ト唱ヘ元會所ヲ同所ニ移シ一時諸材ヲ溜置キ該場ニ於テ棧ニ組立漸々川下シテ船積所ヘ運送スルモノトス

第二十四項

一山ノ官林廣遠ニシテ數里ヲ隔ル場所ハ派出員ノ内分派シテ之ヲ掌理スルコトアルモノトス其會所並職工夫居小屋ノ取設等ハ都テ第二十二項ノ手順ニ同シ

第二十五項

一船積所ハ便宜ノ場所ヘ木材置場ヲ設ケ該所ヘ派出員分派シテ東京横須賀ヘ木材運送元會所等ヘノ往復文書運送賃人足賃其他該場ニ係ル諸般ヲ處辨シ毎月入費書ヲ整頓シ請取證書ヲ添ヘ元會所ヘ送致スルモノトス  
一川上土場ヨリ筏下ケノ諸材來著スルトキハ每木番號寸間ヲ調査シ木種木數尺ノ數ヲ精算シテ其刻付番號ノ順次ヲ追フテ元簿ヘ登錄シ諸木受排並現在諸木ヲ詳記セル出納表ヲ製シ元會所ヲ經テ本課ヘ送致スルモノトス

一東京或ハ横須賀等ヘ送木ノ爲メノ運送船雇入ヲ爲ストキハ其ノ船體ノ強弱ヲ検査シ適當船ト認ルモノハ運賃ヲ指示シ運送請印簿ニ船頭並廻船宿連署ノ請印ヲ爲シシメ木材ノ積入中ハ船頭立會木數寸間等ヲ調査シ木數尺ノ積石數運賃等詳細記載シタル送狀及ヒ該運賃ノ半額ヲ下渡シ殘額ハ納材濟ノ後船積所ニ於テ下附スルモノトス  
但時宜ニ寄り納材先キニ於テ運賃請取方ヲ請求スルモノハ其旨ヲ送り狀ニ記載シ東京又ハ横須賀

ニ於テ渡附ルコトモアルモノトス

第二十六項

一伐木場或ハ木材置場等ニ於テ使役スル諸職工夫ノ内被傷或ハ死亡者アルトキハ官役人夫死傷手當規則ニ準據シ扶助料埋葬料ノ金額ハ定規ノ半額ヲ目途トシ療養料ハ被傷ノ輕重ヲ酌量シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ其事故ヲ詳記シテ局長ノ裁可ヲ得相當支給ヲ爲スモノトス

第二十七項

一直雇諸職工夫ノ内死亡或ハ期限半途ニ解雇スルカ或ハ事故アリ解雇スル時ハ其原籍戸長ヘ通告シテ本課ヘ報告スルノ所轄廳ヘ通知ヲ要スルモノハ其旨具申スルモノトス

第二十八項

一先山柚木挽職ハ工業ノ竣ルニ隨ヒ逐次解雇スト雖モ日用職ハ諸材土場ニ著セルヲ期トシ悉皆解雇スルモノトス  
但翌年ノ工業アルヲ以テ歸國セシ重テテ雇入レテ願出ル者ハ更ニ雇入ノ手順ヲナシ翌年新規雇入ノ人員ニ組入ル、モノトス

第二十九項

一本課附屬ノ西洋形帆船及大和船ヲ以テ木材積入運漕スルトキ伐木費ニ係ルモノハ例規ニ照準調理正算シテ伐木入費ニ組入ルモノトス

第三十項

一私林ノ立木購求伐採ヲ要スルトキハ先ツ所有者ヘ示談シ木元相當代價ヲ吟味シ其ノ承諾スルモノハ買入レ濟ミソノ木數巨多ナルハ直雇職工夫ヲシテ伐採スルト雖モ木數寡少ナルカ或ハ都合ニ依リ其時々許可ヲ得テ東京近傍先山職ノ内巧者ノ者又ハ伐木商人ニ命シ艦材園場及横須賀納メ迄一式尺ノ一本何程ト入費取極メ伐採運送ヲ請負ハシムルコトアルモノトス

第三十一項



一諸建築用ノ石材研出ヲ兼辦スルコトアルトキハ直研出ハ石山ヲ検査シ良石ヲ撰ミ村民所有石ハ石取一切當リ代價ヲ以テ購求シ石山最寄ノ石工及遠近國ヨリ雇入一切當リノ研賃ヲ以テ研出ス等其時々許可ヲ得木材伐採ノ方法ニ倣ヒ該工業ヲ治辦スルモノトス

一用石研出方ヲ請負人へ命スルトキハ派出員ノ内時々石山ヲ巡視シ建築課派出員立會石質研方ノ可否ヲ検査シ約定書ニ對照シテ研出セシメ横須賀へ送石セシムルモノトス

計算課

出納掛取扱假順序

第一項

一作業費其他種々ノ發合費及主船局ヨリ預メ金額ヲ請込ミ其ノ出納ニ關スル正算濟ノ證書ヲ帳簿ニ記入シ主任者捺印課長ノ押切印ヲ以テ出納ノ手順ヲ爲シ其證書ハ每一箇月大小費目ヲ分テ類集編纂シ通算表ヲ卷首ニ編入シ統計掛ニ報告シ現金ノ出納ハ三井銀行出張ノ者ニ於テ取扱フモノトス

但三井銀行ヨリ會計局へ差出ス抵當金高二萬圓ノ額ニ超過セサル様預ケ金ヲ爲シ其内ヨリ切手ヲ以テ日々ノ仕拂ヲ爲スモノトス

第二項

一統計掛ニテ編成シタル諸費勘定書ヲ以テ他向ヨリ收入スヘキ金額ハ收受原簿ト共ニ所長檢印濟ノ上該簿へ月日ヲ記入シ主任者押印課長檢印シテ勘定書ハ庶務課ヲ經其向々へ送達シ金貨收入ノ上請取證ヲ出スモノトス

第三項

一金箱閉閉鍵箱封印ハ其時々課長課僚立會取扱ヲ爲スモノトス

第四項

一日計簿其他ノ帳簿ハ定規明治十年丙第廿六號御達ニ憑テ施行シ毎日所長ノ檢印ヲ受ケ時々現金照査點檢ヲ爲シ金預ケ帳ハ三井銀行ニテ金請取帳ハ三井銀行ニハ課長課僚捺印ノ上所長ノ押切印ヲ受クルモノトス

ス

第五項

一凡ソ金貨出納ニ關スル所長檢印濟ノ書類ヲ庶務課ニ受ケ詳細勸查シ主任者捺印シテ課長點檢押印ノ上出納スルモノトス

第六項

一公布其他一切ノ成規ニ關スル書類ヲ蒐集シテ勘查ノ時々之ニ照シ若シ成規ニ乖戾スルモノアレハ其主務ノ各課掛ニ就テ正ツシメ又成規ノ據ルヘキナキハ課長ニ申告シ見込書ヲ添テ所長ノ裁決ヲ乞フモノトス

第七項

一官員及ヒ雇外國人俸給旅費恩賞諸賄料諸職人賞譽等ノ調書ヲ作り正算捺印シテ課長點檢押切印ヲ經テ所長ノ檢印ヲ受ケ出納スルモノトス

第八項

一一箇月兩度各課掛ヨリ調出セシ調書ヲ警査掛ニ受ケ職工人足ノ雇高ニ應シ金員ヲ算入シテ第三項ノ手順ヲ經出納スルモノトス

第九項

一課用ノ常用品ハ證書ト物品受取帳ト割印シテ證書ハ倉庫課ニ送り物品ト引替受取ルモノトス

一毎月末ニ至リ其月内受取リタル諸品ノ證書ト渡品帳ヲ倉庫課ヨリ送り來ルトキ證書ニ照ラシテ渡品牒ノ各品名上小印シテ渡品帳ハ倉庫課ニ返付シ證書ハ其ノ儘受取リ置クモノトス

一每一箇月ノ受取品ヲ區別シテ表ヲ製シ課名ノ下ニ掛ノ内小印シ月々之ヲ倉庫課ニ送ルモノトス

統計掛取扱假順序

第一項

一成規ニ因テ仕拂タル現金及ヒ應中各職場ニ於テ遣拂フ物品ノ代價ヲ算出シテ類集區分シ毎月統計表

兵制門

陸海軍官制 海軍

ナ調整シ作業費勘定牒ヲ編成シ且諸艦船新製修葺ノ費額ヲ統計シ器械貸渡損讓渡物品ノ代價ヲ算出スルモノトス

第二項

一諸艦船其他内外人貯蓄ノ物品讓受ヲ請求スルトキハ其請求ノ書面ヲ基盤課ニ受ケ現品原價元帳ニ據リ該品ノ代價ヲ附シ課長審査シテ所長ノ檢印ヲ受ケ勘定書ヲ調整シ庶務課ヲ經テ讓受主ニ報告スルモノトス

第三項

一諸艦船修葺費概算竝ニ落成ニ至リ入費金額ヲ精算報知スルノ手順ハ第一項ニ同シ

第四項

一所屬財産ノ原簿ヲ製シ毎歲期限ヲ定メ之カ調査ヲ爲スモノトス  
但原簿ヲ類別スル左ノ如シ

第一號

土地家屋機械船舶

第二號

廳中及發倉ノ物品各職場使用ノ器具

第三號

倉庫艦材醫室其他都ヲノ貯蓄品並書籍

一第一號財産調査ハ毎年一回即チ十二月ヨリ二月迄ヲ以テ定期トス

但調査ノ時々其増減ヲ更正シ價格ヲ附シ年々新簿ヲ製シ所長具申スルモノトス

一第二號財産ノ調査ハ毎年二回トシ二月ヨリ五月迄八月ヨリ十一月迄ヲ以テ定期トス尤月表中四號ハ連々拔萃シテ每期増數ヲ追加シテ調査スルモノトス

但前項ニ同シ

一第三號財産調査ハ毎年一回トシ四月ヨリ起シ六月三十一日ノ貯蓄高ヲ新帳ニ掲ケ價格ヲ附シ八月中迄ニ所長ニ具申スルモノトス  
但醫藥ハ十月中ニ調査スルヲ定規トス

外國費掛取扱假順序

第一項

一雇外國人給料調書竝本人ヨリ調出スル增働表ト共ニ主務課長ノ檢印ヲ受ケ右調書ヲ出納掛ニ送付シテ現金ヲ受領シ本人ニ支給スルモノトス

第二項

一外國人解雇歸國ノ節ハ横濱佛國郵船會社ニ照會シテ本人乗船減賃船賃減價ノ儀ハ兼テ該社トノ約條アリノ手數ヲ爲スモノトス

第三項

一外國注文ノ物品竝ニ横濱外商等ヨリ購求ノ物品代價勘定調書ヲ出納掛ニ受ケ拂金證書ヲ賣主ヘ送致スルモノトス  
但證書ヲ送付スルニハ添書ヲ作り壓寫器ニ當テ出帖留ニ眞寫シテ後照ノ證ニ供スルモノトス

第四項

一外國船舶竝ニ外國人請求品等ノ代價勘定書ヲ統計掛ニ受ケ横文ニ綴リ請求者ニ通知シテ其金員ヲ領收シ出納掛ニ送付スルモノトス

發倉取扱順序

修業職工ニ關スル各般ノ事務ヲ管理スル所トス

第一 舍長

第二 教授掛

第三 記錄掛

舍長

第一條 舍長及諸掛ハ造船所在勤官員各課掛中ヨリ兼務セシムル者トス

第二條 舍長ハ舍内一般ノ事務ヲ總理シ教則ヲ設立シテ修業職工ヲ監督シ且諸官吏ノ勤怠ヲ監視シ學業ニ關シタル該職工ノ賞罰點數増減ハ直ニ之ヲ處分スルヲ得而シテ舍内ノ諸務ハ所長ニ對シ擔保ノ責ニ任ス

第三條 毎月一回ツ、教授掛以下ヲ會集シテ舍内ノ諸務ヲ協議討論セシメ其便否ヲ審案取捨スルノ權ヲ有スト雖モ渾テ所長ニ具申シ許可ヲ得テ施行スヘキモノトス

第四條 授業ノ順序ヲ教授掛ニ指示シ自ラ授業ヲ爲サ、ルモノト雖モ實地不得止ノ都合ニ由テハ自ラ教授スルコトアルヘシ

第五條 教授書ヲ編成スルハ其常務タルヘシ

教授掛

第六條 教授掛ハ舍長病氣或ハ事故アツテ出舍セサルトキ該掛頭ヲシテ其職務ヲ代理セシム

第七條 時宜ニ依リ教授書ノ編成ヲ兼務セシムルコトアルヘシ

第八條 舍長ヨリ配附シタル教則ヲ實施シテ該職工ヲ教導スルヲ任トシ職工學業ノ優劣品行ノ正否及ヒ其勉強怠惰ヲ舍長ニ通告スヘシ

第九條 授業ヲ以テ專務トスルト雖モ平生教則ノ得失利害ニ注目シ會議ノ際其意見ヲ陳述スヘシ

第十條 書籍器具等ノ出入ヲ掌ルハ記録掛ノ任ト雖モ授業上所用ノ諸品ハ各科ノ教授掛モ亦タ是カ散佚ナキヲ注意スヘシ

第十一條 時々職工ニ接對シ其心志情態ヲ見聞熟察シテ會議ノ際是レヲ舍長ニ通告スヘシ

第十二條 該掛ノ人員ハ之ヲ豫定スルアタハス職工ノ多少ニヨリ一人ニテ數科ノ授業ヲ兼辦セシムルコトアルヘシ

記録掛

第十三條 記録掛ハ教授ニ關スル諸件ヲ除クノ外舍内一切ノ事務ヲ整理スルヲ任トス其定例外ノ事件ニ至テハ渾テ舍長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 日々職工ノ出席不參ヲ登錄シ月末是レヲ舍長ニ具狀シ其他該舍ニ關スル布達書教則留日誌等ノ類ハ綿密ニ記載シ他日參考ノ便ニ供スルヲ要ス

第十五條 授業時間ノ外屢々教場ニ出入シテ職工ノ勤止ヲ視察シ學業上ノ怠惰ハ教授掛ニ通告シ行狀ノ不正ハ直チニ是レヲ督責スヘシ

第十六條 會議ノ節ハ其職務ニ關スル事件ノ利害得失ヲ陳述シ且ツ議事ノ大意ヲ筆記シテ他日ノ參考ニ備フヘシ

第十七條 書籍諸器具及ヒ毎月定例ノ筆紙墨ヲ職工ヘ支給スヘシ

第十八條 該舍豫備ノ書籍器具修業職工中拜借ヲ乞フモノハ渾テ證書收受ノ上貸渡スヘシ但授業上臨時必要ノ物品等教授掛ヨリ通知シタルトキハ直ニ職工ヘ相渡スヘシ

醫室取扱假順序

第一項

一 毎朝午前九時ヨリ患者傷者ヲ診察シテ之ニ施術投藥シ傷痕ノ變化ヲ病症日誌ニ記載シ置キ他日診斷證書及ヒ病症履歷書ヲ編成スルモノトス

第二項

一 投與スル藥名分量ハ之ヲ配劑錄ヘ藥價官費ノ分ハ甲種ヘ詳記シ別ニ端紙ニ寫取り置キ之ヲ處カ配劑證書ヘ調藥名ト投與量ヲ記載シ警查掛ノ檢印ヲ受ケテ後之ト處方箋ヘ番號ヲ附シ處方箋ハ藥劑ト共ニ患者ニ附與スルモノトス

一 藥劑支出ノ分ハ日々表ヲ製シ毎月總額ヲ藥品原簿ヘ登錄スルモノトス

第三項

一 職工入夫出業中被傷スルトキハ檢査ノ上治療スルソ五等傷以上ト認ムル者ハ直ニ傷痕報告書正副二

通ヲ庶務課へ送り而シテ病歴轉歸ヲ診定スルノ後傷痕診斷證書病歴書各正副二通ヲ庶務課ニ送ルモノトス

一 毎月患者傷者ノ全治死亡未治等ヲ區別シテ月表ニ登録シ直ニ醫務局へ送達シ年末ニ至リ更ニ合計表ヲ調製シテ同局へ送達スルモノトス

第四項

一 藥價官費ノ分者ノ手當ト出勤中急病ニテ頓服セシ藥劑類ハ藥名數量代價及ヒ投與セシ人名ヲ月表ニ製シ統計掛へ送附スル者トス

一 藥價收入簿ハ分テ二冊トス内一號ハ當所官員兵學機關校 生徒及裁判所囚人等 毎月末藥價調書ト收入證書ト共ニ統計掛へ送附シ二號ハ 兵學機關校 醫官 派山裁判官 即金上納ノ分ニテ其收金ト證書トヲ取束テ毎土曜日統計掛へ送附スル者トス

第五項

一 官吏病氣ニテ五日以上ニ至ルモノハ他醫ノ治療スル所ト雖モ其虛實ヲ診斷シテ之ニ證書ヲ付ス  
一定雇職工病氣ノ節十五日以上ニ及フ者豫テ治療ノ者ハ勿論他醫ノ治療ニ係ル者ト雖モ虛實ヲ診斷シテ之ニ證書ヲ付スル凡テ前條ニ同シ  
但兵學機關校生徒其外當地攝養致難キモノ入院スルカ或ハ所屬ニ歸參スルトキ之ニ從來ノ病歴及ヒ診斷證書等ヲ付スル亦前條ニ同シ

第六項

一 藥品闕乏ノ節ハ藥名數量等記載セシ證書へ所長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ倉庫課ニ送付ス  
一 諸機械及ヒ日用物品等ノ毀損闕乏スルトキハ申出書へ所長ノ檢印ヲ受ケ倉庫課ニ送付スル前條ニ同シ  
一 藥間ニ廻現在ノ藥品ヲ統計掛ト共ニ調査シテ飛散腐濕ノ分ヲ精算シ年計表ヲ製シ所長ニ出シテ檢印ヲ受クルモノトス

第七項

一 退散後及ヒ日曜日ト雖モ急救施治ヲ闕カサル様豫テ月番ヲ定メ置キ當番ノ者ハ遠足セサルモノトス

第八項

一 巡更試験ノ節並ヒ定雇職工出願ノ節ハ警査掛ト同會シテ一々體格ヲ檢査シ其可否ヲ書面ニ詳記シテ庶務課へ送付スルモノトス  
一 派出裁判所拘留人受罰ノ節ハ其體格及ヒ病病ノ有無ヲ一應檢査シテ裁判官ニ報道スルモノトス

造船所ヨリ海軍省へ届十二年十二月二十五日  
事務取扱順序及各課事務章程假定期間可仕旨九年十一月十五日丙第五十三號御達相成候處從來ノ事務取扱方轉換及向後諸般ノ取扱振等何分一定難致事情有之同年同月中右御届方御猶豫御裁可ヲ蒙リ置候處仕入第七百此程粗取扱振モ見込相付候ニ付事務取扱順序並各課事務章程別紙ノ通假定致候條此段御届仕候也 (備考)

海軍省達四年十一月十五日  
各課事務取扱順序及各課事務章程假定期間之上來三十日限り可届出此旨相達候事

造船所ヨリ海軍省へ届十二年十二月二十八日

各課事務假章程並事務取扱假順序之儀昨年十二月二十五日付上第二百三十四號ヲ以テ御届仕置候處造船機械兩課假章程並取扱假順序中都合有之別紙之通改正致候條此段御届仕候也

横須賀造船所各課事務假章程中改正

第三造船課

大小艦船及ヒ之レニ屬スル諸般ノ物具等新製修覆製圖並艦船出入渠其ノ外他方ヨリ注文之製出品所轄船貸渡シ等ノコトヲ掌ル之ヲ分テ掛ヲ置ク

第四機械課

汽罐及諸機械並吸水管等ノ新製修覆製圖其ノ外他方ヨリ注文之製出品等ノ事ヲ掌ル之ヲ分テ掛ヲ置ク

諸般製造所並修理所  
國庫假章程並取扱假順序中改正ス  
周文中申年ハ本年ノ限ナ  
ルヘシ

十三年三月十日修置製圖  
ノ下ニ増加ス

造船課取扱假順序中改正

第一項

一 艦船新製修理並器具ノ改造修理及ヒ他方ヨリ注文ノ製造品一切ノ工事並所管部品ノ貨渡等所達ヲ受ケ主務ノ各掛ニ分配處辨セシメ主管ノ諸事業ヲ監査シ其ノ疎漏誤謬ナカラシムルモノトス  
一 主管スル所流離及諸機械物品吸水管等ノ新製修補並他方ヨリ注文ノ製造品等ニ係ルモノニシテ其ノ取扱振ニ於テハ造船課ト殊異アルコトナシ

造船所ヨリ海軍省へ届 十三年一月十日

舊臘十二月進達濟當所各課事務章程之内造船課中滑車掛條下「且ツ製本」之四字ハ都合有之删除仕候條此段御届仕候也

海軍省達 十三年二月二十七日

横須賀造船所中機裝課自今相廢候條爲心得此旨相達候事

海軍省達 十三年三月五日

主船局並造船所事務章程中別紙ノ通改正及删除候條爲心得此旨相達候事

（別紙）

造船所章程第五條中（且）以下ヲ删除ス

海軍省ヨリ造船所及主船局へ達 十三年三月五日

造船所所轄艦材課東京在勤中ハ主船局長ノ指揮ニ應シ奉職云々九年往入第二百五十六號並主船局所轄横須賀分庫ニ關スル事務ハ造船所長宛ヲ以處分ノ儀十年往入第八百八十四號ヲ以其兩廳伺へ夫々許

横須賀造船所各課事務  
或艦船修理中滑車掛ノ  
條「且ツ製本」之四字ヲ刪  
除ス

横須賀造船所中機裝課  
ヲ廢ス

造船所事務章程第五條  
中且以下ノ文字ヲ删除  
ス

横須賀造船所所轄艦材  
課東京在勤中ト雖同所  
ノ實務トシテ横須賀分庫  
ヲ主船局ノ直轄トナス

十七年十二月海軍省內第  
百七十一號達ヲ以テ海軍  
造船所條例ヲ定ム

可致置候處右ハ都合有之取消候條自今艦材課東京在勤中ト雖モ造船所ニ於テ直轄シ横須賀分庫ノ儀ハ  
總テ各關係ノ諸廳へハ其廳ヨリ通牒可致此旨副達候也

主船局横須賀造船所ヨリ海軍省へ上申九年十月十九日  
作業費並テ區別スル云々公達ニ依リ主船局横須賀造船所及ヒ會計局用度課ニ關スル諸事務取扱ヒ振リ  
等ノ儀會計局長ト連名ニテ見込ノ條々互細上申仕候末去ル十七日御内敵ノ上各課分合配置等ハ概略御  
決定相成候ニ付爾其通リ御發令ニモ候時ハ差當リ左ノ條々御定メ相成度候  
一 艦材課ヲ横須賀造船所中へ編入候條決定候上ハ深川艦材場モ同所ノ所轄ニ被仰付度然シク同場ニ屬ス  
ル諸費用ハ都テ作業費中へ編入候條決定候事  
一 艦材課ヲ横須賀造船所ノ分課ト可被定候ニ付テハ現今主船局々員ト相成居候艦材課ノ官員ハ舉テ造  
船所在勤トシテ赴任セシムヘキノ處艦材場ハ東京ニアリ又艦材用ノ諸材買入方等ハ重モ東京ニテ  
買辦致シ候條ニ付現今主船局ニ居ル艦材課官員ハ一旦横須賀造船所ノ所員ニ被命更ニ東京へ在勤シ  
主船局へ相在勤中ハ都テ同局長ノ指揮ニ應シ奉職致シ候條決定候事  
一 用度課ヲ改止主船局へ編入候條決定候上ハ倉庫課ノ名ヲ可被置候ニ付テハ諸向渡シ諸物品ノ儀東京表面已ニ  
テ渡シ方致シ候テハ實際差支不少候ニ付差向主船局附ノ倉庫トシテ横須賀造船所地内へ一庫ヲ相設  
ク通當經費ニテ購求セシ諸物品及ヒ造船所へ注文シテ製出シタル物品トモ此庫中へ格納シ主船局倉  
庫課官員ノ内ヨリ横須賀ニ在勤シ横須賀須賀浦港碇泊ノ艦船及ヒ此三箇所ニアル諸廳ニ於テ物  
品ヲ請求候節々營業費ニ編入セサル諸物品ハ横須賀ニ在勤スル主船局倉庫課ヨリ相渡シ候事ニ致シ  
度隨テ其在勤官員ハ都テ造船所長ノ指揮ニ應シ奉職致候條決定候事  
但本省ヲ始メ東京内ニアル諸廳及ヒ省内入用品海從泊艦船等ヨリ物品請求ノ分ハ都テ主船本局ニ  
居ル倉庫課ヨリ渡シ方取計ヒ候積リノ事  
一 是迄主船局調度課中へ倉庫掛ヲ置キ深川艦材場内ニ設ケアル倉庫所ニ於テソノト石鹼等製出候處  
右ハ營業ニ屬スヘキ掛リニ付此度造船所基盤課中へ倉庫掛ヲ置キ其官員ハ造船所ノ所員トシテ更ニ  
東京ニ在勤セシメ在勤中ハ都テ主船局長ノ指揮ニ應シ奉職致シ候條決定候事  
右ハ去ル十七日御決裁ノ通り御發令相成候上ハ前行ノ條々同時ニ御取極メ相成度隨テ右條々ノ内章程  
中へ御摘要可相成候ハ御記載相成度候又章程ニ御記載難相成分ハ御達書將々何分ノ御指揮御座候條仕  
度此段手續トシテ上申仕候也

造船所ヨリ海軍省へ届 十三年三月十日

今般機裝課被廢候ニ付テハ昨年十二月御濟濟各課假假章程及事務取扱假順序造船課ノ部へ別紙甲乙號ノ通

兵制門 陸海軍官制 海軍二

増加致且ツ庶務課警査掛事務取扱假順序第十三條ノ二項中同丙號ノ通削除候條此段御届仕候也

(別紙)

甲號

造船課事務假章程增加

乙號

修覆製圖ノ下ニ及ヒ艦船ノ等位ニ應スル機裝修整並艦船云々

造船課取扱假順序增加但第一項ノ末ニ條列ス

一新艦機裝ニ臨ミ其船具一切諸帆及ヒ甲板上ノ屬具一切或ハ號令座楫取場ノ位置及車或ハ諸室倉庫  
彈藥庫銃砲ノ裝置等ヲ調理スルトキ所内ニテ製出スヘキ分ハ所長ノ檢印アル證書ヲ以テ其主務ノ  
課掛ニ送り製造或ハ附著セシメ所外ノ廳ニ關スル部分ニ於テハ書面ヲ以テ申出其指令ヲ受ルモノ  
トス

一右機裝整頓シ其所轄ヘ引渡ノ期ニ臨テ同艦ヘ整備スヘキ品具ハ書面ニテ申出各所管ノ廳ヨリ受取  
物品ハ主船局ノ倉庫ヨリ兵什ハ兵器  
局ヨリ測量器ハ水路局ヨリ受取ノ類之ヲ艦船目録ニ掲載スルモノトス  
但常用トシテ月々倉庫ヨリ受取ヘキ支消品ノ類ハ此限ニ非ス

丙號

庶務課中警査掛事務取扱假順序第十三條第二項

「官員履歷編纂及」ノ七字削除

機裝費造船所進支二名  
ヲ増員ス

十七年三月二十八日進支  
ヲ機裝費ニ添テ

造船所ヨリ海軍省ヘ申出十三日四月十九日  
兼テ御届仕候當所事務取扱假順序並各課事務假定ヘ相添候進支職務假規則該吏總員二十八名ト有之  
候處所内三ヶ所保海岸ヘ見張所不相設候半々ハ取締上實際支有之候處從來之人員ニテハ不足致候ニ付  
今般該吏二名増員致度此段申出候也  
但見張所ハ一箇所ニ候得共一晝夜ノ之交代ニ付二名之増員ヲ要スル儀ニ有之候條此段申添候也  
指令 十三年四月二十四日

申出之趣御届候事

造船所ヨリ海軍省ヘ届 十三年六月九日

當所艦材課中伐採掛材掛ヲ置キ豆州其外伐木ニ係ル事務伐採掛ニ於テ管理セシメ當所内及東京深川  
艦材園場ニ於ケル木材一切ニ係ル事務掛材掛ニ於テ爲取扱候條此段御届仕候也  
但取扱順序等ノ儀ハ追テ御届仕候答此段申添候也

海軍省達 十三年七月二十八日

造船所事務章程中第二十八條同二十八條別紙ノ通改正候條爲心得此旨相違候事

別紙

第二十八條 興業費ヲ要スル諸建築ヲナス事

第三十八條 營業費ヲ以テ諸建築ヲナス事

海軍省届 十三年七月二十九日  
海軍造船所事務章程中第二十八條同三十八條左ノ通改正候條此旨御届仕候也

造船所ヨリ海軍省ヘ上申十三年六月十五日  
修繕ノ外ハ大小ヲ不問凡新建ニ該ルモノ一切經何ノ成規ニ候處中ニハ項細ノ分即巡吏見張所或ハ雪隠  
等ノ如キモ既ニ新建ニ屬スル以上ハ一々何出ル等如何ニモ煩雜ニシテ其不急ノ如キハ暫ク措キ目下  
向タル場ニ當テハ素ヨリ經何ノ暇無之ニ付一時假設ヲ以テ其間ニ合セ候儀等毎々有之他  
日無用ノ分ハ論ナク到底無クテ不付分ハ都度々々假設スル如何ニモ不益ニシテ其分營業上ノ損失ヲ  
不俟論當所ノ如キハ作業費ニシテ受掛ニ制限有之各局廳ト費途モ不同旁凡營業費ヲ以テ支辨スル分ハ新  
建ト修理トヲ不問當所限リ處辨致興業費ニ該ル分ハ從前ノ通經何候様致成然ルトキハ前々ヨリ仕續都  
合致行候等實際上便利共ニ得候ニ付當所章程中別紙ノ通御改正相成様仕度此段上請仕候也  
指令 十三年七月二十九日

別紙

一造船所事務章程中  
第二十八條 倉庫及諸廠舍諸工場等興業費ヲ以テ新設スル事

兵制門 陸海軍官制 海軍二

第三十八條 定例金ヲ以テ艦船ノ破損ヲ復舊修繕シ及營業費ヲ以テ建築修繕スル事

附錄  
一 興業費ヲ要スル諸建築ヲナス事  
二 興業費ヲ要スル新設建築ノ事  
三 營業費ヲ以テ建築修繕ヲナス事  
四 營業費ヲ以テ建築修繕ヲナス事  
會計局議案十三年七月三十一日  
造船所章程中二箇條改正云々揚考仕候處作業費施行ノ屬ハ一般通常經費ヲ以テスル諸建築ト其業ヲ同シ  
テ其趣ヲ異ニス然ルニ該所章程御制定ノ比ハ作業條例御發行以前ニシテ今日ニ至リテハ該條例並ニ造  
修船規則等モ御定制相成自然章程中不適當ノ廉モ有之ニ付別紙章程改正案附錄ノ通御修正相成候方ト  
思考候也

造船所防衛監督官力  
ヲ心得シム

造船所ヨリ海軍省ヘ伺十四年三月五日  
常所計算爲監督此度奈良主計少監在勤被命此節出頭相成候處造船所所在勤ト御達相成候上ハ即所同ト心  
得他ノ所員一様ノ取扱致可然俄監督ノ名義上ヨリ思考候得ハ即本省ヨリ計算取締トシテ當所ヘ被置候  
モノニシテ所同ト運庭有之様ニモ被存候且又計算監督々々御達而ニ候處當所工業一品ノ物ノ微ト雖モ  
之ヲ造修スルニ當テハ先以テ計算ノ上落手スル順序有之則倉庫建築材料基盤ノ各課ヨリ職場ニ至迄  
計算ニ不涉モノ無之候處右等モ計算ニ涉ルハ一切監督ヲ可受備ニ可有之哉去月往出第三〇三號御達  
ニ副ヘタル會計局長ノ啓申ニ依ンハ全ク計算課員交換ノ爲メニ被置候旨意ニ相見得且又同文中ニ諸經  
費田納ノ都合ヲ得ル云々ト有之等故是參觀スルハ監督スル所偏ニ計算課中ノ經費田納上ニ止リ候様相  
見得候得共尙分明了ナリサルヨリ事務上蓋支候條早急右取扱御指揮相成様致度此段伺出候也  
指令十四年三月十七日

同ノ趣他ノ在勤者同様相心得ヘク監督ノ儀ハ所中會計向ニ涉候件ハ總テ擔當可致事

造船所ヨリ海軍省ヘ伺十四年十二月二十日

造船課中

整理掛ヲ置キ

機械課中

整理掛ヲ置キ

横須賀造船所造船機械  
介庫三箇中掛ヲ置キ

倉庫課中

調査掛ヲ置キ

右ノ通事務ノ都合有之今般三掛差置候條此段御届仕候也

横須賀造船所中巡更ヲ  
廢シ監護ヲ陸軍服務隊  
則テ定ム

監護ノ政區ハ海軍省第四  
五十號ヲ以テ送スル所海  
軍官等ノ部ニ載ス  
十九年二月海軍省第四  
六號送リ以テ横須賀造船  
所條例ヲ定ム

横須賀造船所防衛監督官力  
十七年三月二十八日

横須賀造船所所在勤ノ監護ハ庶務課ニ屬シテ一切警査掛ノ指揮ヲ受ケ兩門ノ守衛構内一般ノ取締ト保護  
トヲ以テ目的トシ職工人足其餘ノ非違ヲ視察シ怠惰ヲ督責シ盜火ヲ消防スル等ヲ以テ本務トス此外臨  
時命スル事項アルトキハ謹テ之ニ從事スヘキ事

一 甲ノ日午前九時ヨリ乙ノ日午前九時迄一晝夜ヲ以テ勤務時間トス

一 午前八時三十分ニ出勤シ九時ニ至テ交代スルモノトス

一 上席ノ者幾名ヲ以テ本課詰トシ事務ノ暇ヲ以テ専ラ各監護ノ勤怠職工人足其他怠慢非違ヲ視察スル  
モノトス

一 門衛及各區ハ四人ヲ以テ一組トシ隔日交代シテ職務ニ從事シ各區ハ其區内ノ取締ヲ擔任スヘキ事

一 各自持區内ニ於テ出火盜難其他取締上不行届ノ事アルトキハ當直ハ勿論渾テ其責ニ任スルモノトス

一 當直詰所ハ警査掛ノ命ニ依リ臨時其職務ニ服スルモノトス

一 上官ノ命令ヲ違奉シ諸規則ヲ確守スヘシ

一 平日ハ勿論臨時召喚ヲ受ケ出勤スルトキト雖モ必ス制服帽ヲ著スヘシ詰所内ニテハ帽ヲ脱シ詰所ヲ  
離ル、トキハ心ス帽ヲ著シヘキ事

一 非番ト雖モ召喚ヲ受レハ速ニ出勤スヘシ假令召喚ヲ不受トモ出火其外非常ノ事アルヲ聞知セハ速ニ  
駈付ヘシ

一 判任以上ニ禮スルトキハ右手ヲ帽ニ致シ或ハ歩止メ通過ヲ待テ歩スヘシ辭ヲ接スルトキハ帽ヲ  
脱シ終テ一禮シ帽ヲ被ルヘシ

但士官以上ノ記章アル服ヲ著スルモノニ對スルトキハ内外國人ヲ問ハス其知ルト知ラサルト構内  
外ニ關セス渾テ禮スルモノトス  
又自己ノ職ヲ管轄スル官長ニ對スルトキハ判任ト雖モ奏任ニ對スル式ニ依テ禮スヘキ事  
一 取締所前ヲ所長ノ通過アルトキハ戶外ニ出テ敬禮スヘシ其他海軍長官ハ勿論貴顯通過ノトキモ亦同  
シ  
一 警査掛巡視シテ門衛及取締所ニ至ルトキハ同ク禮シテ持区内ノ現況ヲ報スヘシ  
但本課詰ノ監護巡行ノ節モ区内現況ヲ報スル本文ニ同シ  
一 怪者ト見認ムルトキハ之ヲ取糺スハ勿論現ニ犯則者ヲ認ムルトキハ其者管轄スル課掛へ旨ヲ告ケ連  
行シテ警査掛ノ指揮ヲ受クヘシ  
一 構内ニテ外國人妨碍ヲ爲シ或ハ犯禁ノ者ハ丁寧ニ説諭スヘシ若シ制止ヲ拒ムモノ及ヒ現ニ犯罪ノ者  
ハ其國所姓名ヲ聞取り受取リ警査掛へ報告シテ指揮ヲ受クヘシ  
但犯人外國人ノ住居内へ逃匿スルトキハ走路ヲ遮斷シテ掛ノ指揮ヲ受ル本文ノ通  
一 諸建物ノ戸締リ器具物品ノ散亂及構内諸蕪穢ノ掃除盜火ノ豫防等平素注意シ務テ之ヲ防遏スヘシ  
但建物破損等不取締ノ廉ハ勿論蕪穢ノ個所ハ速ニ警査掛へ申出ヘシ  
一 構内ニテ覆面スルモノ放歌スルモノハ制止スヘシ便桶ノ外放尿スル者亦同シ  
一 艦船ノ出入灣及入出槳ノ都度其艦船名ト時日等事務警査兩掛へ届出ヘシ  
一 當所納品運送等ノ船舶發著岸ノ節船内點檢ノ上發著時日ト船名乘員姓名等警査掛へ届出ヘシ退散後  
ハ構内沿岸ニ繫船セシムヘカラス  
一 前灣朱點内ニ於テ魚漁スルヲ認ムルトキハ速カニ之ヲ警査掛ニ連行シテ其指揮ヲ受クヘシ  
一 構内ニテ鬪爭暴動スルカ或ハ失心者アルトキハ連行シテ警査掛ノ指揮ヲ受クヘシ勿論人命ニ關スル  
危急ハ之ヲ救護スヘキ事  
一 毎週啣筒取扱ノ演習スルモノトス

巡視服務規則  
十二月二十五日所定條  
ニ在リ上ニ載ス  
巡視ノ際ハ十七年三月海  
軍省令第五十一號ヲ以テ  
觀スル所海軍官等ノ部ニ  
載スル所管トナス  
横須賀造船所ノ構造費  
總守府ノ所管トナス  
造船所事務章程ヲ廢シ  
條例ヲ定ム  
十九年二月海軍省內第三  
十四號通ヲ以テ廢ス

一 職工退散ノ定時限外ニ出入門スル官吏ハ必ス兩門衛ニ於テ出入帳ニ姓名記載致シ置クヘシ  
一 當所出勤スルモノ及ヒ軍人ノ外ハ日中ト雖モ入出門ノ節姓名事故聞糺スヘシ  
一 諸物品出門ノ節警査掛ノ檢印アル證書有ラサレハ一切通門セシムヘカラス其通門證へハ取扱タル門  
衛ノ者必ス認印ヲ捺スヘシ士官以上携帶スル物品ハ此限ニアラス  
但碇泊艦船へ日々出入スル飲食物等ノ商估ハ入門ノ節一應聞糺シ出門ノ節ハ商品相改メ通門ヲ許  
スヘシ  
一 辨當巡ヒノ者自家使ノ者及ヒ場内一覽人ノ外ハ狼狽ニ婦人ノ出入ヲ許スヘカラス  
一 兩門間通り抜ケ及ヒ諸官員タリトモ休日構内遊歩ノ爲メ入門スルモノハ之ヲ制止スヘシ  
一 以上當直中ノ實況ハ總ヲ之ヲ手帳ニ記載シ警査掛へ差出モノトス  
但他監護ノ巡回又ハ取締所ニアルヲ認ムルトキハ其姓名時刻ヲモ記載スルモノトス  
一 病傷等ニテ出勤中引入節ハ必ス軍醫ノ診斷證ヲ添へ届出ヘシ若シ同斷ニテ出勤シ難キトキ軍醫ノ診  
斷證ヲ得難キ場合ニ於テハ其主治醫ノ診斷證へ軍醫ノ檢査書ヲ添へ届出ルモノトス  
一 奉職中ハ一切商業ヲ營ムヲ許サス

横須賀造船所ヨリ海軍省へ届十七年三月二十八日  
巡視服務規則ノ條ハ去ル明治十二年十二月中上第二三四號ヲ以御届仕置候處今般該職ヲ被廢更  
ニ監護ヲ被置候ニ就テハ右監護服務概則別紙之通取扱候條此段御届仕置候也

海軍省達 第十七年十二月十五日 海軍一 般

横須賀海軍造船所自今横須賀鎮守府ノ所管ニ屬ス此旨相達候事

海軍省達 第十七年十二月十五日 海軍一 般

海軍造船所事務章程ヲ廢シ海軍造船所條例左ノ通相定ム此旨相達候事

海軍造船所條例



- 第一條 海軍造船所ハ鎮守府ニ屬シ艦船汽機及ヒ其屬具等ヲ製造修理シ竝ニ艦船ヲ修裝スル所トス
- 第二條 所内ニ庶務課検査部造船課機械課主計部主藏課建築課ノ五課ニ部ヲ置キ各其事務ヲ分掌セシム
- 第三條 庶務課ハ所長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守所内公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ監護以下定人足等ヲ管シ所内一般ノ警護竝ニ他ノ主管ニ屬セサル庶務ヲ掌理ス
- 第四條 検査部ハ新製改造若クハ修理艦船機械及ヒ材料需用物品諸建築土工水利ノ検査又ハ艦船機械修理ノ方案竝ニ各工場監督ノ事ヲ掌理ス
- 第五條 造船課ハ艦船及ヒ其屬具ノ新製改造修理等ノ事ヲ掌理ス
- 第六條 機械課ハ汽機汽機及ヒ其屬具ノ新製改造修理等ノ事ヲ掌理ス
- 第七條 主計部ハ經費金錢ノ出納及ヒ材料需用物品ノ買辦又ハ賣却其他總テ會計ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第八條 主藏課ハ材料其他需用物品ノ貯藏保存配賦出納等ノ事ヲ掌理ス
- 第九條 建築課ハ船渠及ヒ土地家屋諸建物ヲ主管シ其營繕及ヒ土工水利等ノ事ヲ掌理ス
- 第十條 所長一人少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補シ所轄諸員ヲ統督シ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第十一條 所長ハ主管ノ事務ニ於テハ鎮守府長官ニ對シ其當否ヲ辯明スルヲ得而シテ亦擔保ノ責ニ任ス
- 第十二條 所長ハ所轄諸員ノ進退黜陟ヲ鎮守府長官ニ具狀スルコトヲ得
- 第十三條 所長ハ工事監護工夫職工或ハ日給五十錢以下ノ傭員ヲ進退黜陟スルコトヲ得
- 第十四條 所長ハ所轄判任以下ノ技術員ニ五十錢以下ノ加俸ヲ給與シ又ハ之ヲ増減スルコトヲ得
- 第十五條 所長ハ課務ヲ分テ掛ヲ設クルコトヲ得
- 第十六條 所長ハ主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルコトヲ得
- 第十七條 次長一人大佐若クハ中佐ヲ以テ之ニ補シ所長ヲ補佐シテ所内ノ事務ヲ調理シ長事故アルト

- キハ其代理ヲ爲ス
- 第十八條 知港事一人次長ヲ以テ之ニ兼補シ港内繫泊場及ヒ浮標ノ事ヲ擔任シ艦船ニ碇泊場ヲ指示シ且ツ之ヲシテ港内規則ヲ遵守セシムルヲ任トス
- 第十九條 知港事ハ出入港艦船ヨリ水路嚮導者ヲ請求スルトキハ之ヲ派出シ又其艦船入港若クハ繫泊等ノ際助力ヲ請フトキハ之ニ應ス可シ
- 第二十條 知港事ハ艦船出入渠ノ事ヲ掌ル可シ
- 第二十一條 知港事ハ出入港艦船ノ爲メニ設置スル目標ハ海上陸上ヲ論セス總テ之ヲ擔任ス可シ
- 第二十二條 知港事ハ艦船修裝ノ事ヲ掌ル可シ
- 第二十三條 副知港事一人少佐若クハ大尉ヲ以テ之ニ補シ知港事ヲ補佐シテ事務ヲ調理シ知港事故アルトキハ其代理ヲ爲ス
- 第二十四條 知港事ノ下ニ屬僚若干人ヲ置キ其主務ニ從事セシム
- 第二十五條 課長各一人武文官ヲ以テ之ニ充テ所長ノ命ヲ受ケ各其課務ヲ擔任ス
- 第二十六條 検査部長一人技監若クハ大匠司ヲ以テ之ニ充テ主計長一人主計官ヲ以テ之ニ補シ所長ノ命ヲ受ケ各其部務ヲ擔任ス
- 第二十七條 検査主計ノ二部造船機械主藏建築ノ四課ニ主幹若干人ヲ置ク
- 第二十八條 主幹ハ各長ノ命ヲ受ケ各分掌ノ事業ヲ擔任シ長事故アルトキハ先任ノ主幹其代理ヲ爲スコトヲ得
- 第二十九條 造船機械建築ノ三課ニ工場長若干人ヲ置ク
- 第三十條 工場長ハ各工場ニ在テ手工工夫職工以下ヲ監督シ課長竝ニ主幹ノ命ヲ受ケ各分掌ノ作業ヲ擔任ス
- 第三十一條 各部課ニ屬僚若干人ヲ置キ各長ノ命ヲ受ケ各其主務ニ從事セシム
- 第三十二條 所内ニ軍醫以下若干人ヲ置キ醫務衛生ノ事ヲ掌ラシム又其下ニ看護手看護夫若干人ヲ置

第三十三條 本所ノ下ニ鑿舍ヲ置キ修業工夫ヲ教育ス其委詳ハ鑿舍規則ニ在リ

海軍省通 十九年二月二十五日  
海軍鎮守府事務章程 海軍造船所事務章程ヲ廢シ鎮守府條例海軍造船所條例鎮守府武庫條例同倉庫條例別冊之通相定候條此段御届仕候也

海軍省達 十九年二月二十三  
明治十七年 月十二 丙第百七十一號達海軍造船所條例ヲ廢ス

海軍省達 十九年二月二十三  
其府所轄横須賀海軍造船所條例別冊ノ通相定ム

海軍省達 十九年二月二十三  
横須賀海軍造船所條例別冊ノ通相定ム候條此旨相達候也

横須賀海軍造船所條例  
第一條 横須賀海軍造船所ハ横須賀鎮守府ニ屬シ艦船汽機及ヒ其屬具等ヲ製造修理シ並ニ艦船ヲ修裝スル所トス

第二條 横須賀造船所ノ職員ハ左ノ如シ

- 所長 少將或ハ大佐 一人
- 次長 大中佐 一人
- 屬員 判任官 十二人
- 造船科
- 科長 奏任官 一人
- 主幹 奏任官 三人

十九年四月十三日附掛中  
ヲ廢合ス

職員 判任官 四人

- 製圖掛 工場長 判任官 一人
- 工場掛 工場掛 判任官 三人
- 工場掛 工場掛 判任官 三人
- 工場掛 工場掛 判任官 二人
- 工場掛 工場掛 判任官 六人
- 工場掛 工場掛 判任官 十五人
- 船渠掛 工場長 判任官 一人
- 工場掛 工場掛 判任官 二人
- 工場掛 工場掛 判任官 一人
- 工場掛 工場掛 判任官 二人
- 工場掛 工場掛 判任官 一人
- 工場掛 工場掛 判任官 一人
- 工場掛 工場掛 判任官 一人
- 工場掛 工場掛 判任官 一人
- 工場掛 工場掛 判任官 二人
- 工場掛 工場掛 判任官 八人

工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	一人
工手		二人
製綱掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	一人
工手		三人
雜製掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	一人
工手		三人
鋸鉋掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	一人
工手		二人
機械科		
科長	奏任官	一人
主幹	奏任官	三人
屬員	判任官	四人
製圖掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	三人
工手		二人

鋸鉋掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	二人
工手		十二人
模型掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	一人
工手		三人
煉鐵掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	一人
工手		十人
整飾掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	一人
工手		六人
組立掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	二人
工手		十二人
鑄造掛		
工場長	判任官	一人

工場掛	判任官	一人
工手		五人
製罐掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	二人
工手		十六人
主計部		
主計長	主計官	一人
屬員	判任官	十七人
建築科		
科長	奏任官	一人
屬員	判任官	二人
營繕掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	二人
工手		五人
築造掛		
工場長	判任官	一人
工場掛	判任官	二人
工手		五人
倉庫		
倉庫	判任官	一人
主事	判任官	一人

風員	判任官	十人
知港部		
知港事	次長ヲ以テ兼補ス	一人
副知港事	大尉	一人
屬員	判任官	二人
船具掛	判任官	三人
工手		六人
喪舍		
舍長	判任官	一人
教授掛	判任官	二人
記録掛	判任官	一人
醫室		
軍醫長	軍醫	一人
軍醫		三人
看護手		一人
看病夫		一人

第三條 所長ハ所轄諸員ヲ統督シ主管ノ事務ヲ總理ス

第四條 所長ハ主管ノ事務ニ於テハ鎮守府長官ニ對シ其當否ヲ辯明スルヲ得而シテ亦擔保ノ責ニ任ス

第五條 所長ハ所轄諸員ノ進退黜陟ヲ鎮守府長官ニ具狀スルコトヲ得

第六條 所長ハ工手監護工夫職工或ハ日給五十錢以下ノ傭員ヲ進退黜陟スルコトヲ得

第七條 所長ハ所轄判任以下ノ技術員ニ五十錢以下ノ加俸ヲ給與シ又ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第八條 次長ハ所長ヲ補佐シテ所内ノ事務ヲ調理シ長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス

十九年三月二十二日第六條  
ヲ改正シ第七條ヲ廢ス

第九條 知港事ハ港内錨泊場及ヒ浮標ノ事ヲ擔任シ艦船ニ碇泊場ヲ指示シ且ツ之ヲシテ港内規則ヲ遵守セシムルヲ任トス

第十條 知港事ハ出入港艦船ヨリ水路嚮導者ヲ請求スルトキハ之ヲ派出シ又其艦船入港若クハ錨泊等ノ際助力ヲ請フトキハ之ニ應ス可シ

第十一條 知港事ハ艦船出入渠ノ事ヲ掌ル

第十二條 知港事ハ出入港艦船ノ爲メニ設置スル目標ハ海上陸上ヲ論セス總テ之ヲ擔任ス

第十三條 知港事ハ計畫ニ基キ艦船ヲ機裝スル事ヲ掌ル

第十四條 副知港事ハ知港事ヲ補佐シテ事務ヲ調理シ知港事事故アルトキハ其代理ヲ爲ス

第十五條 科長主計長軍醫長倉庫主事倉長ハ所長ノ命ヲ受ケ各其主務ヲ擔任ス

第十六條 主幹ハ各長ノ命ヲ受ケ各分掌ノ事業ヲ擔任シ長事故アルトキハ先任ノ主幹其代理ヲ爲ス

第十七條 工場長ハ各工場ニ在テ手工夫職工以下ヲ監督シ科長並ニ主幹ノ命ヲ受ケ各分掌ノ作業ヲ擔任ス

第十八條 所長專屬員ハ所長ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事シ監護以下定人足等ヲ管シ所内一般ノ警護並ニ他ノ主管ニ屬セサル事項ヲ掌理ス

海軍省局十九年二月二十三日  
横須賀海軍造船所條例別冊ノ通知定候條此旨及御届候也

横須賀造船所各科主計部及倉庫貯蓄品調査ノ事

海軍省ヨリ横須賀鎮守府へ達十九年二月二十七日

其府所轄横須賀海軍造船所各科主計部及倉庫貯蓄品事務當分左之通知相定ム

第一條 造船科ハ所屬工場ノ管理艦船及其屬具ノ新製改造修理本科ノ使用ニ屬スル購入材料ノ検査及倉庫貯蓄品調査ノ事ヲ掌理ス

第二條 機械科ハ所屬工場ノ管理汽機汽罐及其屬具ノ新製改造修理本科ノ使用ニ屬スル購入材料ノ検査及倉庫貯蓄品調査ノ事ヲ掌理ス

第三條 主計部ハ經費金錢ノ出納材料需要物品ノ買辦賣却及倉庫貯蓄品出納帳簿ノ調査其他會計ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條 建築科ハ所屬工場船渠土地家屋ノ主管營繕水陸ノ工事本科ノ使用ニ屬スル購入材料ノ検査及倉庫貯蓄品調査ノ事ヲ掌理ス

第五條 倉庫ハ材料及需用物品ノ貯藏保存配賦出納ノ事ヲ掌理ス

海軍省ヨリ横須賀鎮守府へ達十九年三月十二日

横須賀造船所條例第六條左ノ通知改正シ第七條ヲ廢シ及長浦水雷武庫條例第五條ヲ廢ス

横須賀造船所條例

第六條 所長ハ手工夫監護工夫職工ヲ進退黜陟スルコトヲ得

横須賀造船所條例第六條改正シ第七條ヲ廢シ及長浦水雷武庫條例第五條ヲ廢ス

横須賀鎮守府ヨリ海軍省へ上申十九年四月七日  
造船所工場諸掛ノ内廢止合併等ノ備別紙ノ通り同所次長ヨリ申出候條御允可相成度此段及上申候也

但定員見込相定候ハ、更ニ上申可致事

横須賀造船所ヨリ横須賀鎮守府へ上申十九年四月六日

一端船掛雜製掛ヲ廢止シ

右事業ハ船渠掛ニテ取扱ノ事

一填隙掛ヲ廢止シ

右事業ハ船渠掛ニテ取扱ノ事

一製帆掛ヲ廢止シ

右事業ハ船渠掛ニテ取扱ノ事

一整備掛ヲ廢止シ

右事業ハ船渠掛ニテ取扱ノ事

前掛ノ通知改正此段上申候也

追テ廢止スル五掛ニ出勤ノ者ハ先ツ其儘合併ノ掛へ出勤爲致置退テ定員相定ムル見込ニ候條爲念此段申添候也

指令十九年四月十三日

書面ノ趣認許ス

横須賀造船所官制ヲ定ム

海軍省令 第十九号 五月二十四日

横須賀造船所官制左ノ通定ム

横須賀造船所官制

第一條 横須賀造船所ニ横須賀鎮守府ノ管理ニ屬シ作業費ヲ以テ艦船機關及其屬具ヲ製造修理スル所トス

第二條 横須賀造船所ニ造船科機械科機裝科建築科計算課倉庫費舎ヲ置ク

第三條 横須賀造船所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人	大中佐
次長	一人	技師 <small>所内一科ノ長ヲ兼テシム</small>
所長專屬員	十二人	屬
造船科長	一人	技師
造船科主幹	三人	技師
造船科屬員	四人	屬一人 技手三人
造船科工場長	五人	技手
造船科工場掛	十九人以内	技手
機械科長	一人	技師
機械科主幹	三人	技師
機械科屬員	四人	屬一人 技手三人
機械科工場長	七人	技手
機械科工場掛	十五人以内	技手

二十一年十二月二十七日迄  
船機部附科並科ヲ増員ス

二十一年十月海軍省第百  
十四號令ヲ以テ機舎長及  
倉庫員ノ項ヲ改正ス

機裝科長	一人	少佐或大尉
機裝科主幹	一人	大中尉
機裝科屬員	二人	判任武官或技手
機裝科工場長	一人	技手
機裝科工場掛	一人	技手
建築科長	一人	技師
建築科屬員	二人	屬
建築科工場長	二人	技手
建築科工場掛	四人	技手
計算課長	一人	主計少監或大主計
計算課員	一人	大中主計
計算課屬員	十五人	屬
主庫	一人	屬
倉庫屬員	九人	屬
費舎長	一人	屬
費舎屬員	二人	屬

第四條 所長ハ横須賀鎮守府司令長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ總理ス

第五條 次長ハ所長ヲ助ケ所務ヲ整理ス

第六條 造船科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 作業費ヲ以テ艦船及其屬具ヲ新製改造修理スル事
- 二 所屬ノ工場及諸機械ヲ管理スル事
- 三 所内船臺ニ在ル艦船ヲ管理スル事

- 四 本科ノ所用ニ屬スル購入材料ヲ検査シ貯蓄材料ヲ調査スル事
  - 五 作業費ヲ以テ新製改造修理スル艦船ノ入費概算書ヲ調整スル事
- 第七條 機械科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 作業費ヲ以テ汽機汽缸及其屬具ヲ製造修理スル事
  - 二 所屬ノ工場及諸器械ヲ管理スル事
  - 三 本科ノ所用ニ屬スル購入材料ヲ検査シ貯蓄材料ヲ調査スル事
  - 四 作業費ヲ以テ新製改造修理スル汽機汽缸其屬具ノ入費概算書ヲ調整スル事
- 第八條 艦裝科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 作業費ヲ以テ製造修理スル艦船ヲ艦裝スル事
  - 二 所内ノ海面及諸浮標等ヲ管理スル事
  - 三 船具及所屬諸船艇諸器械ヲ管理スル事
  - 四 修繕艦船ヲ繋維シ所内ノ船渠ニ艦船ヲ出入スル事
  - 五 作業費ヲ以テ製造修理スル艦船ノ艦裝ニ係ル入費概算書ヲ調整スル事
- 第九條 作業費ヲ以テ製造修理スル艦船ノ兵器及其搭載ニ關スル事業ハ各其種類ニ依リ造船機械艦裝ノ三科ニ於テ分擔スヘシ
- 第十條 建築科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 作業費ヲ以テ船渠船臺土地家屋ヲ建築修繕シ其他土木ノ工事ヲ爲ス事
  - 二 作業費ニ屬スル土地建造物及所屬工場諸器械ヲ管理スル事
  - 三 作業費ニ屬スル建築修理ノ仕様帳ヲ調整スル事
  - 四 本科ノ所用ニ屬スル購入材料ヲ検査シ貯蓄材料ヲ調査スル事
  - 五 作業費ニ屬スル土地ノ地券ヲ管守スル事
  - 六 作業費ニ屬スル建築修理ノ豫算決算ヲ計算スル事

- 第十一條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 興業費營業費收入金ノ出納及豫算精算ノ整理ニ關スル事項
  - 二 海軍艦船ノ製造修理ニ關スル入費概算書ヲ統理スル事
  - 三 材料需用物品ノ買辦賣却ニ關スル事項
  - 四 倉庫貯蓄品ノ出納簿ヲ調査スル事
  - 五 職工ノ出場退場ヲ調査シ及賃銀ヲ支給スル事
- 第十二條 倉庫ニ於テハ材料及需用物品ヲ貯藏シ其供給出納ヲ掌ル
- 第十三條 發倉ニ於テハ修業工夫ヲ教育ス
- 第十四條 科長課長主庫發倉長ハ造船所長ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ整理ス
- 第十五條 各科主幹計算課員ハ各其長ヲ助ケ其主務ノ事業ヲ分擔ス
- 第十六條 所長專屬員ハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 所内ノ庶務
  - 二 監護定人足ヲ支配スル事
  - 三 所内取締ノ事
  - 四 所内一般ノ報告統計ヲ整理スル事
- 第十七條 各科計算課倉庫發倉ノ屬員ハ各其長又ハ主幹ノ命ヲ承ケ其主務ニ從事ス
- 第十八條 各科工場長工場掛ハ科長又ハ主幹ノ命ヲ承ケ主務ノ工事ヲ分擔ス

横須賀造船所造船機

海軍省軍令二十年十二月五日

横須賀造船所造船機兩科主幹ハ建造ノ計畫重要ノ製圖ヲ爲シシムル者ニシテ高等教育ヲ受ケタル者ヲ要スル職務ニ候處是迄ハ其定員ヲ三人トシ外ニ東京大學又ハ工部大學卒業ノ學士ヲ判任技手ニ任用シ工場掛ノ名ヲ與ヘ主幹ノ職務ヲ助ケシメ來候處昨年官等改正以來學士輩多クハ奏任ニ進ミタル上官試驗採用ノ制ニ相立候今日ニ於テハ學士ヲ判任技手トシ主幹ヲ補助セシムルハ不穩當ナルノミナラス現任ノ者ハ進路塞カレカ故去リテ他ニ任官又ハ被雇ノ途ヲ求ムルノ情アリ後來ハ學士ヲ海軍造船所

ニ入ル、ノ地位ナキカ故三人ノ定員ヲ六人ト爲シ兩科合シテ六人ヲ増スコトヲ認可セシレ度尤認可相成候上ハ判任技手ノ定員中六人ヲ減却スルノ見込ニ御座候此段呈聞候也  
追テ目下建造中ナル三艘ノ軍艦ハ是迄製造シ來ルモノニ比スルハ精巧緻密ヲ要スルニ付一艦ニ兩科ノ主幹一名宛ヲ付シ監督セシムルヲ要スル旨顧問ヘルタン氏ヨリ申出ノ次第モ有之ニ付至急認可ヲ得度此段申添候也

指令二十年十二月二十七日

請議ノ通

法制局議案二十年十二月二十三日  
海軍大臣請議横須賀造船所造船機械兩科主幹増員ノ件ヲ案スルニ右兩科主幹ノ定員ヲ増加スルノ事情ハ同大臣具申ノ通ニテ事實不得止儀ト思考ス因テ請議ノ通裁可セシレ可然ト認ム

海軍省達 十七年二月二十五日

神戶ニ小野濱海軍造船所ヲ設置シ主船局所管ニ附候條此旨相達候事

神戶ニ小野濱造船所ヲ設置シ主船局ノ所管トナス  
十七年二月海軍省第四百五號達ヲ以テ小野濱造船所條例ヲ定ム  
備前ノ件ハ海軍省ノ部ニ載ス

神戶小野濱ニアル英國人イ、シ、キ、ル、ビ、氏舊所有製造所諸機械其他買入ノ儀伺濟ニ付今般該地ニ小野濱海軍造船所ヲ設置シ主船局所管ニ附候條此段御届仕候也  
主船局ヨリ海軍省へ上申十七年一月十七日  
神戶小野濱製造所購取方ノ儀ハ現今上申中ノ處右御允可ノ上ハ早速大和艦ノ工事ヲ始メ諸工業施行ノ進ヒニ相成度然ルニ右ハ創業ノ儀ニ付該所ハ常局ノ所轄ニ附セラル且小野濱海軍造船所ト名號ヲ付セラル候事ニ致度隨テ所長其他差向左記ノ通り置カシ度候條右等御允可ノ上ハ人名等ハ取調進テ上申可仕候此段爲手續豫テ上申仕候也  
一所長 一名  
所中一切ノ事務ヲ掌ル  
製圖係 若干名  
船殼係 若干名  
木工係 若干名  
模製係 同  
製鐵係 同  
組立係 同  
旋盤係 同  
鑄造係 同

煉鐵係 同  
船具係 同  
一所長ノ命ヲ受テ各般ノ工事ヲ處辨ス  
一庶務係 若干名  
一所長ノ命ヲ受テ文書ノ往復記録ノ編纂横文ノ通譯所中ノ守警其他一切ノ庶務ヲ辦理ス  
一會計主任 一名  
一所長ノ命ヲ受テ左ノ各係ニ屬スル諸般ノ事項ヲ管理ス  
倉庫係 若干名  
督買係 若干名  
計算係 同  
指令十七年一月二十四日  
上申ノ趣聞届候條別紙附箋ノ通修正施行可致事

主船局ヨリ海軍省へ上申十七年七月一日  
小野濱造船所ヲ常局所轄ニ付セラル候ニ付テハ該所ニ係ル處分ニ限リ横須賀造船所章程ニ準シ左之通リ御許可相成度此段上申仕候也  
一 小野濱造船所工場中ニテ使用スル大機械ヲ新規外國へ注文スル事  
右ハ海軍卿ノ許可ヲ得ヘキ事  
一 小野濱造船所在勤技術判任官以下二十一級以下既定ノ加俸ヲ給シ及ヒ等外相當以下ノ者ヲ黜陟進退スル事  
一 小野濱造船所營業費内ヲ以テ諸建築ヲナス事  
一 小野濱造船所所長ヲシテ十五里内ノ地へ派出セシムル事  
一 小野濱造船所ニ係ル損廢等ニテ不用ノ器具物品元價三十圓以内ノモノヲ公賣スル事  
右四項ハ主船局長專行ヲ得ヘキ事  
指令十七年七月二日

上申之趣聞届候條附箋之通修正施行可致事  
但營業費ヲ以テ支辨スヘキ分ト雖モ諸廠舍諸工場倉庫等ノ新設及ヒ新ニ土功ヲ起ス節等ハ都テ可伺出尤モ一時ノ假小屋新設ヲ要スル節其費額金五百圓以下ノ分ハ不及伺出且又復舊修繕ト雖モ其入費概算金千圓以上ニ及フモノハ可伺出事

小野濱造船所所屬ノ權限ヲ定ム  
此日海軍省第四百五號達ヲ以テ條例ヲ定ム



小野濱造船所條例ヲ定ム  
十九年七月閣令第二十一號  
以テ小野濱造船所官制ヲ定ム

海軍省達 十七年七月二日 一般  
主船局所轄小野濱海軍造船所條例左ノ通相定ム此旨相達候事

小野濱海軍造船所條例

- 第一條 小野濱海軍造船所ハ主船局ニ屬シ艦船汽機及ヒ其屬具等ヲ製造修理スル所トス
- 第二條 所内ニ庶務造船計算ノ三課ヲ置キ各其事務ヲ分掌セシム
- 第三條 庶務課ハ所長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製及ヒ監護ヲ管シ所内一般ノ警護並ニ他ノ主管ニ屬セサル庶務ヲ掌理ス
- 第四條 造船課ハ艦船及ヒ汽機汽罐並ニ其屬具ノ新製改造修理等ノ事ヲ掌理ス
- 第五條 計算課ハ經費金錢ノ出納所内需用物品ノ買辦貯藏及ヒ土木營繕其他會計ニ關スル一切ノ事ヲ掌理ス
- 第六條 所長一人六等官以上ヲ以テ之レニ充テ所轄諸員ヲ統督シ主管ノ事務ヲ幹理ス
- 第七條 所長ハ主管ノ事務ニ於テハ主船局長ニ對シ其當否ヲ辯明スルコトヲ得而シテ亦擔保ノ責ニ任ス
- 第八條 所長ハ所轄諸員ノ進退黜陟ヲ主船局長ニ具狀スルコトヲ得
- 第九條 所長ハ工夫或ハ日給五十錢以下ノ雇員ヲ進退黜陟スルコトヲ得
- 第十條 所長ハ課務ヲ分テ掛ヲ設ケルコトヲ得
- 第十一條 所長ハ主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スルコトヲ得
- 第十二條 所長ハ所員ヲ十五里内ノ地ニ派出セシムルコトヲ得
- 第十三條 所長ハ判任以下ノ除服出勤ヲ命スルコトヲ得
- 第十四條 所長ハ營業費豫算内ヲ以テ機具物品ヲ買辦スルコトヲ得
- 第十五條 所長ハ營業費豫算内ヲ以テ所屬ノ船舶及ヒ諸建築等ノ破損ヲ復舊修繕スルコトヲ得
- 第十六條 所長ハ内外官民ノ需メニ應シ船舶及ヒ機械ヲ修理スルコトヲ得

小野濱造船所庶務課中  
警護掛ヲ置ク

小野濱造船所庶務課中  
服務掛ヲ定ム

二十年十月三十一日改正

- 第十七條 課長各一人八等官以上ヲ以テ之レニ充テ所長ノ命ヲ受ケ各其主務ヲ擔任ス  
所長事故アルトキハ造船課長其代理ヲ爲スコトヲ得
- 第十八條 造船課ニ監職若干人ヲ置キ常ニ工場ニ在ツテ工夫以下ヲ監督シ課長ノ命ヲ受ケ各分掌ノ工業ヲ擔任セシム
- 第十九條 各課ニ課僚若干人ヲ置キ課長ノ命ヲ受ケ各其主務ニ從事セシム  
課長事故アルトキハ先任ノ課僚其代理ヲ爲スコトヲ得

主船局ヨリ海軍省ヘ届 十七年七月二日

小野濱造船所庶務課中へ警護掛ヲ置候條此段御届仕候也

小野濱海軍造船所庶務課中 十七年七月二日

- 第一條 小野濱造船所庶務課ニ屬シテ一切警護掛ノ指揮ヲ受ケ所門ノ守衛構内一般ノ取締ト保護トヲ以テ目的トシ職工人足其餘ノ非違ヲ視察シ怠惰ヲ督責シ盜火ヲ消防スル等ヲ以テ本務トス此外臨時命スル事項アルトキハ謹テ之ニ從事スヘキ事
- 第二條 甲ノ日午前九時ヨリ乙ノ日午前九時迄一晝夜ヲ以テ勤務時間トス
- 第三條 午前八時三十分ニ出勤シ九時ニ至テ交代スルモノトス
- 第四條 上席ノ者幾名ヲ以テ本課諸トシ事務ノ暇ヲ以テ專ラ各監護ノ勤意職工人足其他怠慢非違ヲ視察スルモノトス
- 第五條 門衛及各區ハ四人ヲ以テ一組トシ隔日交代シテ職務ニ從事シ其取締ヲ擔任スヘキ事
- 第六條 各自持區内ニ於テ出火盜難其他取締上不行届ノコトアルトキハ當直ハ勿論渾テ其責ニ任スルモノトス
- 第七條 當直所詰ハ警護掛ノ命ニ依リ臨時其職務ニ服スルモノトス

- 第八條 上官ノ命令ヲ遵奉シ諸規則ヲ遵守スヘシ
- 第九條 平日ハ勿論臨時召喚ヲ受ケ出勤スルト雖モ必制服帽ヲ著スヘシ詰所内ニテハ帽ヲ脱シ詰所ヲ離ル、時ハ必ス帽ヲ著スヘキ事
- 第十條 非番ト雖モ召喚ヲ受クレハ速ニ出勤スヘシ假令召喚ヲ受ケストモ出火其他非常ノコトアルヲ聞知セハ速ニ馳付ヘシ
- 第十一條 怪者ト認ムルトキハ之レヲ取糺スハ勿論現行犯者ヲ認ムルトキハ直ニ連行シテ警査掛ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第十二條 構内ニテ外國人妨碍ヲ爲シ或ハ現行犯者アルトキハ丁寧ニ説諭スヘシ若シ制止ヲ拒ムモノハ其國所姓名ヲ聞取り名刺ヲ受取り警査掛ヘ報告シテ指揮ヲ受クヘシ
- 第十三條 諸建物ノ戸締器具物品ノ散亂及構内諸蕪穢ノ掃除盜火ノ豫防等平素注意シ務テ之ヲ防遏スヘシ
- 但建物破損等不取締ノ廉ハ勿論蕪穢ノ箇所ハ速ニ警査掛ニ申出ツヘシ
- 第十四條 構内ニテ覆面スルモノ放歌スルモノハ制止スヘシ便所ノ外放尿スルモノ亦同シ
- 第十五條 當所納品運送等ノ船舶發着岸ノ節船内點檢ノ上發着時日ト船名乘員姓名等警査掛ヘ届出ヘシ退散後ハ構内沿岸ニ繫船セシムヘカラス
- 第十六條 構内ニテ鬭爭暴動スルカ或ハ失心者アルトキハ連行シテ警査掛ノ指揮ヲ受クヘシ勿論人命ニ關スル危急ハ之レヲ救護スヘシ
- 第十七條 每週簡取扱ノ演習スルモノトス
- 第十八條 出勤退散ノ定時限外ニ出入門スル官吏ハ必ス門衛ニ於テ出入帳ニ姓名記載致置クヘシ
- 第十九條 當所へ出勤スルモノ及軍人ノ外ハ日中ト雖モ出入門ノ節姓名事故聞糺スヘシ
- 第二十條 諸物品出門ノ節警査掛ノ檢印アル證書有ラザレハ一切通門セシムヘカラス其通門證ヘハ取扱タル門衛ノモノ必ス認印ヲ捺スヘシ士官以上制服ヲ著シ携帶スル物品ハ此限りニアラス

但碇泊艦船ヘ日々出入スル飲食物等ノ商估ハ入門ノ節一應聞糺シ出門ノ節ハ商品相改メ通門ヲ許スヘシ

- 第二十一條 辨當運ヒノ者自家使ノ者及場内一覽人ノ外ハ猥ニ婦人ノ出入ヲ許スヘカラス
- 第二十二條 諸官人タリトモ休日構内遊歩ノ爲メ入門セシムヘカラス
- 第二十三條 以上當直中ノ實況ハ總テ之レヲ手帳ニ記載シ警査掛ヘ差出スモノトス但他監護ノ巡回又ハ見帳所ニアルヲ認ムルトキハ其姓名時刻ヲ記載スヘシ
- 第二十四條 病症等ニテ出勤シ難キトキハ其主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ届出ルモノトス
- 第二十五條 奉職中ハ一切商業ヲ營ムヲ許ルサス
- 第二十六條 門戸ノ鎖鑰閉閉ニ方リ其時刻ヲ誤マラサル様厚ク注意スヘシ
- 第二十七條 職業怠慢ノ者吸烟ノ者時刻前喫飯及ヒ退散用意セントスル者ノ如キ我影響ヲ認メ幡然其容姿ヲ改メ證據ヲキ者ハ説諭シテ後來ヲ警メ若シ其傍ラニ至リ犯蹟ヲ咎ムル迄改メサル者ハ連行シテ警査掛ヘ申告スヘシ
- 第二十八條 所内一覽人ハ百事丁寧ニ取扱ヒ一覽ノ際所内ノ雜沓ヲ制シ危險ニ近付サル様懇切説示スヘシ
- 第二十九條 門衛中ハ別シテ容儀ヲ嚴ニシ正面シテ出入ヲ監査スヘシ他務ニ紛レ通門者ヲ知ラサル等ノコトアルヘカラス
- 第三十條 奏任以上ニ對スルトキハ椅子ヲ離レ直立シ或ハ歩ヲ止メ通過ヲ待テ歩シ辭ヲ接スルトキハ帽ヲ脱シ終テ一禮ノ後帽ヲ被ルヘシ
- 但士官以上ノ徽章アル服ヲ著スルモノニ對スルトキハ内外國人ヲ問ハス其知ルト知ラサルト構内外ニ關セス渾テ禮スルモノトス又自己ノ職ヲ管轄スル官長ニ對スルトキハ判任ト雖モ奏任ニ對スル式ニ依テ禮スヘシ
- 第三十一條 見張所前ヲ所長ノ通過アルトキハ直立シテ帽ヲ脱シ敬禮スヘシ其他陸海軍長官ハ勿論貴

顯通過ノ時ハ戶外ニ出テ直立シテ帽ヲ脱シ敬禮スヘシ

第三十二條 警査掛巡視シテ見張所ニ至ルトキハ敬禮シテ後帽ヲ脱シ區内ノ現況ヲ報スヘシ  
但本課詰ノ監護巡行ノ節モ區内現況ヲ報スル本文ニ同シ

第三十三條 互ニ禮讓ヲ以テ一和協力互ニ凌蔑スヘカラス且職事ヲ談スルトキト雖モ高聲ヲ爲スヘカラス勿論無用ノ雜話ニ長スヘカラス

第三十四條 出勤中ハ公務ノ外出門スヘカラス

第三十五條 職務ヲ惰リ讀書習字スヘカラス職務外ノ所業爲スヘカラス

第三十六條 自己ノ言行ヲ正シ決シテ威權箇間敷所爲アルヘカラス最モ容姿ヲ嚴ニシ職工人足等ノ侮慢ヲ受ケケル様心懸若シ嘲弄スル者アルモ耐忍シ漫ニ憤怒ノ色ヲ現シ爭論鬪毆等輕忽ノ舉動アルヘカラス

第三十七條 出勤退散ノ節他人ニ托シ勤怠帳ヘ捺印スヘカラス

第三十八條 乙ノ日交代ノ節ハ門衛及各區共誦テ當番中ノコトヲ巨細ニ警査掛當直ヘ届出然ル後退散スヘシ

第三十九條 門衛巡同中ハ吸烟スヘカラス辨當ノ外猥リニ飲食物ヲ持込ムヘカラス非番ト雖モ醉體ニテ出入スヘカラス

第四十條 出勤中ハ他人ト同行スヘカラス懇意ノ者タリトモ詰所内ヘ立入ラスヘカラス

第四十一條 巡同中ハ物ニ倚リ或ハ腰掛ケ睡眠等スヘカラス

第四十二條 持區内ハ晝夜共間斷ナク巡同シ二人共見張所内ニアルヘカラス

第四十三條 巡同中ハ勿論出勤退散又ハ交代ノ途中私事ノ爲メ門衛及見張所或ハ所内脇道等ヘ立寄りヘカラス但本課詰當直所詰ノ者巡同ノ節公務ノ外ハ立寄り雜話等爲スヘカラス

第四十四條 所内燈臺ヲ監シ燈臺番ヲシテ照燈消火及ヒ該燈掃除等ヲ爲シムヘシ

本課詰監護服務心得

第一條 本課詰監護ハ警査掛ノ指揮ヲ奉シテ臨時構内ヲ巡視シ或ハ賦課ニ隨テ其事務ニ從事スルモノトス

第二條 本課詰監護ハ常ニ言行端正監護ノ標準トナリ人ヲシテ自ラ悛タムル所アラシムルヲ要トス其威權箇間敷輕忽ノ所爲等ハ最モ慎ミ職權ヲ汚ツル様特ニ注意スヘシ

第三條 本課詰監護ハ前文ノ如ク衆監護ノ標準タルモノナレハ務メテ虛論ヲ祛リ實行ヲ主トシ其實ノ舉ラツレハ其責ニ任スヘシ諸規則ノ如キ己レ率先履踐シ衆ヲ勸奨鼓舞シテ其和ヲ失ハカラス若シ

爭論ニ涉ラントスルカ如キハ之レヲ警査掛ノ處分ニ任ス猥リニ其職權ヲ傷ハサルヲ要ス

第四條 巡視ノ際各區見張ノ監護能ク其職務ヲ竭セシヤ否ヤヲ視察シ惰ル者アレハ一々手帳ニ記載シテ之レヲ申告スヘシ

但手帳ニ記載スルモノハ惟是ノミナラス其視察スル所ノ景況ヲ單簡ニ摘載スヘシ某ハ何處ヲ巡同

シ或ハ何區ノ見張所ニアルト云カ如キハ晝夜ニ關セス之レヲ掲クヲ要トス

第五條 巡視ノ際專ラ監護ノ勸怠ヲ視察スヘシト雖モ傍ラ職工人足其他ノ者ノ怠慢非違ヲモ視察シ之レヲ認ムルトキハ課掛ニ告ケ之レヲ連行シテ警査掛ノ指揮ヲ受クヘシ

第六條 巡視ノ際場内ノ取締ト保護トニ於テ不便或ハ妨害アリト認ムルモノハ勿論器具物品ノ散失及

構内諸蕪穢ノ掃除盜火ノ豫防等ニ注目シテ之レヲ警査掛ニ申告スヘシ

第七條 本掛退散ノ上ハ當直所ニ在テ職務ニ從事スルモ猶前條ノ如シ

主船局ヨリ海軍省ヘ届十七年七月二日

小野濱海軍造船所ヘ監護十八名ヲ置クヘキ儀ハ普第一八三五號御允可ニ付テハ服務概則別冊之通取極メ候條此段御届仕候也

主船局ヨリ海軍省ヘ届十七年七月二十九日  
當局所轄小野濱造船所計算課中ニ艦材掛ヲ設置候條此段御届仕候也

小野濱造船所計算課中  
ニ艦材掛ヲ置ク  
十七年八月八日造船計算  
ノ附録中各掛ヲ置ク

小野濱造船所造船計  
算掛中各掛ヲ置ク

主船局ヨリ海軍省へ届 十七年八月八日  
當局所轄小野濱造船所造船計  
算ノ兩課中へ左記ノ通り各掛ヲ設置候條此段御届仕候也

造船課

製圖掛造船機關 船臺掛木工 模型掛

製罐掛 組立掛 旋盤掛

鑄造掛 鍊鐵掛 船具掛

計算課

計算掛 用度掛 倉庫掛

艦材掛

主船局ヨリ海軍省へ届 十七年九月二十五日

小野濱造船所造船計  
算掛中各掛ヲ置ク  
今般右計算課中計算掛ヲ計理掛ト改稱致候此段御届仕候也

主船局ヨリ海軍省へ届 十七年十二月二十三日

小野濱造船所造船課中監査掛ヲ廢シ該掛ノ事務ヲ同課警査掛ニ於テ爲取扱候條此段御届仕候也

主船局長ヨリ海軍省へ上申 十八年一月二十二日

去ル明治八年二月記三套第十七號御省達書中各所在勤ノ諸官員歸省云々ニ當リ該長官トアルハ御直轄ノ府外各廳長官ヲ指名セラレシモノニシテ間接ニ涉ル小野濱造船所長ノ如キハ該當セザル儀ト思考致候得共右御達ノ御旨趣ハ畢竟實際ノ便否御斟酌上ヨリ斯ク該長官ニ委任セラレシ儀ト想察致候就テハ

小野濱造船所造船課中  
監査掛ヲ廢シ事務ヲ同  
課警査掛ニ取扱ハシム  
ス  
小野濱造船所所在勤ノ者  
歸省願出ノ節ハ所長限  
リ間接ニ涉ル  
十八年二月記三套第十七號  
達ハ海軍官制規則ニ載ス

小野濱造船所ノ如キハ該所在勤ノ輩歸省願出ノ節ハ情實取糺シ事務差支等無之ト認ムルモノハ所長於テ聞届其旨届出サセ候事ニ豫テ御聞届相成度依テ仰高裁候也 月日不詳 決裁

閣令 十九年七月一日

小野濱造船所官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

小野濱造船所官制

第一條 小野濱造船所ハ吳鎮守府開廳マテ海軍省艦政局ノ管理ニ屬シ作業費ヲ以テ艦船機關及其屬具

ヲ製造修繕シ竣ニ之ヲ改造修理スル所トス

第二條 小野濱造船所ニ製造科及計算課ヲ置ク

第三條 小野濱造船所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人 技師
- 製造科長 一人 技師
- 製造科主任 二人 技師
- 製造科工場總長 一人 技師
- 製造科工場長 十一人以内 技手
- 計算課長 一人 大主計
- 主庫 一人 製造科長ヲ以テ之ヲ兼ネシム

第四條 所長ハ艦政局長ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第五條 製造科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、艦船機關及其屬具ヲ製造修繕シ竣ニ之ヲ改造修理スル事
- 二、前項ニ係ル費用ノ概算書ヲ調整スル事
- 三、購入ス可キ材料ヲ檢査シ及貯藏ノ材料ヲ調査スル事

小野濱造船所官制ヲ定  
ム  
二十一年七月閣令第十一  
號ヲ以テ條中ノ改正別添  
ス

小野濱造船所造船計算  
副課中各掛ヲ附シ

主船局ヨリ海軍省へ届 十七年八月八日  
當局所轄小野濱造船所造船計算ノ兩課中へ左記ノ通り各掛ヲ設置候條此段御届仕候也

小野濱造船所

造船課

製圖掛造船機關 船臺掛木工 模型掛

製罐掛 組立掛 旋盤掛

鑄造掛 鍊鐵掛 船具掛

計算課

計算掛 用度掛 倉庫掛

艦材掛

主船局ヨリ海軍省へ届 十七年九月二十五日

小野濱造船所造船計算兩課中へ各掛設置ノ儀去ル八月中主船第四〇四號ノ三七五ヲ以テ御届仕置候處  
今般右計算課中計算掛ヲ計理掛ト改稱致候此段御届仕候也

主船局ヨリ海軍省へ届 十七年十二月二十三日

小野濱造船所造船課中監査掛ヲ廢シ該掛ノ事務ヲ同課警査掛ニ於テ爲取扱候條此段御届仕候也

主船局長ヨリ海軍省へ上申 十八年一月二十二日

去ル明治八年二月記三套第十七號御省達書中各所在勤ノ諸官員歸省云々ニ當リ該長官トアルハ御直轄  
ノ府外各廳長官ヲ指名セラレシモノニシテ間接ニ涉ル小野濱造船所長ノ如キハ該當セサル儀ト思考致  
候得共右御達ノ御旨趣ハ畢竟實際ノ便否御斟酌上ヨリ斯ク該長官ニ委任セラレシ儀ト想察致候就テハ

小野濱造船所造船課中  
監査掛ヲ廢シ事務ヲ同  
課警査掛ニ取扱ハシム  
ノ旨ニ依リテ御届仕  
候也

十七年九月二十五日計  
算掛ヲ計理掛ト改稱ス

小野濱造船所造船課中  
計算掛ヲ計理掛ト改稱  
ス

小野濱造船所造船課中  
監査掛ヲ廢シ事務ヲ同  
課警査掛ニ取扱ハシム  
ノ旨ニ依リテ御届仕  
候也

小野濱造船所造船課中  
主船局長ヨリ海軍省へ  
上申ノ旨ニ依リテ御届  
仕候也

小野濱造船所ノ如キハ該所在勤ノ警備省願出ノ節ハ情實取札シ事務差支等無之ト認ムルモノハ所長於  
テ御届其旨届出シテ候事ニ豫テ御聞届相成度依テ仰高裁候也 月日不詳

閣令 十九年七月一日

小野濱造船所官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

小野濱造船所官制

第一條 小野濱造船所ハ吳鎮守府開廳マテ海軍省艦政局ノ管理ニ屬シ作業費ヲ以テ艦船機關及其屬具  
ヲ製造修繕シ竝ニ之ヲ改造修理スル所トス

第二條 小野濱造船所ニ製造科及計算課ヲ置ク

第三條 小野濱造船所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人 技師
- 製造科長 一人 技師
- 製造科主幹 二人 技師
- 製造科工場總長 一人 技師
- 製造科工場長 十一人以内 技手
- 計算課長 一人 大主計
- 主庫 一人 製造科長ヲ以テ之ヲ兼ネシム

第四條 所長ハ艦政局長ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第五條 製造科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、艦船機關及其屬具ヲ製造修繕シ竝ニ之ヲ改造修理スル事
- 二、前項ニ係ル費用ノ概算書ヲ調整スル事
- 三、購入ス可キ材料ヲ檢査シ及貯藏ノ材料ヲ調査スル事

小野濱造船所官制ヲ定  
ムル旨ニ依リテ御届仕  
候也

- 四、各工場及諸機械ヲ管理スル事
- 五、艦船及其屬具ヲ管理スル事
- 六、本所所屬ノ水陸諸標等ヲ管理スル事
- 七、艦船ヲ繋維シ又ハ之ヲ堀内ニ出入スル事
- 八、本所所屬ノ船臺及諸建物ノ建築修繕其他土木工事ニ關スル事
- 九、前項ニ係ル仕様帳竝ニ其概算書ヲ調整スル事
- 十、本所所屬ノ土地建物ヲ管理スル事
- 第六條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一、作業費金ノ收支出納及豫算決算ヲ整理スル事
  - 二、艦船機關及其屬具ノ製造修繕裝設ニ改造修理ニ關スル費用ノ概算書ヲ調整スル事
  - 三、建築修繕ニ關スル費用ノ概算書ヲ調整スル事
  - 四、材料物品ノ購買賣却ニ關スル事
  - 五、材料物品ノ出納簿ヲ調査スル事
  - 六、工夫以下ノ出場退場ヲ調査シ及其賃銀ヲ支給スル事
  - 七、定人足ヲ支配スル事
  - 八、本所所屬ノ地券ヲ管守スル事
- 第七條 倉庫ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一、材料物品ヲ貯藏シ其供給出納ヲ爲ス事
  - 二、購入スヘキ物品ヲ検査シ及貯藏ノ物品ヲ調査スル事
- 第八條 科長課長主庫ハ所長ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ整理ス
- 第九條 主幹ハ科長ヲ助ケ主務ノ事業ヲ分擔ス
- 第十條 工場總長ハ所長科長又ハ主幹ノ命ヲ承ケ工場ニ係ル工事ヲ擔任ス

二十年十月間令第二十一號ヲ以テ第十三條ヲ改正ス

小野濱造船所々長事故アルトキハ製造科長ニ代理セシム

小野濱造船所所用物件中同所附近ニ於テ購買便宜ノモノハ此ニ之ヲ購買セシム

- 第十一條 工場長ハ科長主幹又ハ工場總長ノ命ヲ承ケ主務ノ工事ヲ分擔ス
- 第十二條 所長ニ判任官若干名ヲ專屬セシメ左ノ事務ヲ掌ラシム
  - 一、所長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付ニ關スル事
  - 二、官印ヲ監守スル事
  - 三、監護ヲ支配スル事
  - 四、所内ノ警護ヲ監督スル事
  - 五、所内一般ノ報告統計ヲ調整スル事
  - 六、他ノ主管ニ屬セサル事務ニ關スル事
- 第十三條 第三條ニ掲クル職員ノ外職員トシテ判任官若干人ヲ置ク

艦政局ヨリ海軍省へ上申十九年七月二日

小野濱造船所ノ儀ハ次長ハ役カンサル制ニ付所長事故アルトキハ製造科長ヲシテ代理セシムル事ニ豫テ御臨時相成候様致度此段上申候也

指令 十九年七月六日

書面ノ趣認許ス

督買部ヨリ海軍省へ上申十九年九月九日

小野濱造船所所用ノ物件ハ總テ來ル十月一日以後督買部ニ於テ購買ス可キ儀ニ有之候處該造船所ハ資本モ僅少ニシテ豫メ需用ノ諸材料ヲ購買貯藏難致ニ付入用ノ時ニ臨ミ致購求候實況ニ有之趣ニ候處同造船所ハ遠隔ノ所ニ付其時々當部ニ要求候テハ不便不勘且ツ同造船所ハ永久可被置御見込ニモ無之候間來十月以後ト雖モ同所附近ノ地方ニ於テ臨時購買候方便益ノ物ニ限リ同造船所ニ於テ直ニ購買候方可然ト存候條艦政局へ此旨御命令相成度此段上申候也

指令 十九年九月十三日

書面ノ趣認許ス

小野濱造船所官制第十  
三條ヲ改正ス  
二十一年七月海軍省第四  
十七號達ヲ以テ職員ノ定  
員ヲ定ム  
小野濱造船所監護服務  
内加テ改正ス

閣令二十一年十月十二日  
明治十九年七月閣令第二十一號小野濱造船所官制第十三條左ノ通改正ス  
第十三條 第三條ニ掲クル職員ノ外軍醫一人看護手一人ヲ置キ又職員トシテ判任官若干人ヲ置ク

小野濱造船所監護服務内則二十一年十月三十一日

第一章 總則

第一條 監護ハ所長專屬員ニ屬シテ一切其指揮ヲ受ケ諸門ノ守衛構内ノ取締ヲ以テ本務トスルモノニシテ工夫長以下諸職工人足等ノ故意疎虞懈怠過失ヲ監シ及ヒ工夫以下ノ出入ヲ查シ又災害ヲ豫防スル等渾テ工業ノ妨碍ヲ防護シ所内一般ノ安寧ヲ保護スルニアリ

第二章 職別

第二條 監護中ニ監護主務ト監護部長トヲ置ク

第三條 監護主務ハ上席ノ者一人監護部長ハ其次席ノ者二人ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 監護若干分ツテ甲乙ノ二部トス

第三章 監護主務

第五條 監護主務ハ擔掌ノ事務ニ於テハ所屬長ニ對シ擔保ノ責ニ任ス

第六條 監護主務ハ第一條ヲ以テ職務ノ大目的トシテ監護部長以下ヲ取締リ其勤怠ヲ監視シ部署巡視等渾テ周到ナラシムルヲ要ス

第七條 監護主務ハ左ニ記列ノ事務ヲ取扱フモノトス

- 一 一般監護ノ配置方ニ關スル事
- 二 職工入退業ノ手續ニ關スル事
- 三 工夫長以下ノ犯則者處分ニ關スル事
- 四 一般監護ノ交番勤休日夜表及ヒ事故實效錄ヲ調査スル事

五 一般監護ノ違則簿ヲ調査スル事

六 一般監護ノ官給品ヲ検査スルコト及其受渡ニ關スル事

七 消防夫ノ勤怠ヲ監視スル事

八 防火用具ノ取扱ニ關スル事

九 工夫以下ノ職札ヲ監視スル事

十 出門證ニ關スル事

十一 檢疫事務ニ關スル事

十二 負傷者又ハ臨時急病者ニ關スル事

十三 漂流物及ヒ遺失物ニ關スル事

十四 右ノ外所屬長ヨリ命スル事

第四章 監護部長

第八條 監護部長ハ擔掌ノ事務ニ於テハ所屬長ニ對シ擔保ノ責ニ任ス而シテ監護主務ノ監督ニ屬ス

第九條 監護部長ハ第一條ヲ以テ職務ノ大目的トシ部下ノ監護ヲ取締リ其勤怠ヲ監視シ各交番區及見張所等ヲ監督巡視スルヲ以テ其要務トス

第十條 監護部長ハ常ニ監護主務ヲ補佐シ主務不在ノトキハ其事務ヲ代理ス

第十一條 監護部長ハ左ノ記列ノ事務ヲ取扱フモノトス

- 一 部下監護ヲ日々順番ニ配置スル事
- 二 部下監護ノ整列交代ニ關スル事
- 三 部下監護ノ交番勤休日夜表ヲ調製スル事
- 四 部下監護ノ事故實効錄ヲ調製スル事
- 五 部下監護ノ違則簿ヲ調製スル事
- 六 部下監護ノ官給品ヲ検査スル事

七 消防夫ヲ指揮監督スル事  
八 防火具ヲ監主スル事

第五章 監護

第十二條 監護ハ各配置所受持區内ニ於テ出火盜難其他取締上不行届ヨリ生スル事故アル時ハ渾テ其責ニ任ス

第十三條 配置所出務中ノ事故ハ總テ之ヲ手帖ニ記載シ休憩時間ノ都度事故實効録ヘ其要項ヲ摘載シ捺印スヘシ但急速ヲ要スル事故ハ直ニ部長ニ報告シテ後本文ノ手續ヲナスヘシ

第十四條 交番所出務中ハ間斷ナク其受持區内ヲ巡行スヘシ

第十五條 門衛中ハ容儀ヲ嚴ニシ正面シテ總テノ出入ヲ監査スヘシ

第十六條 部長ノ巡視ニ面接シタルトキハ敬禮シテ事故ノ有無ヲ申報スヘシ

第十七條 監護部長不在ノトキハ監護ヲシテ其事務ヲ代理セシムルコトアルヘシ

小野濱海軍造船所監護心得

- 一 凡テ監護ハ左ノ通相心得ヘシ
- 二 職別ニ拘ハラス渾テ上官ノ命令ヲ遵奉シ諸規則ヲ確守スヘシ
- 三 常ニ禮讓ヲ以テ交リ協和一致シテ互ニ凌蔑スヘカラス
- 四 自己ノ言行ヲ正クシ決シテ威權箇間敷所爲アルヘカラス
- 五 當所員ハ勿論出入商人等ト金錢ノ貸借ヲ爲スヘカラス
- 六 出勤退散ノ節ハ專屬員詰所ニ至リ勤務録ヘ捺印スヘシ
- 七 出勤中ハ公務ノ外出門スヘカラス
- 八 休憩時間ノ外讀書習字スヘカラス
- 九 勤務中ハ公用ノ外同僚ト雖モ談話スヘカラス
- 十 非番ト雖モ召喚ヲ受クレハ速ニ出勤スヘシ假令召喚ヲ受ストモ出火其他非常ノ事アルヲ聞知セハ

速ニ駈付ヘシ

- 十一 所員又ハ外人ヨリ諮問ヲ受ケントキハ懇示スヘシ
- 十二 舉動怪敷者又ハ懲罰則ニ抵觸スヘキ現行犯者アルトキハ之ヲ取糺シ直ニ監護主務ノ詰所ヘ引致スヘシ
- 十三 構内ニテ覆面スルモノハ制止スヘシ
- 十四 所員及軍人ノ外通門鑑ナク入門セントスル者アルトキハ日中ト雖モ其姓名事故ヲ聞糺シ又出門ノトキハ通門證ヲ監取シ通行セシムヘシ
- 十五 物品ヲ携帶シテ出門スル者アルトキハ監護主務ヨリ下附シタル證書品名ト照合シ通行セシムヘシ尤準士官以上制服ヲ著シ携帶スル物品ハ此限ニアラス  
但前二項監收ノ通門證ハ門衛ノモノ必ス捺印ノ上部長ヘ收納スヘシ
- 十六 裏門ハ主管ヨリ達アル外ハ總テ開門セシムヘカラス
- 十七 工夫以下總テ事業中ハ使者等ノ面會ヲ許サズ  
但其親族中急病者之レアル等至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス
- 十八 辦當運ノ者或ハ所員ノ使者及場内一覽人ノ外ハ猥リニ婦人ノ出入ヲ許スヘカラス
- 十九 當所納品運送等ノ船舶發着ノ節ハ船内ヲ點檢シ船名及乘員姓名等ヲ聞糺シ退散後ハ謂レナク構内海岸ニ繫船セシムヘカラス
- 二十 構内ニ不潔ノ箇所アルトキハ直ニ掃除セシムヘシ
- 二十一 器具物品等ノ散逸シタル者アルトキハ其工場長若クハ工場掛ヘ申告スヘシ
- 二十二 停業後倉庫竝ニ諸工場等鎖鑰不締等ノ箇所ナキヤ否ヤニ注意スヘシ
- 二十三 負傷人又ハ急病者アルトキハ懇切介抱シ速ニ應當ノ處分ヲ爲スヘシ
- 二十四 工夫長以下凡テ帽ノ制規アル者ニシテ就業中謂レナク脱帽スルカ若クハ制規外ノ帽ヲ著スル者アルトキハ直ニ之ヲ正シムヘシ



二十五 前諸條ノ外異事アルトキハ總テ所屬長へ申出指揮ヲ受クヘシ

小野濱造船所ヨリ艦政局へ届二十年十月三十一日  
去ル十七年七月申所庶務課ニ警査掛ヲ罷キ候儀舊主船局へ御届致シ其翌八月中監護服務概則並ニ同  
心掛ヲ定メ前同局へ上申ノ末所内ノ警査ニ係ル一般ノ事務ヲ分擔爲致來候處退々渾テノ事務增加致シ  
候ニ付テハ双方手廻リ兼儀得其尺員ニハ限リモ有之且右概則ニテハ爾來御制定ノ御規律ニ相觸ル候儀  
條モ有之候ニ付勞以實務ノ繁否ヲ探檢シ候儀改定案ヲ去ル七月中ヨリ實地施行爲致候末今般右  
警査掛ヲ相廢シ更ニ別冊ノ通リ監護服務内則並同心掛共改定施行候間此段御届仕候也  
艦政局ヨリ海軍省へ届二十年十一月十九日  
小野濱造船所監護服務内則等改正ノ件ニ付別紙ノ通該所長ヨリ届出候條此段及御届候也

内務省へ達 七年六月三日

石川縣管下能登國鹿島郡七尾表製鐵場地所一萬百五十六坪六分三釐六毛海軍省ニ於テ買上自今官廳地  
ト被定候條此旨相心得同省へ引渡候様同縣へ可相達此旨相達候事(用地授受ノ手續ハ)

海軍省届 九年四月二十一日

當省所轄能州七尾造船所ノ儀ハ地位北海ニ面シ往々不都合ノ儀モ有之候ニ付右相廢シ北海道或ハ陸中  
國邊ニテ適應ノ地所相撰ミ造船所致設置度尤地所撰定ノ上ハ順序ヲ以可伺出候へ共先廢置ノ見込豫メ  
御届仕置候也

陸軍省へ達 七年一月二十八日

其省所轄鹿兒島縣下機械所自今海軍省所轄被仰付候條同省へ可引渡此旨相達候事

大藏省へ達 七年一月二十八日

陸軍省所轄鹿兒島縣下器械所自今海軍省管轄被仰付候條爲心得此旨相達候事

海軍省届 七年一月十三日

陸軍省所轄鹿兒島縣下機械所ノ儀當省へ譲リ渡シ有之度段同省へ及懸合候處故障等無之趣打合濟ニ候  
間右當省へ引渡方ノ儀御指令相成候様致度就テハ右一箇年ノ入費凡十五萬圓ノ見込ニ有之猶委細ハ取

七尾製鐵場ヲ改メ  
九年四月二十一日渡ス

七尾造船所ヲ廢ス

鹿兒島縣機械所ヲ海軍省  
所屬トナス

七年二月四日製造所ト改  
稱シ武庫司ノ管轄トス

鹿兒島縣機械所ヲ製造  
所ト改稱シ武庫司ノ管  
轄トナス

鹿兒島縣機械所之儀製造所ト改稱シ武庫司管轄申付候條爲心得此段相達候事

海軍省達 七年二月四日

調決算ノ上更ニ可申出候間前取引渡方ノ儀早々御指令相成候様存候此段申出仕候也  
指令 七年一月二十八日  
上申ノ通其省管轄被仰付候條陸軍省ヨリ請取可申事  
海軍省届 七年三月二十日  
鹿兒島縣下製造所ノ儀當省管轄被仰付候ニ付官員派出去ル八日請取方相濟且同所請陸軍省諸官員ノ儀  
モ掛合濟ノ末當省へ轉任相達申候此段御届申進候也

鹿兒島海軍製造所分課假條例 七年三月二十四日

庶務課

專ラ職工ノ事務ヲ聽斷檢印シ書籍出納信書往復等ノ庶務ヲ辦理シ其工人増減黜陟局外往復並ニ局外ニ  
物品ヲ出納スルノ件々ハ必ス長官ニ申告許諾ヲ得テ之ヲ施行スヘシ  
製造完了ノ器械ハ定範ニ照シ丁寧ニ檢査シテ允可シ若シ不良ノ部分アリテ用否疑ハシキモノハ之ヲ長  
官ニ議スヘシ  
買得ノ物品ハ其形質善良ニシテ武器製造ニ適フト否ナルヲ能ク檢査スルヲ要ス故ニ一定ノ商ニ命スル  
トキハ自ラ專賣高價或ハ定價劣品ノ弊アルヲ以テ常用買得ノ物ト雖モ能ク其精粗ヲ檢査シ品位價直適  
應ナラシムル爲メ之ヲ會計課長ト議スヘシ

監業課

諸工人ノ勤怠工拙ヲ監察シ各工場ニ揭示セル條目ニ服從セシメ力所及製出セル器械ノ名稱員數工費等  
ヲ詳細ニ記載シ工人所用或ハ剩餘ノ木鐵等ノ量數ニ檢印シテ之ヲ倉庫課ニ致スヘシ又製出ノ物品ハ公  
私ヲ論セス尤精良ナルヲ要ス尺度錯亂性質粗惡ノ物ヲ出スヲ禁ス若シ尺度差謬シ原質粗惡ナルハ廢棄

シ改造セシメ或ハ用否辨シ難キモノハ其狀ヲ庶務課ヘ申告スヘシ  
製造品完了ナルトキハ庶務課ニ報シテ検査ヲ受ケ印可ヲ得テ之ヲ倉庫課ニ致スヘシ

會計課  
海軍會計局章程ニ依リ金錢出納ノ事務ヲ管理ス又兼テ買得物品ノ價直表ヲ作り買得ノ事アルトキハ其  
品位價直ヲ庶務課ニ識シ從前買得ノ表ニ比較シ廉價ニシテ適良ノ物品ヲ求ムル考案ヲ建ツヘシ  
毎月現入費表並ニ物品出納表中拂出一行ノ總數代價表ヲ造リ之ヲ長官ニ呈スヘシ

倉庫課

諸器械鐵木薪炭其他雜類散物ト雖モ其種類ヲ精細ニ區別シ錯雜混淆ナカラシメ各物ノ重量尺度員數ヲ  
詳細ニシ庫内收藏ノモノハ之ヲ整列積層シ其出納ノトキハ必ス之ヲ監視シ某品ハ某所某隅ト豫メ之ヲ  
記憶シ毎日出納ノ多寡ニ應シ近日乏絶ノ慮アル物品ハ其由ヲ記シテ庶務課ニ報シ長官ノ檢印ヲ受ケテ  
會計課ニ報スヘシ局内製出ノ物品ニ非スシテ其器械ヲ製スル爲ニ收藏スル元品即チ銅鐵鉛錫皮革木材  
薪炭等細小ノ物ト雖モ不用ニシテ賣却決議ノモノニ非ツレハ他ニ賣與スルノ理ナシ況ンヤ私ニ分賣時  
借テ乞フモノハ其多寡大小ニ論ナク何様緊要ノ旨意アリト雖モ一切是ヲ拒絕スヘシ  
當局製出品其他價直出納ニ關係スルモノハ之ヲ會計課ニ報スヘシ  
毎月物品出納並製造月表ヲ造ルヘシ

附屬

工人著到ヲ點記シ倉庫閉閉物品輸送斤量檢視等各課ノ指令ニ從ヒ役夫ヲ分配指揮監護スル等尤モ周密  
ナルヲ要ス

武庫司ヨリ海軍省ヘ上申七年三月二十四日  
鹿兒島縣製造所當分ノ内別紙ノ通條例相定置候ニ付此段御届申出候也

海軍省達 九年八月十五日  
記三發第六十七號

鹿兒島製造所ヲ鹿兒島  
造船所ト改稱シ主船寮  
ノ所轄トナス

兵器局所轄鹿兒島製造所之儀自今主船寮所轄被仰付鹿兒島造船所ト改稱候條此旨爲心得相達候事

海軍省達 九年八月十四日  
當省所轄鹿兒島製造所ノ儀自今主船寮所轄トシ鹿兒島造船所ト改稱候條此段御届仕候也

十二年二月海軍省丙寅二  
十四號達ヲ以テ長崎出張  
所ノ所轄トナス

鹿兒島造船所ヨリ海軍省ヘ申出九年十月十七日  
今般海軍假條例御發行相成候ニ付遵守可仕ノ處第一條ニ方リ局府所按院ニ關涉スル事項ハ其主務ニ於  
テ其關涉スル局府所按院ニ照會熟識ノ上伺出ル者ト云々右ハ本所ノ如キ邊隔加フルニ未タ電線架設  
無之通信ニ時日ヲ費シ候場所ハ事ニ由リ往復ノ爲メ不都合ヲ釀シ候儀モ可有之ト被考候條當造船所ニ  
限リ他處ニ涉リ候條件上申ノ節ハ關涉ノ慮ヘ御下問ノ上夫々御處分相成候條ニハ至リ兼候條特例ヲ以  
テ御届届相成候條致度此段申出仕候也

指令 九年十月三十一日  
申出ノ趣聞届候事

海軍省達 十一年二月五日  
鹿兒島造船所之儀自今長崎出張所所轄ニ被定候條此旨爲心得相達候事

海軍省達 十二年五月三日  
當省所轄鹿兒島造船所廢止候條此旨爲心得相達候事

海軍省上申十二年四月四日  
當省所轄鹿兒島造船所ノ儀一昨明治十年同縣下薩摩ニ際シ暴徒ノ爲メ半ハ燒失又ハ毀損等ノ箇所不少  
依テ爾來廢業致居候處名稱丈々存在候テハ實際不都合ノ儀モ有之候間自今右造船所ノ名稱相廢度此段  
上請候也

指令 十二年四月二十六日  
上請ノ趣聞届候事

海軍省同答十二年四月九日  
鹿兒島造船所ノ名稱廢止ノ儀上請相成候ニ付テハ名稱ノ廢止シ地面建物等ハ如何處分ノ見込ニ候儀  
云々昨八日付ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ實處無之場所名稱存置候テハ實際上彼是差支ノ廉不勘ヨリ先  
ツ名稱ノミ被相廢度趣意ニ有之候而シテ地面及建物等ハ方今長崎海軍出張所ニ於テ所管致居其中機械

ハ華族島津忠義ハ貸渡候分モ有之候左様御承知相成度此段及御回答候也  
太政官書記官磯案十二年四月二十一日  
別紙海軍省上諭鹿兒島造船所廢止ノ儀ハ御開届左ノ通御指令可相成哉相候也

海軍省布達 九年四月一日

當省所轄主船寮定雇職工規則別冊ノ通取設候條此旨布達候事

主船寮定雇職工規則

第一條

一 海軍主船寮定雇職工志願ノ者ハ年齢十五年ヨリ四十年迄ヲ限り年期ヲ定メ入業差許ス可キ事

第二條

一 寮中ノ工業ハ各其望ム所ニ任セ業ヲ課スヘシ其課業左ノ如シ

- 木工 煉鐵 鑄造 製罐 銅工 鍛盤 製帆 製綱 填隙 製圖 鋸鉋
- 小細工 建具 桶工 模形 塗粧

第三條

一定雇職工年期左ノ如シ

- 年齢十五年ヨリ同十九年迄ノ者 十箇年
- 年齢二十年ヨリ同二十三年迄ノ者 七箇年
- 年齢二十四年ヨリ同二十六年迄ノ者 五箇年
- 年齢二十七年ヨリ同四十年迄ノ者 一箇年ヨリ三箇年迄

此年期中ハ何様ノ事故有之共決シテ退業セシム可カラサルハ勿論ノ事ニ候ヘトモ父兄ノ死亡ニ付相續等ニ係ル義理適當ノ事故ハ戸長奥印ノ上其所轄地方官ノ添書ヲ以テ主船寮へ願出ルトキハ詮議ノ上可差免事

第四條

主船寮定雇職工規則  
九年九月海軍省甲第五號  
布達ヲ以テ造船所定雇職  
工規則ト改稱シ規則中ノ  
主船寮ヲ造船所ト改ム  
十六年九月海軍省乙第九  
號布達ヲ以テ造船所定雇  
規則ト改ム  
九年五月海軍省甲第三號  
布達ヲ以テ第一第三兩條  
ニ但書ヲ追加シ第二十條  
ヲ改定ス  
十五年四月海軍省第六號  
布達ヲ以テ第三條中ヲ改  
定ス

一定雇職工志願ノ者ハ身元引受人相立テ第一號書式ノ願書ヲ認メ海軍所轄各造船所ノ内へ持參スヘキ事

第五條

一定雇職工開濟ノ上ハ第二號書式ノ受書差出スヘキ事

第六條

一定雇職工ヲ許可シ受書差出シ候後ハ主船寮職工タル證トシテ第二號書式ノ印鑑ヲ附與スヘキ事

第七條

一定雇職工ノ内二十年未滿ニシテ粗其業ニ熟スル者ハ毎日日本業ノ餘暇算術製圖及ヒ普通ノ習字等相學ハス可キ事

第八條

一定雇中格別心掛ケ宜シク精勤ニシテ技術拔群ノ者ハ工長工手ニ申付候儀アル可キ事

第九條

一定雇職工ノ賃錢ハ其業ノ巧拙ニヨリ一日三錢ヨリ六十錢迄ヲ以テ適宜ニ支給スヘシ但業ニ就カサル日ハ賃錢ヲ給セサル事

第十條

一年期中本人病氣ニ因テ職業ニ堪ヘ難キ者ハ醫官検査ノ上退業致サスヘキ事

第十一條

一 諸職工ノ内年期アルヲ定雇職ト稱シ年期無キヲ日雇職ト稱スヘキ事

第十二條

一 主船寮ノ都合ヲ以テ各製造所へ移轉申付ル儀モアルヘキ事

第十三條

一 十五年未滿ノ者ト雖モ工業ニ巧ニシテ往々成熟スヘキ見込有之者ハ十箇年以上ノ年期ヲ以テ入業差

十年九月海軍省甲第六號  
布達ヲ以テ第七第九兩條  
並木入管部ヘノ添書式ヲ  
改正シ第十三條ヲ削除ス

許ス儀モ可有事

第十四條

一年期滿限ノ後尙定雇職工タランコトヲ願フ者ハソノ望ム所ニ依リ適宜ニ期限ヲ定メ更ニ入業差許スヘキ事

第十五條

一定雇職工ノ格別勉強セシ者年期滿テ退業スルカ又ハ年期中病死スルトキハ其者受ル所ノ日給ノ金數ニ應シ一箇年ニ付十五日分ツ、ノ定メテ以テ五箇年期ハ七十五日七箇年期ハ百五日十箇年期ハ百五十日分手當トシテ給與スヘキ事

但年數計算方ハ入業ノ月ヨリ退業迄ノ月數ヲ以テ通算スヘシ尤百日以上引續キ休業スル者ハ其日數ヲ引去リ候事

第十六條

一 繼年期ノ者モ第十五條ノ割合ヲ以テ初發入業ノ日ヨリ起算シ繼年期滿チテ後チ全ク退業ノ月マテヲ通算シ手當金給與スヘキ事

第十七條

一定雇職工ノ者繼年期ヲ以テ滿二十箇年以上勤續シテ退業候モノハ定則手當金ノ外相當ノ賞金給與ス可キ事

第十八條

一定雇職工其業ニツキ過テ傷スル時ハ寮中詰醫官検査即時治療ヲ加ヘ都テ明治八年四月九日第五十四號官役人夫死傷手當御規則ニ照準スヘキ事

第十九條

一日雇職工ノ内ニテ其業粗熟成スルモノハ技術長ノ見込ヲ以テ主船寮長次官ニ申出第三條ノ手續キテ以テ定雇職工ヘ組入レ年期相定メ候儀モアル可キ事

十年六月海軍省甲第一號  
布告ヲ以テ第十四條ニ但  
書並第四號五號書式體形  
ヲ追加ス

十二年七月海軍省甲第一號  
布告ヲ以テ第十五條但  
書ヲ改正ス

八年四月第五十四號海軍  
省令ヲ以テ第十四條ニ但  
書並第四號五號書式體形  
ヲ追加ス

第二十條

一 是迄雇入レ置候諸職工ノ内此際定雇職工志願ノモノハ第四條五條ノ手續キテ以テ更ニ願出ルハ勿論ニ候ヘトモ年期取極メハ最前入業ノ月ヲ年期ノ初月ト定ム可キ事

第二十一條

一定雇職工犯罪ノ者ハ海陸軍刑律第三條ニ照準シ處分ス可キ事  
但日雇職工ハ此限ニアラス

右之通り相定メ候事

明治八年十二月

第一號

定雇職工入業願書式（紙半紙ニツ折ニテ通リ）

定雇職工入業願書

何年月日何國郡村  
地ニ於テ生

何府縣  
何大區何小區何町  
何番地住又ハ寄留  
士族カ平民カ  
何之誰係弟カ二三男カ

何之誰  
當幾年幾箇月

右ハ御寮定雇職工志願ニ付何箇年期ニ御採用被下度請人連名ヲ以此段奉願候也

年號月日

何之誰印

身元引請人

何之誰印

何府縣  
何大區何小區何町  
何番地住又ハ寄留  
士族カ平民カ  
何ト認ムヘシ  
何府縣  
何大區何小區何町  
何番地住又ハ寄留  
何ト認ムヘシ  
何府縣  
何大區何小區何町  
何番地住又ハ寄留  
何ト認ムヘシ

十年三月海軍省甲第二號  
布告ヲ以テ第二十一條ヲ  
削除ス

海 軍 省  
（△印ハ朱印）

主船寮 御中  
前書之通り願立候ニ付奥印仕候也

第何大區何小區  
戸長  
何之誰印

本人現住區ノ  
戸長ナリ

海軍主  
船寮之  
印

願之通り  
年號月日

第二號  
入業許可濟ノ時證書案 料紙半紙ニツ  
折ニツ通り  
請書

何府縣  
第何大區何小區何村  
何番地住又ハ寄留  
士族カ平民カ  
何之誰係第カ二三男カ

何之誰

當幾年幾箇月

右者御寮定雇職工當何月ヨリ何箇年期ヲ以入業ノ儀御許容被下置候ニ付テハ總テ御規則ノ次第堅ク相  
守リ其他都度々々御達筋等決テ違背不仕候萬一不具之所爲等於有之ハ至當之御處分相受可申候仍テ證  
書如此ニ候也

右本人  
何之誰印

年號月日

身元引請人

何府縣  
第何大區何小區住又ハ寄留  
士族カ平民カ  
何之誰印

主船寮 御中

前書之通り相違無之仍テ奥印候也

第何大區何小區  
戸長  
何之誰印

本人現住區ノ  
戸長ナリ

第三號

主船寮ヨリ本人へ渡置印鑑式 料紙程  
村紙程

五寸

何府縣  
何國第何大區何小區何郡  
何村何番地  
士族カ平民カ  
何ノ誰係第カ二三男カ

何之誰

當幾年幾箇月

何年何月ヨリ何箇年期ヲ以テ定  
雇職工差許候事

年號月日

海軍主  
船寮印

工手以上ニ登用ノ者ハ此印鑑返納スヘシ  
定雇職工年期ヲ以テ入業ノ儀主船寮ニ於テ聞届證書爲差出候末其段同寮ヨリ本省へ届出次第本人本貫ノ廳へ達案

何年何月日何國郡  
村町地ニ於テ生

何府縣  
第何大區何小區何町  
何番地住又ハ寄留  
士族カ平民カ  
何ノ能俸第カ二三男カ

何之誰  
當幾年幾箇月

右誰儀主船寮定雇職工へ何箇年期ニテ入業之儀戸長與印ヲ以テ願出候ニ付則許容候旨同寮ヨリ届出候條此段爲心得申達候也

年號月日

海軍省

何府縣充

海軍省何八年十月七日  
當省所轄主船寮雇入職工ノ儀是迄同寮限リ雇入來候處遣船諸職工ノ如キハ其技術容易ナラス且其人モ難得偶成業ニ赴候者モ兵役ニ徵發セラレ又ハ變職或ハ半途ニテ他方ニ轉シ候者屢有之畢免定雇ノ名義並ニ年限等ノ定規無之ヨリ往々事業ノ差支不少候ニ付今般商賤ノ上海軍兵員徵募規則ニ基給與向等ヲ始メ年限等別冊ノ通取設成然ル上ハ兵員中ノ一部分ニ充候儀ニテ海軍定員ノ諸工同機右年期中ハ徵兵年役御免除相成度左候ハ凡テ半途轉職等ノ差支無之兩全ニ候條御許容相成候ハ、當省ヨリ一般へ布達イタシ度此段上請仕候也  
指令八年十二月四日  
何ノ趣聞届條別紙ノ通改正施行可致事  
陸軍省答議八年十一月二十四日  
海軍省何主船寮定雇職工徵兵免役ノ儀御下問ノ趣致敬承候右ハ尋常雇入ノモノニ無之且兵員中ノ一部分ニ充候儀ニ付定雇職工ニ限リ一般ノ壯兵ト見做シ徵兵免除相成可然存候此段意見申進候也  
法制局職案八年十一月三十日  
別紙海軍省何主船寮定雇職工規則ノ儀及審査候處同省上申ノ通造船工業ノ如キハ容易ニ成達イタシ難キハ勿論方今般モ其職工ニ乏シキ折柄偶成業ニ趣候者ハ兵役ニ服シ亦ハ半途ヨリ轉業候様ニテハ到底

主船寮定雇職工規則中  
第一第三條條へ但書ヲ  
追加シ第二十條ヲ改定  
ス

海軍省布達 九年五月二十五日  
本年四月第二號ヲ以テ及布達候當省所轄主船寮定雇職工規則中左之通第一條第三條へ但書追加之上第二十條ハ改定候條此旨布達候事

第一條  
一海軍主船寮定雇職工志願ノ者ハ以下界  
但四十年以上ト雖モ工業格別巧ミニシテ身體強壯ナル者ハ適宜年期ヲ定メ入業差許ス儀モ有ル可キ事

第三條  
一定雇職工年期左ノ如シ  
中畧  
年齡二十七年ヨリ同四十年迄ノ者一箇年ヨリ  
但シ定則ヨリ多分ノ年期ニ願出ル者有ル時ハ臨時詮議ノ上適宜年限ヲ定メ入業差許ス儀モ有ル可シ

第二十條  
一是迄雇入レ置候諸職工ト雖モ此際定雇職工志願ノ者ハ第四條五條ノ手續ヲ以テ更ニ願出可ク勿論年期ハ其出願聞濟ノ月ヲ年期ノ初月ト定ム可キ事  
但滿年手當金ハ最初入業ノ月ヨリ通算シ給與ス可キ事

海軍省何九年五月二日  
當省所轄主船寮定雇職工規則取設ノ儀昨明治八年十月正第五十五號ヲ以上請同十二月第七十一號ヲ以

御指揮ノ末施行致來候處年輪年期及ヒ是迄雇入置候職工年限取極等實際差支有之候ニ付テハ右規則中別紙米書ノ通第一條第三條ノ但書追加ノ上第二十條ハ改正施行仕度候間何分至急御許可相成度此段上請仕候也  
指今九年五月十八日  
伺ノ通  
法制局議案八年五月九日  
別紙海軍省伺主船寮定雇職工規則云々ノ儀審査候處差問ノ廉モ無之ニ付御聽許相成可然哉仰高裁候也

主船寮定雇職工規則ヲ  
ヨリ入業ヲ停止ス

海軍省布達 甲第九月十四日  
當省所轄主船寮定雇職工規則本年四月甲第二號ヲ以及布達候處右職工現今滿員ニ付當分入業差留候條此旨布達候事  
海軍省屆九年七月十四日  
當省所轄主船寮定雇職工入業ノ備本年四月甲第二號ヲ以及布達置候處現今滿員ニ付入業差留候段別紙甲第四號ノ通各府縣へ及布達候條此段御届仕候也

海軍省布達 甲第九月三十日  
先般當省所轄主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則之儀ハ自今海軍造船所定雇職工規則ト相心得隨テ右規則中主船寮之三字ハ造船所ト相改候儀ト可心得此旨布達候事  
橫須賀造船所ヨリ海軍省へ伺九年九月二十一日  
當主船寮定雇職工規則本年四月甲第二號御布達相成候處先般該寮被廢候ニ付テハ該則中主船寮ノ三字ヲ造船所ニ相改メ右規則相用職工入業願取致度候間該規則ノ儀以來造船所定雇職工規則ト可相心得旨一般へ御布達相成候條致度此段上申仕候也  
指今九年十月二日  
上申ノ趣甲第五號布達ノ通り可相心得候事  
主船局ヨリ海軍省へ上申九年九月二十一日  
本年四月一日甲第二號ヲ以及主船寮定雇職工規則御布達相成候然ルニ今般職制章程御改正相成候ニ付テハ右職工規則中入業願書々式等ヲ始メ其他主船寮ノ文字アル廉ハ此際悉皆造船所ト御改定相成可然儀ト存候此段見込上申仕候也  
指今九年十月二日

主船寮定雇職工規則ヲ  
ヨリ入業ヲ停止ス

海軍省布達 甲第九月三十日  
先般當省所轄主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則之儀ハ自今海軍造船所定雇職工規則ト相心得隨テ右規則中主船寮之三字ハ造船所ト相改候儀ト可心得此旨布達候事  
橫須賀造船所ヨリ海軍省へ伺九年九月二十一日  
當主船寮定雇職工規則本年四月甲第二號御布達相成候處先般該寮被廢候ニ付テハ該則中主船寮ノ三字ヲ造船所ニ相改メ右規則相用職工入業願取致度候間該規則ノ儀以來造船所定雇職工規則ト可相心得旨一般へ御布達相成候條致度此段上申仕候也  
指今九年十月二日  
上申ノ趣甲第五號布達ノ通り可相心得候事  
主船局ヨリ海軍省へ上申九年九月二十一日  
本年四月一日甲第二號ヲ以及主船寮定雇職工規則御布達相成候然ルニ今般職制章程御改正相成候ニ付テハ右職工規則中入業願書々式等ヲ始メ其他主船寮ノ文字アル廉ハ此際悉皆造船所ト御改定相成可然儀ト存候此段見込上申仕候也  
指今九年十月二日

上申ノ趣甲第五號布達ノ通り可相心得候事  
橫須賀造船所ヨリ海軍省へ再申九年九月二十六日  
主船寮定雇職工規則中主船寮ノ三字ヲ造船所ニ相改メ右規則ヲ以テ職工入業願取致度云々此程上第  
五百七十一號ヲ以テ申出置候處是迄當主船寮ノ時ヨリ追々願出有之殆ント數百名ニ及候得共何分取扱  
方ニ致支實際不都合ニ付テハ可成早急御達有之度此段重テ申出候也  
海軍省屆九年十月二日  
先般當省主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則ノ儀自今海軍造船  
所定雇職工規則ト可相心得旨別紙甲第五號ノ通各府縣へ及布達候間此段御届仕候也

主船寮定雇職工規則ヲ  
ヨリ入業ヲ停止ス

海軍省布達 甲第九月三十日  
先般當省所轄主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則之儀ハ自今海軍造船所定雇職工規則ト相心得隨テ右規則中主船寮之三字ハ造船所ト相改候儀ト可心得此旨布達候事  
橫須賀造船所ヨリ海軍省へ再申九年九月二十六日  
主船寮定雇職工規則中主船寮ノ三字ヲ造船所ニ相改メ右規則ヲ以テ職工入業願取致度云々此程上第  
五百七十一號ヲ以テ申出置候處是迄當主船寮ノ時ヨリ追々願出有之殆ント數百名ニ及候得共何分取扱  
方ニ致支實際不都合ニ付テハ可成早急御達有之度此段重テ申出候也  
海軍省屆九年十月二日  
先般當省主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則ノ儀自今海軍造船  
所定雇職工規則ト可相心得旨別紙甲第五號ノ通各府縣へ及布達候間此段御届仕候也

主船寮定雇職工規則ヲ  
ヨリ入業ヲ停止ス

海軍省布達 甲第九月三十日  
先般當省所轄主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則之儀ハ自今海軍造船所定雇職工規則ト相心得隨テ右規則中主船寮之三字ハ造船所ト相改候儀ト可心得此旨布達候事  
橫須賀造船所ヨリ海軍省へ再申九年九月二十六日  
主船寮定雇職工規則中主船寮ノ三字ヲ造船所ニ相改メ右規則ヲ以テ職工入業願取致度云々此程上第  
五百七十一號ヲ以テ申出置候處是迄當主船寮ノ時ヨリ追々願出有之殆ント數百名ニ及候得共何分取扱  
方ニ致支實際不都合ニ付テハ可成早急御達有之度此段重テ申出候也  
海軍省屆九年十月二日  
先般當省主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則ノ儀自今海軍造船  
所定雇職工規則ト可相心得旨別紙甲第五號ノ通各府縣へ及布達候間此段御届仕候也

造船所定雇職工規則第  
二十一條ヲ廢ス

海軍省布達 甲第九月三十日  
先般當省所轄主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則之儀ハ自今海軍造船所定雇職工規則ト相心得隨テ右規則中主船寮之三字ハ造船所ト相改候儀ト可心得此旨布達候事  
橫須賀造船所ヨリ海軍省へ再申九年九月二十六日  
主船寮定雇職工規則中主船寮ノ三字ヲ造船所ニ相改メ右規則ヲ以テ職工入業願取致度云々此程上第  
五百七十一號ヲ以テ申出置候處是迄當主船寮ノ時ヨリ追々願出有之殆ント數百名ニ及候得共何分取扱  
方ニ致支實際不都合ニ付テハ可成早急御達有之度此段重テ申出候也  
海軍省屆九年十月二日  
先般當省主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則ノ儀自今海軍造船  
所定雇職工規則ト可相心得旨別紙甲第五號ノ通各府縣へ及布達候間此段御届仕候也

造船所定雇職工規則第  
二十一條ヲ廢ス

海軍省布達 甲第九月三十日  
先般當省所轄主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則之儀ハ自今海軍造船所定雇職工規則ト相心得隨テ右規則中主船寮之三字ハ造船所ト相改候儀ト可心得此旨布達候事  
橫須賀造船所ヨリ海軍省へ再申九年九月二十六日  
主船寮定雇職工規則中主船寮ノ三字ヲ造船所ニ相改メ右規則ヲ以テ職工入業願取致度云々此程上第  
五百七十一號ヲ以テ申出置候處是迄當主船寮ノ時ヨリ追々願出有之殆ント數百名ニ及候得共何分取扱  
方ニ致支實際不都合ニ付テハ可成早急御達有之度此段重テ申出候也  
海軍省屆九年十月二日  
先般當省主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則ノ儀自今海軍造船  
所定雇職工規則ト可相心得旨別紙甲第五號ノ通各府縣へ及布達候間此段御届仕候也

造船所定雇職工規則第  
二十一條ヲ廢ス

海軍省布達 甲第九月三十日  
先般當省所轄主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則之儀ハ自今海軍造船所定雇職工規則ト相心得隨テ右規則中主船寮之三字ハ造船所ト相改候儀ト可心得此旨布達候事  
橫須賀造船所ヨリ海軍省へ再申九年九月二十六日  
主船寮定雇職工規則中主船寮ノ三字ヲ造船所ニ相改メ右規則ヲ以テ職工入業願取致度云々此程上第  
五百七十一號ヲ以テ申出置候處是迄當主船寮ノ時ヨリ追々願出有之殆ント數百名ニ及候得共何分取扱  
方ニ致支實際不都合ニ付テハ可成早急御達有之度此段重テ申出候也  
海軍省屆九年十月二日  
先般當省主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則ノ儀自今海軍造船  
所定雇職工規則ト可相心得旨別紙甲第五號ノ通各府縣へ及布達候間此段御届仕候也

造船所定雇職工規則第  
二十一條ヲ廢ス

海軍省布達 甲第九月三十日  
先般當省所轄主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則之儀ハ自今海軍造船所定雇職工規則ト相心得隨テ右規則中主船寮之三字ハ造船所ト相改候儀ト可心得此旨布達候事  
橫須賀造船所ヨリ海軍省へ再申九年九月二十六日  
主船寮定雇職工規則中主船寮ノ三字ヲ造船所ニ相改メ右規則ヲ以テ職工入業願取致度云々此程上第  
五百七十一號ヲ以テ申出置候處是迄當主船寮ノ時ヨリ追々願出有之殆ント數百名ニ及候得共何分取扱  
方ニ致支實際不都合ニ付テハ可成早急御達有之度此段重テ申出候也  
海軍省屆九年十月二日  
先般當省主船寮被相廢候ニ付テハ本年四月甲第二號ヲ以及布達候同寮定雇職工規則ノ儀自今海軍造船  
所定雇職工規則ト可相心得旨別紙甲第五號ノ通各府縣へ及布達候間此段御届仕候也

スルコト能ハス自然一省中甲ノ備夫ヲ軍律ニ該テ乙ノ備夫ハ常律ヲ以テ處斷スルノ不平ヲ免レズ實際  
 上不都合ヲ生候條右二十一條但書取消ノ儀ハ御開届相成候様イタシ度此段重テ上請仕候也  
 指令十年二月二十六日  
 何之趣ハ該規則第二十一條全文ヲ取消スヘキ事  
 法制局議案十年二月三日  
 別紙海軍省造船所定雇職工規則第二十一條但書取消ノ儀ニ付再上請看詳候處左ノ如シ  
 一 定雇職工若クハ白雇職工タルヲ問ハス皆モ其犯罪事ニ涉ルモノヲ除クノ外ハ之ヲ處分スルニ軍律  
 テ以テス可ラサルハ固ヨリ官ヲ俟スルモ亦然リ然ルニ單ニ此規則第二十一條ヲ見ルトキハ定雇職工ハ  
 其犯罪ノ如何ヲ問ハス假令其軍事ニ涉ラサルモ亦然リ然ルニ單ニ此規則第二十一條ヲ見ルトキハ定雇職工ハ  
 如ク然リ是レ向キニ法制局ニ於テ海軍省ノ上請ヲ否トセシ所以ナリ今海軍省ノ再上請稱々之ヲ辨スト  
 イヘトモ然ルニ定雇職工犯罪ノモノハ云々之ヲ裁クニテハ到底雇職工ハ概シテ之ヲ處分スルニ海軍律ヲ  
 以テスルノ疑ヒヲ免ルヘカラス然レモ此規則第三條及第五條ノアルハ指スニ止ルノミ然ルニ果シテ其軍  
 然レトモ海軍省ノ意モ亦決シテ如此クナラス唯其軍事ニ涉ルモノハ指スニ止ルノミ然ルニ果シテ其軍  
 事ニ涉ルモノニ止ラハ則チ自ラ海軍律第三條及第五條ノアルハ指スニ止ルノミ然ルニ果シテ其軍  
 ヒス將クルヲ要セサルノ規則ヲ立テ、故ラニ疑テ來スハ甚不可ナリ故ニ若カス二十一條ヲ全ク削リ去  
 ラシニハ即チ海軍省ノ所請ノ實際不都合ナルモノハ其定雇日雇トテ論ル疑ナル者ト合セテ自ラ消滅シ却テ大ニ明  
 了ナラン若シ職工ノ罪ヲ犯スモノアラハ其定雇日雇トテ論ル疑ナル者ト合セテ自ラ消滅シ却テ大ニ明  
 ルモノアルトキハ海軍律第三條及第五條自ラ消滅タリ力ナク以テ軍律ニ裁クニ此ノ第二十一條ノ如キ規則  
 スト設ケ  
 此ニ由リテ左案ノ通り御指令相成可然存候伏仰高裁候也

海軍省布達 十年六月二十三日

造船所定雇職工規則第  
十四條ニ但書及四條五  
號書式雜形ヲ追加ス

昨明治九年四月甲第二號ヲ以テ布達候當省所轄造船所定雇職工規則中第十四條ニ左ノ通但書並第四號  
五號書式雜形追加候條此旨更ニ布達候事

但願書並受書差出方ハ第四號第五號書式ノ通

海軍省達 十年六月二十六日

造船所定雇職工規則中追加之儀別紙甲第四號之通府縣へ布達候條爲心得此旨相達候事

第四號 定雇職工繼年期入業願書式 料紙半紙二ツ 折二ツ通り

(△印ハ朱印)

定雇職工入業願書

何年月日何國郡村  
地ニ於テ生

何府縣 何大區何小區何村  
何番地住又ハ寄留  
士族カ平民カ  
何ノ能停弟カ二三男カ

何之誰

當幾年幾箇月

右者御所定雇職工何年何月ヨリ何箇年期ニ御採用被下置候處何年何月ニテ滿期ニ付同年何月ヨリ更ニ  
何箇年期入業御採用被下置請人連名ヲ以此段奉願候也

年號月日

右本人 何之誰印

身元引請人

何府縣 何大區何小區何村  
何番地住又ハ寄留  
士族カ平民カ  
何ノ能停弟カ二三男カ  
何之誰印  
何人若シ同籍住居ノモ  
ノクハハ肩書ニ本人父  
兄何々ト認ムヘシ

造船所 御申

前書之通願立候ニ付奥印仕候也

何大區何小區

何之誰印

願之通

年號月日

横須賀 造船所

本人現住區  
ノ戸長ナリ



第五號  
繼年期入業許可濟ノ時證書案 料紙半紙二ツ  
折ニク通リ  
請書

何府縣  
第何大區何小區何村  
何番地住又ハ寄留  
士族カ平民カ  
何之確係弟カ二三男カ

何之誰  
當幾年幾箇月

右者御所定雇職工何年何月ヨリ何箇年期入業御許可被下置候處何年何月ニテ滿期ニ付同年何月ヨリ更ニ何箇年期入業御許容被下候ニ付テハ總テ御規則ノ次第堅ク相守リ其他都度々々御達筋等決テ違背不仕候萬一不其之所爲等於有之ハ至當之御處分相受可申候仍テ證書如此ニ候也

年號月日

右本人

何之誰印

何府縣  
第何大區何小區住又ハ寄留  
士族カ平民カ

何之誰印

身元引請人

造船所

御中

前書之通リ相違無之仍テ奥印仕候也

本人現住區  
ノ戸長ナリ

第何大區何小區  
戸長

何之誰印

造船所定雇職工規則中  
改正別添

海軍省布達 第十九年九月二十四日

明治九年四月甲第二號ヲ以テ及布達候當省所轄橫須賀造船所定雇職工規則中第七條第九條並ニ本人管  
廳ニ之達書式共左之通リ改正第十三條ハ削除候條此旨布達候事

海軍省達 第十九年十月二十五日

昨九年四月甲第二號ヲ以各府縣へ及布達候造船所定雇職工規則中改正並ニ削除之儀別紙甲第六號之通  
各府縣へ及布達候條爲心得此旨相違候事

第七條

定雇職工ノ内十五年以上二十年以下ニシテ粗其業ニ熟スル者ハ讀書算術等一應試驗ノ上毎半日ツ、算  
術製圖及ヒ普通ノ讀書等ヲ學ハシム可キ事

第九條

定雇職工ノ賃錢ハ其業ノ巧拙ニヨリ一日八錢ヨリ六十錢迄ヲ以テ適宜ニ支給スヘシ但シ業ニ就サル日  
ハ賃錢ヲ給セサル事 (令前ハ業書)

定雇職工年期ヲ以テ入業之儀造船所ニ於テ聞届濟證書爲差出候末同所ヨリ本人本貫ノ廳ニ通知案

何年何月何々ニ  
於テ生ス

何府縣 第何大區何小區何村何番地住或ハ寄留  
士族或ハ平民  
何ノ某長二三男弟カ、、、、、、、  
何ノ某

本年何月幾年何箇月

右ハ當所定雇職工トシテ何年期ニテ入業之儀成規之通リ戸長奥印ヲ以テ願出候ニ付検査ノ上入業差許  
候條此段及御通知候也

年號月日

何府官姓名宛

海軍省伺 十年八月二十七日

橫須賀造船所長官姓名

當省所轄橫須賀造船所定雇職工規則取設ノ備明治八年十月正第五十五號ヲ以テ上附ノ上附九年四月甲第二號ヲ以テ各府縣へ布達施行致來候處右規則中實際上差支出來候ニ付第七條同九條朱書ノ通リ本人管應へノ達書式ハ別紙ノ通リ改正並ニ第十三條削除施行致度候條至急御裁下相成度此段上請仕候也  
指令十年九月十五日

何之趣開屆候事  
法制局議案十年九月七日  
別紙海軍省何造船所定雇職工規則中改正並消除之儀看詳候處左之通御指令相成可然候仰高裁候也

海軍省達 十二年七月十九日 府所校

明治九年 四當省甲第二號布達造船所定雇職工規則第十五條但書並ニ明治十一年月十一 丙第三百二十七號

省達兵器局定雇職工規則第十二條但書左ノ通改正候條此旨爲心得相達候事

海軍省布達 十二年七月十九日

明治九年 四當省甲第二號布達造船所定雇職工規則第十五條但書並ニ明治十一年月十一 同甲第三號布達兵器局定雇職工規則第十二條但書左之通改正候條此旨布達候事

但職務ノ勉否技術ノ優劣ニ因リ一箇年ニ付十五日以内ノ給額ヲ以テ適宜給與スルコトモアルヘシ而シテ年數計算方ハ入業ノ月ヨリ退業迄ノ月數ヲ以テ通算スヘシ尤百日以上引續キ休業スル者ハ其日數ヲ除去スキヘ事

海軍省届十二年七月三十一日  
明治八年十月正第五十五號ヲ以テ上附御允許相成候當省所轄造船所定雇職工規則第十五條但書並ニ明治十一年六月往出第八百三十三號ヲ以テ上附御允許相成候兵器局定雇職工規則第十二條但書左ノ通改正甲第一號ヲ以テ各府縣へ布達致シ候條此段御届仕候也

會計局ヨリ海軍省へ何十二年八月二十二日  
明治九年甲第二號主船寮當時造船所定雇職工規則第十五條但書中年數計算方ハ入業ノ月ヨリ退業迄ノ月數ヲ以テ通算云々ト有之候處造船所ニ於テ明治元年九月入業ノ者該時ヨリ年數通算經費整理有之候處右通算法御發日ヲ基トシ計算候條或ハ前順造船所支給ノ通リ其御達前年月ヲモ通算致シ可然候本規中明文無之調査上差支候條何分御指令相成度此段相伺候也

造船所定雇職工規則第十五條但書兵器局定雇職工規則第十二條但書改正ス

造船所定雇職工規則第十五條但書兵器局定雇職工規則第十二條但書改正ス

造船所定雇職工規則及兵器局定雇職工規則第三條中改正ス

兵器局定雇職工規則及造船所定雇職工規則第三條中改正ス

指令 十二年八月二十八日  
伺ノ趣定雇職工規則第二十條ニ基キ年數通算候儀ト可相心得事

布達 十五年四月八日 海軍卿副署

明治九年 四海軍省甲第二號布達造船所定雇職工規則第三條中同十一年月十一 同省甲第三號布達兵器局定雇職工規則第三條中三箇年トアルヲ三箇年ト改ム  
右布達候事

海軍省上請十五年三月三日  
當省所轄造船所並兵器局定雇職工之儀ハ一箇年以上十箇年迄ノ年數ヲ以テ入業差許候規則ニ依處僅カニ一箇年之定雇申付候共工業上ニ於ケル便益無之而已ナラス却テ滿期手當金ヲ食ル之念ヨリ往々一箇年ノ定雇ヲ出願スルノ弊ヲ生スル等ノ實際有之取扱上不都合ノ儀有之候條該局所定雇職工規則第三條第四項中(一箇年ヨリ迄)ノ六字ヲ御削除相成候條此段上請候也

參事院議案十五年三月十八日  
別紙海軍省上請造船所並兵器局定雇職工規則中改正ノ件審査スル處左ノ如シ  
本件ハ造船所並兵器局定雇職工規則中短期一箇年ヲ改メテ三箇年ト爲スニ在リ右ハ上請書ニ述ルル如ク緊要ノ改正ナリトス但其布達案中字句ノ妥帖ナラサルモノハ之ヲ修正ス  
右ニ由リ布達案左ノ通ニテ可然候上申候也

海軍省上請十一年六月一日  
當省所轄兵器局製造課職工ノ儀ハ從前日雇ヲ以テ普通ノ工人ヲ採用致來候處該課職工ノ如キハ專ラ軍器製造而已ニ係リ入業ノ上幾多ノ日數ヲ經過不致候ハ課業應用難致且偶成業ニ赴キ候者モ兵役ニ徵發セラレ又ハ入業年限ノ制無之ヨリ日數ノ淺深業前ノ熟否ニ不拘各自ノ適宜ニ退業變職等致シ候者多  
多有之工業上進歩ノ障碍不少候ハ明治八年十二月正第五十五號ヲ以テ更ニ兵器局定雇職工規則ニ基キ該規則中第二條ノ職名ヲ別紙ノ通改正他ハ該規則ヲ以テ更ニ兵器局定雇職工規則ニ取扱尤兵員中ノ一部分ニ充候儀ニテ海軍定員ノ諸工同様右年期中ハ徵兵年役御免除相成度左候ハ凡テ半途ニ退職等ノ差支無之兩全ニ候條御許容相成候ハ、右規則ハ當省ヨリ一般へ布達ニ可及候ニ付兵役免除ノ備造船所並定雇職工同様御公布相成度此段上請仕候也  
機工 鍛工 鋳工 銃工 火工 銅工 木工 革工 製圖  
指令 十一年九月二日

上請ノ趣聞届候事

但兵役免除ノ儀ハ別段布告ニ不及候事

陸軍省上符十一月二十日  
別紙海軍省上請兵器局定雇職工取設シ徵兵免除ノ儀ニ付意見可申出旨御照會ノ趣承知仕候右ハ明治九年四月御頒布相成候御定雇職工規則其儘相用候儀ニ候ハ、一般ノ壯兵ト見做シ徵兵免除相成可然奉存候此段意見上申候也  
法制局議案十一年八月十七日  
別紙海軍省上請兵器局定雇職工規則取設ノ儀陸軍省上符共併テ審察候處元主審察定雇職工規則第二條ノ職名ヲ更メ從前ノ通徵兵ヲ免除シ其他ハ該規則ヲ以テ更ニ兵器局定雇職工規則取設候儀ニ付御聰許相成可然候且徵兵免除ノ儀ハ別段御布告ニ不及方ト存候因テ左案調査仰高裁候也

海軍省布達 十一年十一月十八日

當省兵器局定雇職工規則別冊之通取設候條此旨布達候事

海軍省達 十一年十一月二十一日

當省兵器局定雇職工規則別冊之通取設隨而甲第三號ヲ以府縣ニ相達候條爲心得此旨相達候事

海軍兵器局定雇職工規則

第一條

一海軍兵器局定雇職工志願ノ者ハ年齡滿十五年ヨリ四十年迄ヲ限リ年期ヲ定メ入業差許ス可キ事  
但四十年以上ト雖モ工業格別巧ミニシテ身體強壯ナル者ハ適宜年期ヲ定メ入業差許ス儀モアルヘシ

第二條

一定雇職工ハ各其望ム所ニ任セ業ヲ課スヘシ其課業左ノ如シ  
機工 鍛工 鑄工 銃工 火工 銅工 木工 葺工 綱工 製圖  
但望ム所ノ課業既ニ滿員セルトキハ其課ニ入ルヲ許サス

第三條

兵器局定雇職工規則

十一年九月海軍省之第九  
號達ヲ以テ廢シ工業規則  
ヲ定ム

一定雇職工年期左ノ如シ

年齡滿十五年ヨリ同十九年迄ノ者

十箇年

同二十年ヨリ同二十三年迄ノ者

七箇年

同二十四年ヨリ同二十六年迄ノ者

五箇年

同二十七年ヨリ同四十年迄ノ者

一箇年ヨリ  
三箇年迄

但定期ヨリ永年期願出ル者アルトキハ臨時詮議ノ上適宜年限ヲ定メ入業差許ス儀モアルヘシ  
此年期中ハ何様ノ事故アルモ決テ退業セシム可カラサルハ勿論ト雖モ父兄ノ死亡ニ付相續等ニ係ル  
事故明亮ノ者ハ區戸長與印ノ上其所轄地方廳ノ添書ヲ以テ兵器局ヘ願出ルトキハ詮議ノ上差免スヘ  
キ事

第四條

一定雇職工志願ノ者ハ身元引受人相立テ第一號書式ノ願書ヲ認メ兵器局エ持參スヘキ事

第五條

一定雇職工入業許可ノ上ハ第二號書式ノ受書ヲ差出ツセ兵器局職工タル證トシテ第三號書式ノ印鑑ヲ  
附與スヘキ事

第六條

一定雇職工中行狀正直業務精勤ニシテ技術拔群ノ者ハ工長工手ニ撰擧採用スル儀モアルヘキ事

第七條

一定雇職工ノ賃錢ハ其業ノ巧拙ニヨリ就業ノ日一日三錢ヨリ六十錢迄ヲ以テ適宜ニ支給スヘキ事  
但工業格別優等ノ者ハ此限ニ非ス

第八條

一年期中本人病氣ニ因テ職業ニ堪ヘ難キ者ハ海軍醫官検査ノ上退業ヲ許スヘキ事

第九條

十五年四月第六號布達ヲ  
以テ一箇年ヨリ三箇年迄  
ヲ三箇年ト改ム上ニ職ス

一 諸職工ノ内年期アルヲ定雇職ト稱シ年期無キヲ日雇職ト稱スヘキ事

第十條

一 十五年未滿ノ者ト雖モ工業巧ニシテ將來成熟スヘキ見込有ルモノハ十箇年以上ノ年期ヲ以テ入業差許ス儀モアルヘキ事

第十一條

一 年限滿期ノ後尙定雇職工タランコトヲ願フ者ハソノ望ム所ニ依リ適宜ニ期限ヲ定メ更ニ入業差許スヘキ事

但願書並受書差出方ハ第四號五號書式ノ通

第十二條

一 定雇職工ノ格別勉強セシ者滿期退業スルカ或ハ年期中死亡スルトキハ其者受ル所ノ日給賃錢ニ應シ滿一箇年ニ付十五日分ノ金額ヲ手當トシテ給與スヘキ事

但年數計算方ハ入業ノ月ヨリ退業迄ノ月數ヲ以テ通算スヘシ尤百日以上引續キ休業スル者ハ其日數ヲ除去スヘシ

第十三條

一 繼年期ノ者ハ第十二條ノ割合ヲ以テ前後ヲ通算シ手當金給與スヘキ事

第十四條

一 定雇職工繼年期ヲ以テ滿二十箇年以上勤續シテ退業或ハ死亡ノ者ハ定則手當金ノ外相當ノ賞金給與ス可キ事

第十五條

一 定雇職工就業中過テ負傷スル時ハ官費ヲ以テ治療ヲ加ヘ其傷痕明治八年第五十四號公達官役人夫死傷手當規則ニ照準取扱ヲナス事

第十六條

十二年七月海軍省第四第七十四號通ヲ以テ第十二條但書ヲ改正ス上ニ載ス

軍費規則ノ露門扶助ノ部ニ載ス

十三年三月海軍省第一號通ヲ以テ第十八條ヲ増加ス

一 日雇職工ノ内粗成業ノ者ハ技術官ノ見込ヲ以年齢ヲ論セス兵器局長ニ申出第三四五條ノ手續ヲ以定雇職工ニ組入レ適宜ノ年期ヲ定ムル儀モアルヘキ事

第十七條

一 従前雇入レノ諸職工ト雖モ此際定雇職工ノ志願ノ者ハ第三四五條ノ手續キテ以テ更ニ願出ヘシ勿論年期ハ許可ノ月ヲ以テ初期ト定ム可キ事

但滿期手當金通算方ハ前條ニ同シ

第一號

定雇職工入業願書式 料紙美濃紙ニツ折二通

定雇職工入業願

何年何月日何國何縣何村ニ於テ生

年號月日

右ハ御局定雇職(何工)志願ニ付何箇年期ニ御採用被下度請人連名ヲ以此段奉願候也

身元引請人

海軍兵器局 御 中

前書之通り願出候ニ付奥印仕候也

何府縣 何國何縣何村何番地住又ハ寄留士族平民何某男或ハ弟 何 年 某

右本人 何 某 印

何府縣 何國何縣何村何番地住又ハ寄留士族平民 何 某 印

受入若シ同籍ノモノタルハ肩書ニ本人父兄何々ト認ム

△本人現住郡  
ノ戸長ナリ

願之通

△年號月日

海軍兵  
器局印

何郡何村町  
戸長  
何  
某印

△第二號  
入業許可濟ノ時證書案 料紙美濃紙  
二ツ折二通  
請書

何府縣  
何郡何村町何番地住又ハ寄留  
士族平民何某男或ハ弟  
何  
某  
年  
某

右者御局定雇職(何工)當何月ヨリ何箇年期ヲ以入業ノ儀御許容被下置候ニ付テハ總テ御規則ノ次第堅  
相守リ其他都度々々御達筋等決テ違背不仕候萬一不良之所爲等於有之テハ至當之御處分相受可申候仍  
テ證書如此ニ候也

年號月日

右本人  
何  
某印

海軍兵器局  
御  
中  
身元引請人  
何  
某印

何府縣  
何郡何村町何番地住又ハ寄留  
士族平民  
何  
某印

前書之相違無之候仍テ與印仕候也

△本人現住郡  
ノ戸長ナリ

何郡何村町  
戸長  
何  
某印

△第三號  
兵器局ヨリ本人へ渡置印鑑式 料紙程  
五寸

工第何號	何府縣 何郡何村町何番地 何國何郡何村何番地 士族平民 何某男或ハ弟
何職	何 某 年 某
何年何月ヨリ何箇年期ヲ以テ定雇職工 差許候事	
年號月日	

海軍兵  
器局印

工手以上ニ登用ノ者或ハ退業ノ者ハ此印鑑返納スヘシ

第四號  
定雇職工繼年期入業願書式 料紙美濃紙  
ニツ折二通  
定雇職工入業願

何年月日何國何區何村  
ニ於テ生

右者御局定雇職工何年何月ヨリ何箇年期ニ御採用被下置候處何年何月ニテ滿期ニ付同年何月ヨリ更ニ  
何箇年期入業御採用被下度請人連名ヲ以此段奉願候也

年號月日

右本人

何

某印

何府縣  
何國何區何村何番地住又ハ寄留  
士族平民何某男或ハ弟

何

某印

受入若シ同籍住居ノ  
モノヤシハ母ニ本  
人父兄何々ト認ムヘ

身元引請人

海軍兵器局

御 中

前書之通願出候ニ付與印仕候也

△本人現住區郡ノ  
戸長ナリ

何區何村

何

某印

願之通

△年號月日

海軍兵  
器局印

第五號

繼年期入業許可濟ノ時證書案 料紙美濃紙  
ニツ折二通  
請書

右ハ御局定雇職工何年何月ヨリ何箇年期入業御許可被下置候處何年何月ニテ滿期ニ付同年何月ヨリ更  
ニ何箇年期入業御許容被下候ニ付テハ總テ御規則ノ次第堅ク相守リ其他都度々々御達筋等決テ違背不  
仕候萬一不良ノ所爲等於有之テハ至當之御處分相受可申候仍テ證書如此ニ候也

右本人

何

某印

年號月日

身元引請人

何府縣  
何國何區何村何番地住又ハ寄留  
士族平民

何

某印

海軍兵器局

御 中

前書之通り相違無之仍テ與印仕候也

△本人現住區郡ノ  
戸長ナリ

何區何村

何

某印

前各條之手續ヲ以入業許可濟受書爲差出候ハ、其旨兵器局ヨリ本管廳ヘ通知スヘキ事

海軍省十一月二十一日  
常省兵器局定雇職工規則取段ノ備本年六月往出第八百八十三號ヲ以上請ノ末第三三號ヲ以被附届候ニ

付造船所定雇職工規則ニ基キ同局ニ駐働ノ雇ノミ取捨令般別冊ノ通府縣へ相違候條此旨御届仕候也

兵器局定雇職工規則中  
第十八條ヲ增加ス

海軍省達 十三年三月三十一日  
兵器局定雇職工規則中第十八條增加ノ儀別紙甲第一號ノ通布達候條爲心得此旨相違候事

海軍省布達 十三年三月三十一日

當省兵器局定雇職工規則取設ノ儀明治十一年月十一日甲第三號ヲ以布達ニ及候處今般第十八條左ノ通增加候條此旨布達候事

第十八條

一定雇職工年期中據ナキ事故アリテ歸省ヲ請フ者ハ其事由ヲ書載シ身元引受人連署 區戸長與印ノ上願出ルトキハ工業ノ都合ニ由テ往來ヲ除キ四週間以内ノ日數ヲ許可スヘキ事

但本人病氣ノ外追願ヲ許サス若疾病ニ罹リ歸京致難キトキハ醫證ヲ添ヘ其地區戸長ノ與印ヲ以テ三週間ヲ限リ願出ツヘシ

海軍省達 十六年九月二十四日

明治九年 月 日 第二號達造船所定雇職工規則及ヒ明治十一年 月 日 甲第三號達兵器局定雇職工規則ヲ廢シ從前ノ各職工ヲ海軍工夫ト改メ其規則左ノ通相違候條此旨相違候事

海軍工夫規則

第一條 海軍工夫ハ雇職工中志願ノ者ヨリ選抜シ年期ヲ定メ造船所及ヒ製造所等ニ使役スル者トス

第二條 工夫ニ雇役スル者ハ雇職工服役六箇月ヲ歷年齡十五年以上四十年未滿ノ者ニ限ル

但雇職ノ者ハ本文年齡ノ限ニ在ラス

第三條 工夫志願者ノ年齡ニ因テ年期ヲ定ムルコト左ノ如シ

十五年以上二十年未滿ノ者 十箇年

二十年以上二十五年未滿ノ者 八箇年

二十五年以上三十年未滿ノ者 七箇年

三十年以上四十年未滿ノ者 五箇年

第四條 工夫志願ノ者ハ丁年以上ノ戸主二名ノ身元引受人ヲ立テ第一號書式ノ願書ヲ以テ所轄廳 造船所或ハ製造所 へ出願ス可シ

第五條 工夫入業ヲ許可スル者ニハ第二號書式ノ辭令書ヲ附與シ第三號書式ノ證書ヲ出サシム可シ

第六條 工夫ノ賃錢ハ其業ノ巧拙ニ因リ就業ノ日一日金一圓二十錢以内ヲ支給ス可シ

第七條 工夫中工業熟達行狀方正且才能アル者ハ工長若クハ工手ニ任スルコトアル可シ

第八條 工夫年期中ハ時宜ニヨリ海軍部内他ノ製造所へ移轉シ又ハ海軍部外ノ製造所ニ於テ使役スルコトアル可シ

第九條 工夫年期中ハ假令何等ノ事故アルモ解雇ヲ出願スルコトヲ許サス但父兄ノ死亡ニ付遺跡相續等一家ノ安危ニ係ル事故アル者ハ其親族ヨリ事實ヲ詳記シ戸長ノ與書證印ヲ受ケ其所轄地方廳ノ添書ヲ以テ所轄廳へ出願スルトキハ詮議ノ上解雇スルコトアル可シ

第十條 工夫年期中ト雖モ傷疾疾病ニ因リ業務ニ堪ヘ難キ者或ハ往々見込ナキ者ハ解雇ヲ命ス可シ

第十一條 工夫年期中過テ負傷スルトキハ官費ヲ以テ治療セシメ且其傷痕重症ニシテ不具或ハ死ニ至ル者ハ官役人夫死傷手當規則ニ據リ處分ス可シ

第十二條 工夫滿期ニ至リ尙三年以上ノ雇職ヲ願フ者ハ詮議ノ上其年齡ニ因リ期限ヲ定メ之ヲ許可ス可シ

但願書ハ第四號證書ハ第五號書式ノ通タル可シ

第十三條 工夫業務勉勵セシ者ニシテ滿期或ハ年期中工長若クハ工手ニ任スルカ或ハ傷疾疾病ノ爲メ解雇スルカ又ハ死亡スルトキハ手當トシテ在業滿一箇年ニ付各自日給額十五日分ヨリ七日分迄ヲ給ス可シ

但在業年數ハ工夫ニ入業ノ月ヨリ履繼ノ者ハ其月ヨリ起算ス可シ  
第十四條 前條ノ手當金ヲ受クル者ニシテ在業滿二十年以上勤續ノ者ハ別ニ相當ノ慰勞金ヲ給ス可シ  
第十五條 工夫滿期解雇ノ者ニハ海軍工夫ヲ勤務セシ證トシテ年期中各自勉勵ノ等差ニ從ヒ第六號書  
式中ノ證書ヲ授與ス可シ

(第一號書式) 用紙半紙ニツ折  
正副  
海軍工夫入業願書

何年何月何日何國何郡  
村地ニ於テ生

何府縣何國何郡何村何番地  
華士族平民戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍  
寄留ノ者ハ寄留地ノ府縣等ヲ此所ニ記ス可シ

姓 名

當何年何月何年何箇月

右ハ海軍工夫志願ニ付何箇年期ニ御採用被下度受人連名ヲ以テ此段奉願候也

年號月日

右本人

姓

名 印

何府縣華士族平民  
何國何郡何村何番地住或ハ寄留

姓

名 印

受人若シ本人ノ父兄  
ナレハ父兄ト肩書ス  
ヘシ

身元引受人

同

同

姓

名 印

造船所或ハ何製造所

御 中

何府縣何國何郡何村何  
戸長

姓

名 印

前書之通相違無之仍テ與印候也

本人現住地ノ戸長

本人ト身元引受人ト郡區町村ヲ異ニシ隨テ戸長モ異ナルトキハ身元引受人住地或ハ寄留地町村ノ戸

長モ與印スルモノトス

(第二號書式) 用紙  
程村紙

五 寸

何府縣 何國何郡何村何番地 華士族平民 戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍	何職	姓 名
當何年何月何年何箇月	何年何月ヨリ何箇年期ヲ以 テ海軍工夫入業差許候事	當何年何月何年何箇月
年號月日	印 廳	

繼年期ノ分ハ何箇年期ヲ以テノ下ヘ更ニ  
ノ二字ヲ挿入スヘシ

(第三號書式)

用紙半紙ニツ折  
正副  
證書

何府縣何國何郡何村何番地  
華士族平民戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍  
寄留ノ者ハ寄留地ノ府縣等ヲ此所ニ記ス可シ

姓

名

當何年何月何年何箇月



右ハ海軍工夫當何月ヨリ何箇年期ヲ以テ入業ノ儀御許容相成候ニ付テハ總テ御規則堅ク相守リ可申萬一不良ノ所爲於有之ハ相當ノ御處分相受ケ違背不仕候爲後證如件

年號月日

右本人

姓

名印

身元引受人

姓

何府縣華士族平民  
何國何郡何町村何番地住或ハ寄留

名印

同

同

造船所或ハ何製造所

御中

(第四號書式) 用紙半紙ニツ折

正副

海軍工夫入業願書

三回以上繼年期ノ者ハ最初何年何月ヨリ何年何箇月マテ何箇年期ヲ此處朱書スヘシ  
四回五回以上此文例ニ憑リ應據ス可シ

何年何月何日何國  
何郡村地ニ於テ生

姓

名

當何年何月何年何箇月

右ハ海軍工夫何年何月ヨリ何箇年期ニ御採用被下置候處何年何月ニテ滿期ニ付本年何月ヨリ更ニ何箇年期御採用被下度受人連名ヲ以テ此段奉願候也

年號月日

右本人

姓

名印

身元引受人

姓

名印

何府縣華士族平民  
何國何郡何町村何番地住或ハ寄留  
受人若シ本人ノ父兄ナ  
レハ父兄ト肩書スヘシ

造船所或ハ何製造所

御中

前書ノ通相違無之仍テ奥印候也

本人現住地ノ戸長

姓

名印

本人ト身元引受人ト郡區町村ヲ異ニシ隨テ戸長モ異ナルトキハ身元引受人住地或ハ寄留地町村ノ戸長

モ奥印スルモノトス

(第五號書式) 用紙半紙ニツ折

正副

證書

三回以上繼年期ノ者前年期ヲ  
朱書スル第四號願書ニ同シ

何府縣何國何郡何町村何番地  
華士族平民戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍  
寄留ノ者ハ寄留地ノ府縣等ヲ此所ニ記ス可シ

姓

名

當何年何月何年何箇月

右ハ海軍工夫何年何月ヨリ何箇年期入業御許可被下置候處何年何月ニテ滿期ニ付本年何月ヨリ更ニ何箇年期入業御許容被下候ニ付テハ總テ御規則堅ク相守リ可申萬一不良ノ所爲於有之ハ相當ノ御所分相違背不仕候爲後證如件

年號月日

右本人

姓

名印

身元引受人

姓

名印

何府縣華士族平民  
何國何郡何町村何番地住或ハ寄留

第六號

造船所或ハ何製造所

御中

同

同

同

一等

印 割 證

何職 姓 名

何年何月雇職工入業  
何年何月工夫  
何年何月雇繼  
何年何月滿期解雇

右年月拔群勉勵勤績ノ證ト

ヤ シテ之ヲ附與ス

何年何月

印 應

二等

印 割 證

何職 姓 名

何年何月雇職工入業  
何年何月工夫  
何年何月雇繼  
何年何月滿期解雇

右年月誠實勉勵勤績ノ證ト

ヤ シテ之ヲ附與ス

何年何月

印 應

三等

印 割 證

何職 姓 名

何年何月雇職工入業  
何年何月工夫  
何年何月雇繼  
何年何月滿期解雇

右年月勤績候ノ證トシテ

ヤ シテ之ヲ附與ス

何年何月

印 應

海軍省令 第十九号 九月二十一日

明治九年定メ造船所定雇職工規則及ヒ明治十一年定メ兵器局定雇職工規則ヲ廢シ從前ノ各職工ヲ海軍  
工夫ト改メ其規則別冊ノ通相定候條此旨御届仕候也

海軍省令 第十九号 九月二十一日

明治十六年九月乙第九號達海軍工夫規則第二條及第三條ヲ改定スルコト左ノ如シ

第二條 工夫ニ雇役スル者ハ雇職工服役六箇月ヲ歷年齡十五年以上四十年未滿ノ者ニ限ル  
但雇繼若クハ技藝拔群ノ者ハ本文年齡ノ限ニ在ラス

第三條 工夫志願者ノ年齢ニ因テ年期ヲ定ムルコト左ノ如シ

十五年以上二十年未満ノ者	十箇年
二十年以上二十五年未満ノ者	八箇年
二十五年以上三十年未満ノ者	七箇年
三十年以上ノ者	五箇年

工房定規 八年八月二十三日

一 毎朝起業定刻五分前ノ半鐘ニテ各擔負セシ所ノ工房へ入り起業ノ相圖ニテ速ニ作業可相始事

一 各職工作業時間ノ儀春分ヨリ秋分迄ハ午前七時三十分ヨリ午後五時迄秋分ヨリ春分迄ハ七時三十分ヨリ午後四時迄ニ相定候事

一 一歳中四度ニ各工業術ノ巧拙且勤懈ニ因リ賃金ヲ増減致スヘキ事

但一月四月七月十月四度ヲ以テス増賃ハ一錢乃至二錢迄ヲ給與ス然トモ技業秀逸ノ良工ヲ拔擢登庸スルハ此限ニ非ス

一 朔夕出頭退散並午時食事ノ外會食所へ立入ルヲ禁ス若シ公事ニ關涉スルノ儀ハ姓名ヲ記シ監業技術掛ノ許ヲ受可致出入事

但私事ト雖モ不得止儀ハ本章ノ手順ニ從ヘシ

一 午後四時十分前止業ノ半鐘ニテ各取扱ノ諸器ヲ調査格護シ其場ニ於テ退散ノ相圖ヲ待ヘキ事

但當直ノ者ハ殘居第一火ノ元戸締等ヲ緻密ニ注意シ當直官員検査濟ノ上退出スヘシ

一 官員ヨリ屬托セシ物品ノ外細少ノ物ト雖モ私用ニ充ツヘキ品ヲ製造致シ候儀ハ嚴禁トス若シ犯違ノ者ハ免除申付ヘキ事

一 各工房ニ於テ烟草ヲ用ル事ヲ禁ス若シ乖忤ノ者ハ半日分賃金ヲ引去リ候事

一 各職工操作時間中擔當ノ事業ヲ勉勵セテ落成ノ日數ヲ延シ候者ハ事柄ニ依リ賃金減却等臨時ノ處分

兵制門 陸海軍官制  
十六年七月十一日改メテ  
職工定規ヲ定ム

ニ及ヘキ事

一 各職工午前六時三十分ヨリ遅刻致シ候者ハ當日賃金ノ内時間ノ割合ヲ以テ減渡申付ヘキ事

但七時後出頭ノ者ハ當日使用致サ、ルヘシ

一 鑑札失念出頭ノ者ハ姓名ヲ記シ帳ヲ宿直明ケノ官員へ届出ヘキ事

但定刻出頭スト雖モ過料ト爲テ三十分間ノ賃金ヲ引去ヘシ

一 鑑札紛失ノ者ハ十錢ツ、過料金ヲ可差出候事

前書ノ通相定候條嚴重可相守者也

職工規程 十六年七月十一日

第一章 總則

第一條 職工ハ總テ工場各科ノ事業ニ服役スル者トス

第二條 職工ヲ分テ四種トス定備工日雇工臨時雇工及試験工之ナリ

一 定雇工ハ特ニ定メタル兵器局定雇規則ニ基キ入業ヲ許ス

二 日雇工ハ期限ヲ確定セスト雖モ永ク當局ノ職工タルヲ希望スル者ヲ撰ミ入業ヲ許ス

三 臨時雇工ハ定雇日雇ノ兩工ト其性質ヲ異ニシ工業繁多ノ際一時之ヲ備役シ無用ノ日ニ至リテハ直チニ之ヲ解備スル者トス

四 試験工ハ定備及ヒ日雇工ノ志願者試験中ノ假位トス

第三條 定雇及日雇工ノ給額及年齢ニ由リ名稱等級ヲ分ツ事左ノ如シ

一 日給一圓二十錢以下七十錢迄ヲ特撰工ト稱シ五等ニ分ツ但技術格別優等ニシテ特ニ局長ノ裁可ヲ得ル者

二 日給六十錢以下二十五錢迄ヲ等内工ト稱シ八等ニ分ツ

三 年齢十八歳未満ノ者ニシテ日給二十錢以下十三錢迄ヲ幼年工ト稱シ三級ニ分ツ但十八歳以上

兵制門 陸海軍官制  
職工規程ヲ改メ  
更ニ職工規程ヲ定ム  
十九年十二月十七日改定

ト雖モ技術未熟ノ者ハ姑ク此位地ニ止ム

第四條 臨時雇工ハ等級ヲ分タズ各自ノ技術ニ應シ六十錢以下相當ノ給額ヲ支給ス

第五條 試験工ハ長幼ヲ以テ區別シ年齢十八歳以上ノ者ハ日給二十錢ヲ以テ成年試験工トシ十八歳未滿ノ者ハ日給十錢ヲ以テ幼年試験工トス

第六條 日雇工志願ノ者ハ東京區内在住丁年以上ノ戸主二名ノ保證人ヲ定メ下ニ掲クル書式ノ保證書ヲ差出スヘシ

第七條 試験ノ成績ニ依リ適當ノ等級ニ登用シ若シ工業ニ堪ヘサル者ハ速ニ放免スヘシ尤モ試験ノ日數ハ一週間ヲ超過スヘカラス

第八條 諸職工ハ互ニ禮節ヲ重シ忠實順良ノ風儀ヲ興シ長上ニ對シ尤モ敬禮ヲ加フ可シ

第九條 本分ノ事業ニ熟達スル者ハ漸次等級ヲ進ムヘシ尤モ拔擢ノ技能アル者又ハ非常ノ功勞アル者ハ數等ヲ進メ或ハ工手ニ拔擢スルコトアルヘシ

第十條 等内工以上ニシテ性質確實品行端正ナル者ヲ撰テ伍長ヲ命スヘシ

第十一條 伍長ハ出頭退散ヲ工手ニ報告シ科中役員ノ指揮ニ從ヒ工業ニ從事シ伍中ノ品行ヲ正シ技業ノ進歩ヲ勉ムヘシ

第十二條 等内工ハ科中役員及伍長ノ指揮ニ從ヒ工業ニ從事シテ幼年工以下ヲ教導シ技術ノ進歩ヲ勉ムヘシ

第十三條 幼年工ハ科中役員及伍長ノ指揮ニ從ヒ等内工ノ教導ヲ受ケ誠實工業ニ從事シ技業ノ熟達スルヲ勉ムヘシ

第十四條 諸職工退場ノ節ハ伍長其伍中ヲ率ヒ門監ノ検査ヲ受ケ順次退場スヘシ決シテ雜沓スヘカラス

但伍長不參ノ時ハ其伍中重立タル者代理スヘシ

第十五條 過誤失錯アル者ハ懲罰假規則ニ據リ處分スヘシ

第十六條 不正ノ所業アル者ハ勿論規則ヲ遵奉セス或ハ怠惰放逸ノ者ハ放免スヘシ

第十七條 身分上ニ係ル文書ハ課長ヘ宛テ科室長ヲ經テ差出スヘシ

第十八條 擔當事業ノ外濫リニ他ニ關與スヘカラス

第二章 勤務及休業ニ關スル件

第十九條 執業時間ハ一日九時間トス尤モ十二月一月二月三箇月ハ八時三十分間トス但正午喫飯時間ハ三十分ヲ許ス

第二十條 起業ハ三月ヨリ十一月マテ午前七時一月二月十二月ノ三箇月ハ午前七時三十分トス

第二十一條 工業ノ都合ニ依リ早出居殘夜業ヲ命シ又ハ休業日ヲ廢シ就業ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 起業時間後十五分迄入門ヲ許ス

第二十三條 入場後ハ濫リニ外出ヲ許サス尤疾病或ハ止ムヲ得サル事故アル者ハ科長ノ許可ヲ得テ退場スヘシ

第二十四條 疾病或ハ事故ニ依リ不參スル時ハ其旨届出ヘシ但病氣引籠リ一週間以上ニ至レハ醫案ヲ添テ届出尙全快セサル時ハ一週間毎ニ届出ヘシ尤モ日雇工ハ事狀ニ依リ放免スルコトアルヘシ

第二十五條 火災等ニ罹ル者ハ事情ニ依リ三日以内ノ休業ヲ許ス事アルヘシ

第二十六條 起業流笛前諸事ヲ準備シ止業流笛後諸物品ヲ取收メ掃除ニ著手スヘシ

流笛號鐘左ノ如シ

一 起業前報流笛 三十秒 二秒 二秒

但起業前十五分ニ報ス

一 起業報鐘

一 喫飯報鐘

一 止業報鐘及流笛 三十秒 二秒

第二十七條 諸事整頓ノ後タリトモ科中役員ノ指揮アルニアラサレハ退場スヘカラス  
 第二十八條 休業ハ一月一日ヨリ五日マテ孝明天皇祭紀元節春秋皇靈祭 九月神武天皇祭靖國神社祭 五月十一日神嘗祭天長節新嘗祭十二月二十九日ヨリ三十一日迄  
 但臨時休業ハ特ニ局長ノ達ニ據ルヘシ

第二十九條 隔土曜日(七月一日ヨリ九月三日)ニ正午ヨリ室中大掃除ヲ爲シ科長點檢後退場ヲ許スヘシ

第三十條 忌中ハ休業ヲ許スヘシ尤モ工業ノ繁閑ニ依リ除服出務ヲ命スルコトアルヘシ

第三章 給額ニ關スル件

第三十一條 諸職工ノ給額ハ左表ノ如ク一日則定時間中就業ノ者ヘ支給スヘシ

名 稱	等 級	一 日 給	
		金	日 給
特 異 工	一	金	一圓二十錢
	二	金	九圓
	三	金	八圓
	四	金	七圓
	五	金	六圓
	六	金	五圓
	七	金	四圓
	八	金	三圓
	九	金	二圓
	十	金	一圓
等 内 工	一	金	五圓
	二	金	四圓
	三	金	三圓
	四	金	二圓
	五	金	一圓
	六	金	一圓
	七	金	一圓
	八	金	一圓
	九	金	一圓
	十	金	一圓
幼 年 工	一	金	一圓
	二	金	一圓
試 験 工	一	金	一圓
	二	金	一圓

第三十二條 工業定時間外則就業時刻前一時間ノ早出並午後四時ヨリ同六時迄ノ間居殘就業ノ者ヘハ一時間ニ付各自ノ定賃錢ヲ基トシテ歩合(一人一日ノ工數十分)ノ一分ニ據テ増給シ午後六時ヨリ翌

朝起業時刻一時間前マテ夜業ノ者ヘハ一時間ニ付歩合ノ一步四釐ヲ増加スヘシ

第三十三條 給料ハ毎月兩度ニ給スヘシ

第三十四條 新規雇入午前入場スル者及ヒ解雇午後退場スル者ハ定賃錢ノ全額ヲ給シ新規雇入午後入場スル者及ヒ解雇午前退場スル者ハ定賃錢ノ半額ヲ給スヘシ

第三十五條 工業ノ爲メ片道三里以外ノ地ヘ出張ノ節ハ定則ノ旅費及定賃錢ノミヲ給シ到着翌日ヨリ旅費ヲ給セス定時間中ハ定賃錢ノ外歩合ノ五分ヲ増給シ尙定時間外就業則早出居殘夜業等ノ節ハ第三十二條ニ據リ増給スヘシ

但片道三里未滿ハ別段旅費ヲ給セスト雖一里以上ノ地ヘ出役スルトキハ定賃錢ノ外歩合ノ四分ヲ増給ス滞在スレハ本項ニ準ス

第三十六條 休業及病氣中其他不參ノ日ハ給料ヲ給セサルヘシ

第三十七條 出頭ノ上疾病或ハ事故アリ午前退場スル者ハ給料ヲ給セス午後退場スル者ハ半額ヲ給スヘシ

第三十八條 増給スル者及ヒ執業上負傷シテ退場スル者ハ午前午後ヲ問ハス其賃錢ノ全額ヲ給ス懲罰等ニ據リ減給スルモノハ即日ヨリ之ヲ減ス

第三十九條 起業時刻後十五分時間迄ハ入場ヲ許ス此場合ニ於テハ歩合ノ十分ノ一ヲ減ス

第四十條 定時間外早出及居殘リ執業時間算出方ハ三十分未滿ヲ切捨三十分以上ヲ一時間トスヘシ

第四十一條 執業上負傷スルトキハ終始官費ヲ以テ治療ヲ加ヘ其療養中ハ日給八分ノ一ヨリ五分ノ一迄ヲ適宜ニ支給シ療養料ヲ給セス

第四十二條 執業上重傷ニ罹リ不具或ハ死ニ至ル者ハ官役人夫死傷手當規則ニ據リ措置スヘシ

第四十三條 家族或ハ親戚ノ者六種ノ流行病ニ罹リ止テ得ス之ニ接近スル者ハ出場ヲ差止ムヘシ此場合ニ於テ其筋ノ證書ヲ以テ届出ル時ハ給料半額ヲ給スヘシ

第四章 服制ニ關スル件

第四十四條 場中ハ日本形廣袖ノ衣類ヲ著スルヲ許サス事業中ハ必ス筒袖細袴ヲ用ユヘシ  
 第四十五條 起業前及止業後出頭退場ノ際ハ各自隨意ノ著服ヲ許スヘシ  
 第四十六條 伍長ヲ命スル者ハ徽章ヲ貸與スヘシ

第五章 取締及禁止ニ關スル件

第四十七條 鑑札及徽章ハ紛失セサル様平常管守シ若シクハ紛失シタル時ハ速ニ届出ツヘシ  
 第四十八條 出頭ノ際鑑札ヲ遺忘シ若シクハ紛失シタル者ハ科長承認ノ上臨時用鑑札ヲ以テ出入ヲ許シ本人ハ其事由ヲ具狀シテ處分ヲ乞フヘシ  
 第四十九條 懲罰規則ニ掲クル條件ハ勿論其他尙左ノ各項ヲ禁止ス  
 一 執業中濫リニ他ヲ回顧スル事  
 一 休憩時間中ト雖モ定所ノ外濫リニ他所ニ休憩徘徊シ又ハ他ノ科室ニ行ク事  
 一 故シク各室ノ戸扉ヲ開放スル事  
 一 定所ノ外喫飯吹烟スル事  
 一 自用品ヲ科室内ニ携入スル事  
 一 各科室ヲ窺視スル事  
 一 窓縁ニ腰ヲ掛ケ或ハ外壁ニ登ル事  
 一 醉氣ヲ帶ヒテ出頭スル事  
 明治十六年六月

保證書

現住區町番地

何府縣何區或何郡町村番地  
士族或平民 何

某

當月何月何日何日生

右之通相違無御座候間本人儀ニ付萬一何様ノ事故有之候共一切引受可申候依テ後證如斯御座候也

何年何月何日

保證人

何區町番地  
士族或平民 何

某

當月何月何日何日生

海軍兵器局

御 中

前書本人及保證人當區在籍之者ニ相違無之候也

何區役所

何年何月何日

副保證人

何區町番地  
士族或平民 何

某

當月何月何日何日生

兵器局ヨリ海軍省ヘ届十六年七月十一日  
 兵器製造所職工規程  
 常局製造課事務取扱約束及簿記順序改正之儀發ニ兵一第百六十四號ヲ以御届濟既ニ實施候ニ付テハ職  
 工使役ニ關スル成規之如キモ隨テ改良ヲ加ヘサルヲ得ス依テ從前內規ヲ以テ施行致候工房定規ヲ改メ  
 更ニ職工規程別冊之通和定本月一日ヨリ施行候條此段御届仕候也  
 通テ本文第三十二第三十四第三十五第三十六第三十八第三十九第四十ノ各條項ハ本年五月兵一第百  
 三十五號ヲ以テ既ニ伺濟ニ付此段申添候也

兵器製造所職工規程 十九年十二月十七日

第一章 總則

第一條 職工ハ總テ工場ノ事業ニ服役スルモノトス  
 第二條 職工ヲ分ツテ四種トス工夫定雇工臨時雇工及ヒ試驗工之レナリ  
 一 工夫ハ特ニ定メタル工夫規則ニ基キ毎年七月體格検査ノ上合格ノ者ハ入業ヲ許ス  
 但體格検査ヲ經定雇工へ入業セシ者ハ身體検査ヲ要セス最定員ニ滿レハ入業ヲ許ス  
 二 定雇工ハ期限ヲ確定セスト雖モ永ク當所ノ職工タルヲ希望スル者ヲ撰ミ體格検査ノ上合格ノ者

兵器製造所職工規程ヲ  
改定ス

ハ入業ヲ許ス  
 但主簿ハ此限ニアラス  
 三 體格不合格ノ者技藝格別優等若シクハ特種ノ技業ヲ有シ工場使役ニ於テ支障ナキ者ト確認セハ  
 醫官ニ協議ヲ遂ケ入業ヲ許スコトモアルヘシ  
 四 臨時雇工ハ工業繁劇ノ際一時之ヲ備役シ無用ノ日ニ至リテハ直ニ之ヲ解雇スルモノトス  
 五 試験工ハ定雇工ノ志願者試験中ノ假位トス  
 但臨時雇工モ之ニ準ス  
 第三條 工夫及定雇工ノ名稱ヲ分ツ左ノ如シ  
 一 日給金一圓二十錢以下六十二錢迄ヲ特撰工ト稱ス  
 但技術格別優等ニシテ特ニ所長ノ裁可ヲ得ル者  
 二 日給金六十錢以下三十二錢迄ヲ等内工トシ日給金三十錢以下十二錢迄ヲ等外工ト稱ス  
 第四條 臨時雇工ハ各自ノ技術ニ應シ六十錢以下相當ノ給額ヲ支給ス  
 第五條 定雇工志願ノ者試験ノ成績ニ依リ適當ノ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ先ツ東京區内在住丁年以  
 上ノ戸主二名保證人ヲ定メ下ニ掲クル書式ノ保證書ヲ徴シテ採用スヘシ  
 最モ試験ノ日數ハ七日間ヲ除クヲ超過スヘカラス  
 但臨時雇工モ之ニ準ス  
 第六條 主簿ハ定雇工トス計算課員ト立會ヒ試験ノ上及第ノ者ヲ採用シ工場長ニ屬シテ諸務ニ從事セ  
 シム等級及ヒ日給ハ等内工ヲ過クヘカラス且工夫入業ヲ許サス  
 但製品ノ費用調理ハ計算課ノ指示ヲ受クヘシ  
 第七條 諸職工本分ノ事業ニ熟達シ平素勉強スル者ハ其等級賃錢ヲ進ムヘシト雖モ六箇月ヲ經過セツ  
 レハ増給スルヲ得ス最モ拔群ノ技倆アルモノハ或ハ工夫長ニ拔擢スルコトアルヘシ  
 第八條 等内工以上ニシテ性質確實品行端正ナル者ヲ撰シテ伍長ヲ命スヘシ

二十年八月四日第七條中  
ノ加添増補ス

第九條 伍長ハ出頭退散ヲ工場長ニ報告シ工場中役員ノ指揮ニ從ヒ工業ニ從事シ伍中ノ品行ヲ正シ拔  
 業ノ進歩ヲ勉ムヘシ  
 第十條 諸職工退場ノ節ハ伍長其伍中ヲ率ヒ門監ノ検査ヲ受ケ順次退場スヘシ決シテ雜踏スヘカラス  
 但伍長不參ノ時ハ其伍中重立タル者代理スヘシ  
 第十一條 不正ノ所業アル者ハ勿論規則ヲ違奉セス怠惰放逸ナル者ハ放免スヘシ  
 第十二條 身分上ニ係ル文書ハ科長ヘ宛テ工場長ヲ經テ差出スベシ  
 第十三條 諸職工ハ互ニ禮節ヲ重シ忠實順良ノ風儀ヲ興シ長上ニ對シ最モ敬禮ヲ加フヘシ  
 第二章 工業時間ニ關スル件  
 第十四條 執業時間ハ一日十時間トス最モ一月二月三月十一月十二月ノ五箇月ハ九時三十分間トス  
 但正午喫飯時間ハ三十分ヲ許ス  
 第十五條 起業ハ四月ヨリ十月迄午前七時一月二月三月十一月十二月ノ五箇月ハ午前七時三十分トス  
 第十六條 工業ノ都合ニ依リ早出居殘ヲ命シ又ハ休業日ヲ廢シ就業ヲ命スルコトアルヘシ  
 第十七條 入場後ハ濫リニ外出ヲ許サス尤モ疾病或ハ止ヲ得サル事故アル者ハ工場長ノ許可ヲ得テ退  
 場スヘシ  
 第十八條 疾病或ハ事故ニ依リ不參スル時ハ其旨届出ヘシ  
 但病氣引籠リ一週間以上ニ至レハ醫案ヲ添テ届出ヘシ尙全快セサル時ハ一週間毎ニ届出ヘシ尤モ  
 事情ニ依リ放免スルコトアルヘシ  
 第十九條 起業報鐘前諸事ヲ準備シ止業報鐘後諸物品ヲ取收メ掃除ニ著手スヘシ  
 流笛報鐘左ノ如シ  
 一起業前流笛 三十秒 二秒 二秒  
 但入門報鐘前十五分ニ報ス  
 一入門報鐘 午前七時

- 但二月二月三月十一月十二月八午前七時三十分
- 一 起業報鐘 午前七時十分
- 但二月二月三月十一月十二月八午前七時四十分
- 一 喫飯報鐘 午前十一時三十分
- 一 喫飯後就業報鐘 正午十二時
- 一 止業報鐘 午後五時
- 一同瀧笛 同三十分 二秒
- 一出門報鐘 午後五時十分

第二十條 門扉ハ起業前瀧笛十五分前ニ開明シ入門報鐘鳴リ終ルト共ニ閉鎖シ出門ハ報鐘ト共ニ開排スヘシ

第二十一條 非常ノ際ハ諸事整頓ノ後タリトモ工場中役員ノ指揮アルニアラサレハ退場スヘカラス

第二十二條 休業ハ一月一日ヨリ五日迄孝明天皇祭祀元節春秋皇靈祭<sup>三月</sup>神武天皇祭靖國神社祭<sup>五月</sup>神嘗祭天長節新嘗祭十二月二十九日ヨリ三十一日迄

但臨時休業ハ特ニ所長ノ達ニ依ルヘシ

第二十三條 毎月一回工場中大掃除ヲ成シ工場長之ヲ點檢スヘシ

但日限及時限ハ各工場工業ノ都合ヲ以テ工場長ヨリ製造科長ニ申出ヘシ

第二十四條 忌中ハ休業ヲ許スヘシ尤モ工業ノ繁閑ニ依リ除服出務ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 十八年未滿ノ職工ハ居殘ヲ爲サシムヘカラス

但工業上已ヲ得ツル場合ニ於テハ此限ニアラス

第三章 給額ニ關スル件

第二十六條 諸職工ノ給額ハ左表ノ如ク一日則チ定時間就業ノ者ヘ支給スヘシ

名	稱	日	給
特撰工	工	一	四十二錢
		二	四十四錢
		三	四十六錢
		四	四十八錢
		五	五十錢
		六	五十二錢
		七	五十四錢
		八	五十六錢
		九	五十八錢
		十	六十錢
等内工	工	一	三十四錢
		二	三十六錢
		三	三十八錢
		四	四十錢
		五	四十二錢
		六	四十四錢
		七	四十六錢
		八	四十八錢
		九	五十錢
		十	五十二錢



		等 外 工				
		金	金	金	金	金
試	二					
驗	十					
工		十	十	十	十	十
金						
錢		二	四	六	八	十

第二十七條 定時間外居殘夜業ヲ命スル時ハ本年六月第四十四號省達ニ據リ支給スヘシ

但晝夜ニ分ツテ工業ヲナス時ハ(第四十條)此限ニアラス

第二十八條 定時間外午後七時迄ヲ居殘トシ同七時以後ヲ夜業トシ起業一時間前ニ出頭スルヲ早出トス

第二十九條 居殘ノ節ハ止業報ヨリ十分間ヲ休息時間トシ出門報鐘ヲ就業報ト心得ヘシ

第三十條 夜業ノ節ハ午後五時ヨリ同十一時ヨリ各三十分ヲ喫飯時間トス此場合ニ於テハ喫飯前報

喫飯後就業ハ喫飯ヲ以テ之ヲ報スヘシ

但午後五時喫飯前報ハ止業報鐘及ヒ汽笛ヲ以テ喫飯前報ト心得ヘシ

第三十一條 給料ハ毎月兩度ニ給スヘシ

第三十二條 新規雇入午前入場スル者及解雇午後退場スル者ハ定賃金全額ヲ給シ新規雇入午後入場ス

ル者及解雇午前退場スル者ハ定賃金ノ半額ヲ給スヘシ

第三十三條 工業ノ爲片道三里以外ノ地へ出張ノ節ハ定賃金ノ外規則ノ旅費ヲ給シ滞在スレハ定賃金

ノ外旅費規則ノ日當ヲ給ス定時間外就業セシムル時ハ第二十七條ニ據リ増給スヘシ

但片道三里未滿ハ別段旅費ヲ給セスト雖モ一里以上ノ地へ出役スルトキハ定賃金ノ外歩合ノ四歩

ヲ増給シ業務ノ爲ノ宿泊ヲ要スルトキハ歩合ノ四歩ヲ給セス其泊數ニ應シ旅費規則ノ日當ヲ給ス

第三十四條 休業及病氣中其他不參ノ日ハ給料ヲ給セサルヘシ

第三十五條 出頭ノ上疾病或ハ事故アリテ午前退場スル者ハ給料ヲ給セス午後退場スル者ハ半額ヲ給スヘシ

第二十六條 増給スル者及執業上負傷シテ退場スル者ハ午前午後ヲ間ハス其賃金ノ全額ヲ給ス技術等

外吏以下懲罰則ニ據リ處分セシ者ハ其翌日ヨリ之ヲ減給スヘシ

第二十七條 執業上負傷スルトキハ終始官費ヲ以テ軍醫ノ治療ヲ加ヘ其療養中ハ日給五分ノ一以下ヲ

適宜ニ支級シ療養料ヲ給セス

第三十八條 執業上負傷ニ罹リ不具或ハ死ニ至ル者ハ官役人夫死傷手當規則ニ據リ措置スヘシ

但傷痕等級ハ軍醫ノ診斷證ニ依ル

第三十九條 家族或ハ親戚ノ者六種ノ流行病ニ罹リ止ヲ得ス之ニ接近スル者ハ出場ヲ停止スヘシ此場

合ニ於テハ其筋ノ證書ヲ以テ届出ル時ハ給料半額ヲ給スヘシ

第四十條 晝夜ニ分ツテ工業ヲ爲ストキハ晝業ハ午前七時ヨリ午後七時迄夜業ハ午後七時ヨリ午前

七時迄トス

但午前及午後十一時三十分ヨリ三十分間ノ喫飯時間ヲ與ヘ午前午後五時ヨリ十分間ノ休息時間ヲ

與フ

第四十一條 前條ノ晝業夜業ニ従事スル諸職工等ヘハ二時間ノ増働料ヲ給スヘシ

第四章 服制ニ關スル件

第四十二條 工場内ハ日本形廣袖ノ衣類ヲ著スルヲ許サス工業中ハ必ス筒袖細袴ヲ用フヘシ

但筒袖ハ木綿淺黃地一定ノ制式ヲ用ヒ左腕ニ長凡二寸五分巾一寸ノ白切ヲ付シ何工何某ト記載ス

ヘシ

第四十三條 起業前及止業後出頭退場ノ際ハ各自隨意ノ舊服ヲ許スヘシ

第四十四條 伍長ハ右腕ニ巾一寸ノ白筋ヲ付スヘシ

第五章 禁止ノ件

第四十五條 技術等外吏以下懲罰則ヲ遵守スヘキハ勿論猶左ノ各項ヲ禁止ス

一 休憩時間中ト雖モ定所ノ外濫リニ他所ニ休憩徘徊シ又ハ他ノ工場ニ行ク事

- 一 故ナク各工場ノ戸扉ヲ開放スル事
- 一 一定所ノ外喫飯スル事
- 一 自用品ヲ工場内ニ携入スル事
- 一 各工場ヲ窺視スル事
- 一 窓縁ニ腰ヲ掛ケ或ハ外壁ニ登ル事
- 一 仕事著ニアラサル外套或ハ引廻シ類ヲ著シ工場へ出入スル事
- 一 下駄ヲハキ或ハ傘幅輪傘ヲ持テ工場へ出入スル事
- 但雨天ノ節ハ工場内置場迄携帶スルヲ許ス
- 用紙美濃印紙貼用

何府縣何區或何郡

士族或平民

何

某

當何年何月何日生

右之者兵器製造所定規工ニ御雇入相成候上者何様ノ事故有之候共一切引受可申依テ爲後日證如件

年月日

保證人

何區町番地

士族或平民

某

當何年何月何日生

副保證人

何區町番地

士族或平民

某

當何年何月何日生

海軍兵器製造所

御中

前書本人及保證人當區在籍之者ニ相違無之候也

年月日

何區役所

兵器製造所官制十九年四月勅令第三十一號ヲ以テ定ムル所海軍一兵器製造所ノ部ニ載ス

兵器製造所職工規程第七條中ヲ削除增補ス

兵器製造所ヨリ海軍省へ届二十年八月四日

客歲十二月兵製第九十三號ノ十三ヲ以テ當所職工規程改定ノ儀御届仕置候處今般當所工夫長試驗科目御裁可相成候ニ付同規程第七條左ノ通削除増補候間此段御届仕候也

職工規程第七條

技師アル者ハノ下或ハノニ字ヲ削リ相當ノ試驗ヲ成シノ八字ヲ加フ

火藥製造所ヨリ海軍省へ届十九年二月二十日

當所工夫及職工取扱ノ儀舊兵器局職工規程ニ依リ從前ノ通取扱致候間此段御届仕候也

火藥製造所工夫及職工取扱方ハ舊兵器局職工規程ニ依ル

舊兵器局職工規程ハ十一月海軍省甲第三號通令ヲ以テ定ムル所上三載ニ於テ改定ス

火藥製造所長ヨリ火藥製造所一般へ達二十年三月二十三日

當所職工規程並職工採用規則別冊之通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

海軍火藥製造所職工規程

第一章 總則

第一條 職工ハ製造科各工場ノ事業ニ服役スルモノトス

第二條 職工ヲ區分スルコト左ノ如シ

- 一 工夫 工夫ハ海軍工夫規則ニ據テ入業ヲ許シタル者
- 二 傭工 傭工ハ永シ本所ノ職工タルヲ希望シテ入業ヲ許シタル者  
但此工ヲ分テ火藥工機工鑄工木工圖工ノ六トス
- 三 臨時傭工 臨時傭工ハ工業繁多ノ際一時雇役シ無用ノ日ニ至テ解雇スヘキ者
- 四 試驗工 試驗工ハ傭工ノ志願者試驗中ノ假位トス
- 五 書役 書役ハ傭工中讀書算筆ニ長スル者

第三條 職工ノ等級左ノ如シ

- 一 特撰工 自一等級 成年工ニシテ技能卓絶ノ者ヲ以テ之レニ充ツ
- 二 成年工 自一等級 至八等級 年滿十八年以上ノ者ヲ以テ之レニ充ツ  
但十八年未滿ト雖モ技能熟達ノ者ハ此列ニ進ムヲ得
- 三 幼年工 自一等級 至三等級 年滿十八年未滿ノ者ヲ以テ之ニ充ツ  
但十八年以上ト雖モ技能熟達セサル者ハ成年工ニ進ムヲ得

第四條 臨時傭工ハ等級ヲ分タス各自ノ技能ニ應シ成年工以下ノ賃錢ヲ支給ス

第五條 試驗工ハ長幼ナリテ區別シ十八年未滿ヲ幼年試驗工トシ十八年以上ヲ成年試驗工トス

第六條 試驗工ノ試驗ハ一箇月以上三箇月以内トシ其技能ニ依リ適當ノ等級ニ登用スヘシ  
但成業ノ見込ナキモノハ本條ノ期ニ拘ハラズ試役ヲ解クコトアルヘシ

第七條 書役ハ工場其他ニ在テ掛リ官ノ指揮ヲ受ケ記録ノコトヲ負擔スルモノトス

第八條 職工ハ禮節ヲ重シ忠實順良ノ風儀ヲ興シ先進ヲ敬シ後進ヲ愛スヘシ

第九條 本分ノ業務ニ熟達スル者ハ漸次等級ヲ進ムヘシ尤モ拔群ノ技能アル者又ハ非常ノ功績アル者ハ數等超進シ或ハ雇員ニ拔擢スルコトアルヘシ

第十條 各工場ニ組長一人伍長若干人ヲ置ク

第十一條 組長及伍長ハ成年工以上ニシテ技能熟達品行端正ナル者ヲ撰ンテ之レニ充ツ

第十二條 組長ハ二工場中ノ取締ヲナシ技術官ノ命令ヲ受ケテ職工ヲ誘導シ能ク業務ニ服シシムルヲ要ス

第十三條 伍長ハ組長ヲ補佐シ且ツ其伍中ノ取締ヲナシ技能ノ進歩ニ盡力スヘシ又組長事故アルトキハ先進ノモノ其代務ヲナスヲ得

第十四條 職工ハ技術官ハ勿論組長竝ニ伍長ノ指揮ニ從ヒ業務ニ從事シテ専ラ技能ニ熟達スルコトヲ勉ムヘシ

第十五條 職工退場ノ節ハ伍長其伍員ヲ率ヒテ順次退場シ決シテ雜踏スヘカラス伍長不參ノトキハ其伍中先入ノ者代務スヘシ

第十六條 職工等身分上ニ係ル文書ハ製造科長ヘ宛テ其掛リノ技術官ヲ經テ差出スヘシ

第十七條 出頭ノ際鑑札ヲ遺忘シタル者ハ監護ニ其旨ヲ通シ組長ヲ經テ臨時用鑑札ノ下附ヲ請フヘシ  
但鑑札ヲ紛失シタル者ハ其事由ヲ詳記シテ届出ヘシ

第十八條 擔當事務ノ外濫リニ他ノ事業ニ關與スヘカラス

第十九條 製造品竝ニ機械器具等ハ鄭重ニ取扱フヘシ

第二十條 機械器具等ヲ毀損シタルトキハ其原因ヲ取調組長ヲ經テ掛リ技術官ニ開申スヘシ

第二十一條 凡ソ工場ニ於テ異狀アルトキハ速ニ組長ヲ經テ掛リ技術官ニ開申スヘシ

第二十二條 毎日起業報前ニ諸事ヲ準備シ止業報後ニ機械ヲ掃除シ注油ヲ終ヘ諸具ヲ整頓シテ掛リ技術官ノ點檢ヲ受ケタル後退散スヘシ

第二十三條 一般心得ヘキ令達ハ喫飯所ニ揭示ス

第二十四條 職工ノ採用ハ總テ職工採用規則ニ據ルヘシ

第二十五條 職工ハ年滿五十五年ヲ停年トシ此期ニ至ル者ハ服役ヲ解ク  
但滿期ニ至ルモ技能熟練且身體強壯ニシテ其職ニ堪ユル者ハ年限ヲ定メ服役ヲ命スルコトアルヘシ

第二章 勤務及休業

- 第二十六條 就業時間ハ一日十時間トス  
但時機ニヨリ短縮スルコトアルヘシ
- 第二十七條 起業時ハ三月ヨリ十一月マテ午前七時トシ十二月ヨリ翌年二月マテ午前七時三十分トス
- 第二十八條 喫飯休憩時間ハ午前十一時三十分ヨリ正午十二時マテトス
- 第二十九條 業務ノ都合ニヨリテハ早出居殘及夜業ヲ命シ又休日就業セシムルコトアルヘシ
- 第三十條 晝夜ニ分ツテ業務ヲ爲ストキハ晝業ハ午前七時ヨリ午後七時マテ夜業ハ午後七時一分ヨリ午前六時五十九分マテトス
- 第三十一條 夜業ノ節ハ午後五時ヨリ同三十分午後十一時ヨリ同三十分マテヲ喫飯休憩時間トス  
但徹夜引續キ就業ノモノニハ午前六時ヨリ同八時マテノ内三十分間喫飯休憩セシム
- 第三十二條 職工ノ入門ハ起業第二前報前タルヘシ  
但起業報ヲ過ル者ハ入門ヲ許サス
- 第三十三條 就業時間中ハ濫リニ退散外出ヲ許サス尤モ發病若クハ實際已ヲ得サル事故アル者ハ掛リ  
技術官ヲ經テ科長ノ許可ヲ乞フヘシ
- 第三十四條 疾病或ハ事故ニヨリテ不參スルトキハ其旨届出ヘシ  
但疾病七日ヲ超ユレハ醫證ヲ添ヘテ届出尙ホ全快セサルトキハ毎週同様ノ手續ヲナスヘシ疾病久シキニ涉レハ時アツテ役務ヲ解クコトアルヘシ
- 第三十五條 水火風災等ニ罹ル者ハ事情ニヨリ三日以内ノ休業ヲ許スコトアルヘシ
- 第三十六條 父母ノ祭日ハ休業ヲ許ス  
但祭日ハ豫メ届置クヘシ
- 第三十七條 父母其他ノ喪ニ在ルモノハ休業セシム

但シ業務ノ都合ニヨリテハ除服出場ヲ命スルコトアルヘシ

第三十八條 漁笛號鐘ノ譜左ノ如シ 長線ハ三十秒 短線ハ五秒

起業第一前報 (第二前報)

起業第二前報 (起業報十)

起業報 (午後)

喫飯休憩報

止業報

非常報

第三十九條 就業時中故ナクシテ業務ヲ休止スヘカラス事實止ムヲ得サル場合ニ於テハ組長ヨリ技術官ヲ經テ科長ノ承認ヲ受クヘシ

第四十條 一年間休業左ノ如シ

日曜日

一月一日ヨリ同三日迄

新年宴會

孝明天皇祭

紀元節

春秋季皇靈祭

靖國神社祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月二十九日ヨリ同三十一日迄

第四十一條 所長ノ令達ニヨリテハ臨時休業スルコトアルヘシ

第三章 賃錢

第四十二條 職工賃錢ノ最上限ヲ定ムルコト左表ノ如シ  
職工賃錢表

名 稱	特 撰 工												成 年 工 及 番 役												幼 年 工	
	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等	八 等	一 等	二 等	幼 年	成 年								
給 日	金 一 四 二 十 錢	金 九 十 五 錢	金 八 十 五 錢	金 七 十 五 錢	金 六 十 五 錢	金 五 十 五 錢	金 五 十 五 錢	金 四 十 七 錢	金 四 十 七 錢	金 四 十 五 錢	金 三 十 七 錢	金 三 十 五 錢	金 三 十 二 錢	金 二 十 七 錢	金 二 十 五 錢	金 二 十 二 錢	金 十 三 錢	金 十 八 錢								

試 験 工		幼 年	成 年
幼	成	金 十 三 錢	金 十 八 錢

第四十三條 賃錢ハ最上限範圍内ニ於テ適宜ニ支給スルモノトス  
 第四十四條 定時間外ニ就業シタル者ハ明治十九年六月第四十四號省達ニ據リ増働料ヲ支給ス  
 第四十五條 賃錢ハ毎月兩度ニ支給ス  
 第四十六條 新ニ備役並ニ解備スル者ニシテ午前入場午後退場スル者ハ定賃錢ノ全額午後入場午前退場スル者ハ其就業時間ニ應スル額ヲ給スヘシ  
 第四十七條 工業ノ爲メ片道三里以外ノ地ニ出張スルトキハ定規ノ旅費並ニ賃錢ヲ給シ滞在スル者ハ賃錢ノ外旅費規則ノ日當ヲ給シ又定時間外就業スル者ハ増働料ヲ給スルハ第四十四條ニ同シ  
 但三里未滿ト雖モ止宿ヲ要スルトキハ旅費規則ノ日當ヲ給ス  
 第四十八條 休業及疾病忌中其他不參ノ日ハ賃錢ヲ給セス  
 第四十九條 入場ノ後不得止事故ニ依リ午前退場スル者ハ賃錢ヲ給セス午後退場スル者ハ其就業ノ時間ニ應スル額ヲ給スヘシ  
 但疾病ニヨリ醫官ノ診斷ヲ經テ退場スル者ニハ其時午ノ前後ヲ間ハス就業ノ時間ニ應スル賃錢ヲ給スヘシ  
 第五十條 起業第二前報ニ後レテ入門スルモノハ其賃錢ノ十分ノ一ヲ減ス  
 第五十一條 賃錢増給スル者及ヒ業務上負傷シテ退場スル者ハ時午ノ前後ヲ間ハス其賃錢ノ全額ヲ給ス又技術等外吏以下懲罰則第八條ニ據テ處分セシ者ハ即日ヨリ減給ス  
 第五十二條 業務上負傷スル者ハ終始官費ヲ以テ軍醫ノ治療ヲ加ヘ其療養中ハ賃錢ノ五分ノ一以下ヲ適宜ニ支給シ別ニ療養料ヲ給セス  
 第五十三條 業務上重傷ニ罹リ不具或ハ死ニ至ル者ハ官役人夫死傷手當規則ニ據リ處分スヘシ  
 但傷痕等級ハ軍醫ノ診斷ニ依ル

第五十四條 家族或ハ親戚ノ者六種傳染病ニ罹リ止ムヲ得ス之レニ接近シタル者ハ入場ヲ禁ス  
但本條ノ場合ニ於テ其筋ノ證書ヲ添ヘテ届出ルトキハ賃錢ノ半額ヲ給スヘシ

第四章 被服

第五十五條 所内ハ西洋服或ハ筒袖細袴ニ限ルヘシ  
但出頭退散ノ際ハ各自隨意ノ衣服ヲ穿ツモ妨ケナシ

第五十六條 所内ニ於テハ木履下駄ノ類ヲ禁ス

第五十七條 組長及伍長ヲ命スル者ハ徽章ヲ與フ尤モ所外ニ於テ佩用スルヲ許サス  
但組長及伍長ヲ免セラレタルトキ或ハ解備ノ際ハ之ヲ返納スヘシ

第五十八條 衣服ハ務テ清潔ナルヲ要ス夏季ハ每週冬季ハ隔週土曜日ニ監護ノ検査ヲ受ケ自宅ヘ持參  
シテ之レヲ洗滌スヘシ

第五章 懲戒

第五十九條 凡ソ過失アル者ハ待罪書ヲ進達スヘシ

第六十條 待罪書ハ本人其過失ノ顛末ヲ詳記シ技術官ヲ經テ進達スルモノトス

第六十一條 連帶ノ過失ハ各其實ニ任ス

第六十二條 過失ノ懲戒ハ技術等外吏以下懲罰則ニ照ラシテ處分スヘシ

第六十三條 技術等外吏以下懲罰則ノ犯則ニアラサルモ尙ホ左ノ各項ニ觸ル者ハ臨機處分スルコト  
アルヘシ

一 掛リ技術官ノ指揮ニ違背スル者

二 本所官吏ニ對シテ敬禮ヲ失スル者

三 自己ノ業務ヲ怠リ濫リニ他ヲ回顧スル者

四 就業時間中科長ノ承認ナクシテ業務ヲ休止スル者

五 故ナク各室ノ戸扉ヲ開放スル者

六 定所ノ外ニテ喫飯吸烟スル者

七 自用品ヲ工場内ニ携入スル者

八 窓縁ニ腰ヲ掛ケ或ハ胸壁ニ登ル者

九 醉氣ヲ帶ヒテ入場スル者

十 鑑札ヲ遺忘シテ出頭スル事數々ナル者

十一 第五十五條第五十六條及第五十八條其他總テ所内ノ禁止ヲ犯ス者

海軍火藥製造所職工採用規則

第一條 職工ヲ召募スルトキハ左ノ手續ヲ施行ス

第二條 召募スル所ノ成年工或ハ幼年工ハ其年齡及人員ヲ定メ當所門前及職工休憩所或ハ新聞紙ニ廣  
告ス

第三條 召募職工ノ年齡ハ成年工ハ三十年幼年工ハ二十年未滿タルヘシ

第四條 職工志願者ハ甲號書式ニ據リ願書ヲ出スヘシ

第五條 職工志願者ノ検査及試験ハ軍醫及製造科屬員雇員若干名ヲ以テ施行ス  
但時アツテ他ノ屬員及雇員ヲ充テルコトアリ

第六條 検査及試験ニ與ル者ハ職工志願者ノ紹介人タルコトヲ得ス

第七條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルモノハ職工ニ採用セス

一 身體強壯ナラサル者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

四 平素品行不良ノ者

第八條 検査及試験ノ科目ハ左ノ如シ

一 體格

- 二 叢書 規則類
- 三 作文 通俗文
- 四 算術 加減二則

第九條 試験ノ點數ハ全點百八十點トシ其十分ノ四以上ヲ得タルモノヲ及第トス然レトモ一科零點ナルトキハ及第トセス

第十條 職工志願人試験ノ後及第シタル者ハ東京府内在住丁年以上ノ戸主二名ノ保證人ヲ定メ乙號書式ノ保證書ヲ出サシメ以テ入業ヲ命ス

第十一條 入業ヲ命シタル職工ハ先ツ試験工ニ採用スルモノトス

第十二條 機工鍛工鑄工木工圖工ノ五職並書役ハ時アツテ本則第三條及第八條ニ據ラス採用スルコトアルヘシ

甲號書式 用紙半紙

何工検査願

何府縣何國郡區町村番地

士族平民

戸主或ハ何々

姓

名

何年月日生  
當何年何月何年何箇月

右者何工志願ニ付御検査之上御採用被成下度此段奉願候也

年月日

姓

名印

乙號書式

用紙美濃紙

保證書

海軍火藥製造所 御中

何府縣何國郡區町村番地 他ニ寄留スル者ハ其所ヲモ能スヘシ

身分

戸主又ハ何某男或ハ兄弟伯叔甥附籍

姓

名

何年干支月日生  
當何年何月何年何箇月

右者其御所何工ニ御採用相成候上ハ本人何様之儀有之候共一切引受可申候且本人是迄犯罪之所業等決シテ無之候爲後日證書仍テ如件

何府縣何國郡區町村番地

身分

戸主

保證人 姓

名印

何年干支月日生

同

同

同

海軍火藥製造所

御中

前書本人並保證人共當區町村在籍或ハ寄留之者ニ相違無之候也

何區戸長印

本人及保證人ノ郡區ヲ異ニスル者ハ各區戸長ノ公證ヲ要ス

火藥製造所ヨリ海軍省へ届二十年三月二十三日

當火藥製造所職工規程同採用規則册ノ通相定候此段御届仕候也

水雷修理工場職工規程 二十年六月日四

水雷修理工場職工規程ヲ定ム

第一章 總則

- 第一條 職工ハ總テ工場各科ノ事業ニ服役スル者トス
- 第二條 職工ヲ分テ四種トス工夫日雇工臨時雇工及試験工之レナリ
  - 第一項 工夫ハ海軍工夫規則ニ基キ入業ヲ許ス
  - 第二項 日雇工ハ期限ヲ確定セスト雖モ永ク當工場ニ奉役ヲ望ム者ヲ撰ミ試験ノ上入業ヲ許ス
  - 第三項 臨時雇工ハ工夫日雇ノ兩工ト其性質ヲ異ニスト雖モ工業繁多ノ際一時之ヲ備役シ無用ノ日ニ至リテハ直チニ之ヲ解僱スル者トス
- 第四條 試験工ハ工夫及ヒ日雇工ノ志願者試験中ノ假位トス
- 第三條 工夫及ヒ日雇工ノ給額ニ由リテ名稱ヲ分ツコト左ノ如シ
  - 第一項 日給一圓二十錢以下六十錢迄ヲ俊秀工ト稱ス該工ハ技術優等ニシテ特ニ兵器部長ノ裁可ヲ得タル者
  - 第二項 日給五十九錢以下三十錢迄ヲ等内工ト稱ス
  - 第三項 日給二十九錢以下十六錢迄ヲ等外工ト稱ス
- 第四條 臨時雇工ハ等級ヲ分タス各自ノ技術ニ應シ五十九錢以下相當ノ給額ヲ支給ス
- 第五條 試験工試験中ハ技術ノ優劣ヲ論セス一日十六錢以內ノ手當ヲ支給ス
- 第六條 日雇工志願ノ者ハ神奈川縣下長浦及ヒ横須賀在籍ノ者ニシテ丁年以上ノ戸主二名ノ保證人ヲ定メ下ニ掲クル書式ニ依フテ保證書ヲ差出スヘシ
- 第七條 試験ノ成績ニ依リ適當ノ等級ニ登用シ若シ工業ニ堪ヘサル者ハ速ニ放免スヘシ尤試験ノ日數ハ一週日ヲ踰ユヘカラス
- 第八條 本分ノ事業ニ熟達スル者ハ漸次等級ヲ進ムヘシ尤モ拔群技能アル者又ハ非常ノ功勞アル者ハ數等ヲ進ルコトアルヘシ
- 第九條 工場勤務ノ下士ヲ以テ職工取締トス

第十條 各職ニ伍長各一名ヲ置ク該長ハ等内以上ニシテ性質確實品行端正ナル者ヲ撰拔シテ之ニ充ツ

第十一條 伍長ハ出頭退散ヲ職工取締ニ報告シ工場役員ノ指揮ニ從ヒ工業ニ從事シ伍中ノ品行ヲ正シ技業ノ進歩ヲ勉ムヘシ

第十二條 諸職工ハ互ニ禮節ヲ重シ忠實順良ノ風儀ヲ守リ長上ニ對シ尤モ敬禮ヲ闕クヘカラス

第十三條 總テ職工ハ職工取締及伍長ノ指揮ニ從ヒ篤實ニ自己ノ業ニ從事スヘシ

第十四條 諸職工退場ノ節ハ伍長其伍中ヲ率ヒ當直ノ職工取締ヨリ鑑札ヲ受ケ取り順次退散決シテ雜踏スヘカラス

但伍長不參ノトキハ其伍中高給ノ者代理ヲナスヘシ

第十五條 故意疎虞懈怠過失ノ輕犯ニシテ刑法ニ該ラサル者ハ技術雇員以下懲罰ニ據リ處分スヘシ

第十六條 不正ノ所業アル者ハ勿論規則ヲ遵奉セス或ハ怠惰放逸ノ者ハ放免スヘシ

第十七條 身分上ニ係ル文書ハ工場監督ヘ宛テ工務掛長ヲ經テ差出スヘシ

第十八條 自己ノ擔當事業ノ外決シテ他ニ關與スヘカラス

第二章 勤務及休業ニ關スル件

第十九條 執業時間ハ一日十時間トス尤モ冬期短日ノ時ハ九時三十分間トス

但喫飯時間ハ三十分トス

第二十條 起業ハ三月ヨリ十月迄午前七時十一月ヨリ二月迄ハ午前七時三十分トス

第二十一條 工業ノ都合ニヨリ早出居殘夜業ヲ命シ又ハ休業日ヲ廢シ就業ヲサシムルコトアルヘシ

第二十二條 諸職工就業時間ハ濫リニ外出ヲ許サズ最モ疾病或ハ止ヲ得サル事故アル者ハ掛長ヲ經監督ノ許可ヲ得テ退場スヘシ

第二十三條 疾病或ハ事故ニ依テ不參アル時ハ其旨届出ヘシ

但病氣引籠リ一週間以上ニ至レハ醫證ヲ添ヘ届出テ尙全快セサル時ハ一週間毎ニ届出ヘシ最モ日雇工ハ事情ニ依リ放免スルコトアルヘシ



第二十四條 火災等ノ如キ災害ニ罹ル者ハ事情ニ依リ三日以内ノ休業ヲ許ス事アルヘシ  
第二十五條 起業瀧笛前諸事ヲ準備シ止業瀧笛後諸物品ヲ取收メ掃除ニ著手スヘシ  
瀧笛左ノ如シ

- 一 起業十五分前報瀧笛 二十秒
- 一 起業瀧笛 十五秒
- 一 止業二十分前報瀧笛 二十秒
- 一 退場瀧笛 十五秒

第二十六條 止業後諸掃除整頓ト雖モ退場ノ瀧笛ヲ聞カサル内決シテ退場スヘカラス  
第二十七條 休業ハ一月一日ヨリ五日迄孝明天皇祭祀元節春秋皇靈祭三月神武天皇祭靖國神社十一月  
神嘗祭天長節新嘗祭十二月ハ二十九日ヨリ

但臨時休業ハ特ニ兵器部長ノ達ニ依ル

第二十八條 毎土曜日ハ退散一時前ヨリ終業室内諸機械大掃除ヲナシ掛長點檢後退場ヲ許スヘシ

第二十九條 忌中ハ休業ヲ許ス最モ工業ノ都合ニ依リ除服出務ヲ命スルコトアルヘシ

第三十條 工業定時間外ノ早出居殘等ノ増給ハ海軍省令第四十四號ノ達ニ因ル

第三十一條 工業ノ爲メ片道三里以外ノ地へ出張ノ節ハ定規ノ旅費並ニ賃錢ヲ給シ滞在スレハ定賃金  
ノ外旅費規則ノ日當ヲ給ス又定時間外就業セシムルトキハ第二十九條ニ據リ増給スヘシ  
但三里未滿ト雖モ止宿ヲ要スルトキハ旅費規則ノ日當ヲ給ス

第三十二條 給料ハ毎月十五日及月末ノ兩度ニ給スヘシ

第三十三條 休業及ヒ病氣其他不參ノ日ハ給料ヲ給セサルモノトス

第三十四條 出場ノ上疾病或ハ事故アリテ午前退場スルモノハ給料ヲ給セス午後退場スルモノハ半額  
ヲ給ス

第三十五條 増給スルモノ及ヒ執業上負傷シテ退場スル者ハ午前午後ヲ間ハス其賃金ノ全額ヲ給ス懲

罰則ニ依リ減給スルハ即日ヨリ之ヲ減ス

第三十六條 定時間外早出及ヒ居殘リ執業時間算出方ハ三十分未滿ヲ拾テ三十分以上ヲ一時間トス

第三十七條 執業上負傷スルトキハ終始官費ヲ以テ治療ヲ加ヘ其療養中ハ日給五分ノ一以下ヲ適宜ニ

支給シ療養料ヲ給セス

第三十八條 執業中重傷ニ罹リ不具或ハ死ニ至ル者ハ官役人夫死傷手當規則ニ據リ措置スヘシ  
但傷痕等級ハ軍醫ノ診斷證ニ依ル

第三十九條 家族或ハ近親ノ者傳染病ニ罹リ止ヲ得ス之ニ接近スル者ハ出場ヲ差止ムヘシ此場合ニ於  
テハ其筋ノ證書ヲ以テ届出ルトキハ給料ノ半額ヲ給スヘシ

第三章 被服ニ關スル件

第四十條 工場中ハ日本形廣袖ノ衣服ヲ著スルコトヲ許サズ事業中ハ筒袖股引ヲ用ユヘシ

第四十一條 起業前及ヒ止業後出頭退場ノ際ハ各自隨意ノ著服ヲ許ス

第四十二條 伍長ハ右腕ニ巾一寸ノ白筋ヲ付スヘシ

第四十三條 鑑札ハ紛失セサル様平常管守スルハ勿論ノコトタリト雖モ若シ紛失シタル時ハ速ニ届出  
ツヘシ

第四十四條 出頭ノ際鑑札ヲ遺忘シ若クハ紛失シタル者ハ掛長承認ノ上臨時用鑑札ヲ以テ出入ヲ許シ  
本人ハ其事由ヲ具狀シテ處分ヲ乞フヘシ

第四十五條 懲罰則ニ掲クル條件ハ勿論其他尙左ノ各項ヲ禁止ス

第一項 執業中濫リニ他ヲ回顧スル事

第二項 休憩時間中ト雖モ濫リニ他所ニ休憩徘徊シ又ハ他ノ室ニ行ク事

第三項 故ナク各室ノ戸扉ヲ開放スル事

第四項 自用品ヲ工場内ヘ携入スル事

第五項 各室ヲ窺視スル事

第六項 窓縁ニ腰ヲ掛ケ或ハ外壁ニ登ル事  
第七項 醉氣ヲ帯ヒテ出頭スル事  
保證書

現在區町番地

何府縣何區或何郡町村番地  
士族或平民 何

何年何月何日生  
當月何年何箇月

右之者水雷修理工場何々ニ御雇入相成候上ハ何様ノ事故有之候共一切引受可申候依テ後證如件

何年何月何日

保證人

何區町村番地  
士族平民 何

某

保證人

何區町村番地  
士族平民 何

某

長浦水雷修理工場

御中

前書本人及ヒ保證人當町村在籍ノ者ニ相違無之候也

年月日

何町村

戸長

某

横須賀鎮守府ヨリ海軍省へ届二十年六月日附  
長浦水雷修理工場職工規程別紙ノ通相定候條此段御届仕候也

造船所職工組合内則 十五年四月二十一日

第一條 職工組合ハ各工場諸般ヲ取締工業ヲ滯滞ナカラシメ職工各自工藝ヲ進脩セシメ行狀ヲ篤厚ナラシムルヲ本旨トス

横須賀造船所職工組合  
内則ヲ定ム  
二十年四月二十五日改正

十六年九月四日第四條ヲ  
改正ス

第二條 各職工ノ日給多寡ヲ斟酌シ大率七人以上十五人以下ヲ以テ一組ト爲シ主任ヲシテ之ヲ編成セシムルモノトス  
但其工業模様ト其工場總員ノ都合トニ因リ一組ヲ人員本條ノ定度ニ從ヒ難キ等臨時組々ノ入替ヲ爲スハ適宜主任ノ處分スルヲ得ルモノトス

第三條 毎組伍長一員ヲ置キ其組合ヲ統理セシムヘシ  
第四條 伍長ハ業生及工手ノ内品行端正ニシテ一組ヲ統理セシムルニ適スルモノヲ撰任スヘシ若シ本人ノ品行其任ニ適セサルモノアルカ又ハ不行届ト認ムルトキハ伍長ヲ免シ組合中へ編入スヘシ

第五條 伍長及ヒ組合ヲ誘導獎勵シ工業ニ滯滞勿ラシメ其勤怠ヲ視察シ諸事取締上ニ注目シ務メテ職場ノ弊風ヲ更正スルコトニ注意スヘシ若シ不行届ノコトアレハ主任其責ニ任スヘシ  
第六條 各組伍長ヨリ具狀スル事件ハ明瞭ニ曲直實否ヲ糾シ其取捨ヲ誤ルヘカラス若シ或ハ其誣罔ヲ信シ失錯ノ處分アルカ又ハ私情ヲ挾ミ其惡ヲ蔽フ等ノ處置アルトキハ主任其責ニ任スヘシ

第七條 伍長ハ組合中ノ百事ヲ擔當スル職務タリ故ニ第一自己ノ品行ヲ正シ主任ノ指揮ニ從ヒ組合人員ヲ誘導獎勵シテ規則ヲ遵守セシメ過誤アレハ之ヲ矯正シ協同一致工業ヲ勉勵シ若シ不行届ノコトアレハ伍長其責ニ任スヘシ  
第八條 一工場中ノ伍長日々協議シ公平ニ彼我擔當事業ノ緩急ヲ酌量シ甲組合ノ工作繁劇ナルトキハ主任ニ具狀シテ乙組合ヨリ之ヲ補助シ緩急相助ケ工業ヲシテ滯滞セシメサルヲ要ス

第九條 一組中ニ工業ノ便益ヲ發明スルモノアルカ或ハ技術拔群勉強比類ナキカ若シクハ工業拙劣ニシテ上達セス又ハ怠惰ニシテ教誨ニ從ハス組合ノ妨害トナルヘキモノアラハ可否トモ主任へ具狀スヘシ

第十條 一組ノ者出場中ハ勿論平素ノ行狀等常ニ注意シ見聞ノ次第ニ因リ可否トモ主任へ具狀スヘシ

第十一條 一組ノ可否ヲ具狀スルニ當リ或ハ私情ヲ挾ミテ事實ヲ告ケス其善ヲ抑ヘ其惡ヲ蔽ヒ又ハ無

專ヲ讒誣スル等私曲ノ事跡他日發覺スルニ於テハ相當ノ處分ヲ爲スモノトス

第十二條 一組中怠惰犯則其他不都合ノ所爲アルトキハ本人ハ勿論伍長モ亦其責ヲ免カルヘカラス

第十三條 一組中守管ノ器械要具類ハ鄭重ニ取扱ヒ毀損錯雜ナキ様篤ク注意スヘシ

第十四條 一組中諸願届等差出スカ又ハ出業中發病被傷スルカ或ハ臨時退場ヲ請フ者アルトキハ其實否ヲ速ニ主任ニ申立ヘシ

第十五條 組合諸員ハ總テ規則ヲ遵奉シ職業ニ勉勵シ品行端正能ク伍長ノ指揮ニ從ヒ協同親睦諸事篤實ニ服務スヘシ

第十六條 他ノ組合中事業繁劇ニシテ之ヲ補助スルトキハ其組合伍長ノ指揮ニ從ヒ諸員ト協同其務ニ服スル等總テ自己本來ノ組合ト異同アルヘカラス

第十七條 組合中何事ニ依ラス心得違ノ者アラハ互ニ忠告スヘシ若シ忠告ヲ用ヒス我意ヲ張リ其非ヲ遂ケントスル者アラハ猶豫ナク伍長ニ報告スヘシ

第十八條 組合中怠惰犯則又ハ不都合ノ所爲アルトキ本人ハ勿論組合一同其責ヲ免カルヘカラス若シ或ハ互ニ之ヲ蔽隱シ後日發覺スルニ於テハ本人組合共ニ相當ノ處分ヲ爲スモノトス

第十九條 組合中守管ノ器械要具類ハ鄭重ニ取扱互ニ注意保護スヘシ

第二十條 伍長病氣或ハ事故アリテ不參ノトキハ組合中給多額ノ者一時代理ヲ爲スヘシ

第二十一條 組合中ノ諸願届又ハ出業中發病被傷スルカ或ハ臨時退場ヲ請フ者アルトキハ伍長ニ申出ヘシ

造船所ヨリ海軍省ヘ伺十五午二月四日

各職場多人數ノ職工工業ノ際勤惰其外僅々一二ノ技術判任官ノミニテハ兎角觀察方モ難行届夫カ爲メ怠惰犯則者有之而已ナラハ自ラ需用品ノ冗費モ相立取締モ充分ナラズ候處從來工手ノ儀ハ自己業前而已ニ無之諸職工ヲモ檢束スヘキ職位ニ候處自然ニ陵夷致シ當今ニ至テハ各自ノ責任タルヲモ不相辨輩有之ニ付テハ自今職工ノ組々ヲ定メ工手ノ内ヨリ伍長ヲ置キ別紙ノ通り編制取締致度且又艦船其他ヘ出業候節指揮ノ者明瞭ナラズ不都合ノ儀有之旁目標トシテ組々伍長ヘハ別紙圖面等ノ册子相渡候様仕度尤一箇年ニ付各一頭丈ハ渡切候其餘ノ調製費ハ本人共ヨリ收納爲致候儀ニ御座候此段伺出候也

指令十五年四月二十一日

伺ノ趣組合編制ノ條屆候條別紙附箋ノ通り修正施行可致册子渡方ノ儀ハ此度限リ間屆候事

構造製造所職工組合  
内規第四條ヲ改正ス

造船所ヨリ海軍省ヘ上申十六年八月二十四日

職工組合内規ノ條ハ昨年二月普第一二五號ヲ以テ御許可濟ニ付是迄施行致來候處該則實施以來至極取締モ相立都合宜敷候處獨リ第四條ハ實際ニ適セサル儀モ有之蓋支候ニ付テハ今後別紙ノ通知修正仕度既ニ前陳ノ通知則取締上必要ニ付猶消防夫運搬夫ヘモ通用致各々組合相定總テ該則ニ依テ檢束仕度候條併テ御認可相成度此段上申仕候

(別紙)

第四條  
伍長ハ業生及ヒ工手ヲ以テ之レニ任ス若シ本人ノ品行其任ニ適セサルモノアルカ又ハ不行届ト認ムルトキハ伍長ヲ免シ組合中へ編入スヘシ

但業生工手職員ノ節ハ雇或ハ職工ノ内工業熟達品行端正ニシテ其任ニ適スルモノヲ入選伍長心得申付ヘシ

指令 十六年九月四日

申出ノ趣間屆候事

造船所職工組合内則 二十年四月二十五日

第一章 總則

第一條 職工組合ハ工場諸般ノ整頓ヲ主トシ工業ニ滯滞ナク工夫以下ノ工藝ヲ進メ平等ニ規則ヲ遵奉セシムルヲ以テ本旨トス

第二條 工夫以下ノ日給多寡ヲ酌量シ一組凡ソ五人以上二十人以下ヲ以テ程度ト爲シ工場長ヲシテ組合ヲ編制セシムルモノトス

但工業ノ模様ト工場總員ノ都合トニ因リ本條ノ程度ニ從ヒ難キトキハ其人員ヲ増損シ或ハ組々ノ入替ヲ爲ス等工場長便宜處分スルヲ得

第三條 一組ニ伍長一人下締若干人ヲ置キ以テ其組合ノ取締ヲ爲サシム

第四條 運搬夫其他組合ノ編制アル者ハ總テ此内則ヲ適用スルモノトス

第二章 伍長

第五條 伍長ハ技生及ヒ工夫長ヲ以テ之レニ充ツ故ニ若シ伍長闕員アルトキハ下縮ノ工夫中ヨリ拔擢シテ伍長心得ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 伍長ハ工場長ヨリ分付セラレタル組合ノ取締ヲ擔任スルノ職務タリ故ニ首トシテ自己ノ行狀ヲ正フシ工場長及ヒ工場掛官ノ指揮ニ從ヒ組合員ヲ誘導シテ規則ヲ遵奉セシメ過誤アレハ之ヲ矯正シ相與ニ工業ニ勉勵スヘキモノトス

第七條 伍長ハ一工場内同職ノ者日々協議ヲ爲シ彼我擔當事業ノ繁緩ヲ酌量シ甲組合繁劇ナル時ハ工場長ニ具狀シテ乙組合之ヲ補助シ緩急相助ケ工業ニ滯滞ナカラシム

但本條補助中取締ノ責任ハ總テ甲組伍長ノ擔當タルヘシ

第八條 伍長ハ組合ノ者工業ノ便益ヲ發明スルカ又ハ技術拔群ニシテ勉勵比類ナキカ若クハ工藝拙劣ニシテ進歩セズ或ハ怠惰ナルカ又ハ教誨ニ從ハサル者等アルトキハ可否トモ速ニ之ヲ工場長ニ具狀シ且ツ常ニ組合員ノ素行ニ注意シ見聞ノ次第ニヨリテハ同シク工場長ニ具狀スヘシ

第九條 伍長ハ組合員ノ勤怠可否ヲ具狀スルニ當リ私情ヲ挾ミ事實ヲ蔽フカ如キ所爲アルヘカラス若シ私曲ノ事迹發露スルトキハ相當ノ處分ヲ免ル可カラス

第十條 伍長ハ組合中ニ於テ使用スル器械要具類ニ注意シ其毀損錯雜等ハ勿論工業用品ノ浪費アラツル様注意スヘシ

第十一條 伍長ハ組合員ニ於テ諸願伺届等ヲ差出スカ又ハ出場中發病被傷スルカ或ハ臨時退場ヲ請フ者アルトキハ詳ニ其情實ヲ糺シ書面アル者ハ之ヲ添テ工場長ニ申立ツヘシ

第十二條 伍長ハ組合中怠惰又ハ不正ノ所爲アルトキハ本人ト與ニ其責ヲ免ル可カラス

第三章 下縮

第十三條 下縮ハ工場長之ヲ選定シ組合中ニ若干名ヲ置クヲ得

第十四條 下縮ハ伍長ヨリ分付セラレタル組合員ノ取締ヲ負擔スルノ職務タリ故ニ首トシテ自己ノ行

狀ヲ正フシ工場長以下伍長ノ命令ニ從ヒ其負擔ノ人員ヲ誘導シテ規則ヲ遵奉セシメ過誤アレハ之ヲ矯正シ相與ニ工業ニ勉勵スヘキモノトス

第十五條 下縮ハ他ノ組合事業繁劇ニシテ其負擔ノ人員ヲ率ヒ之ヲ補助スルトキハ他ノ伍長ノ指揮ニ從ヒ其業務ニ服スヘシ組合ノ自他ヲ以テ異同アルヘカラス

第十六條 下縮ハ常ニ其負擔スル人員ノ勤怠行狀ニ注意シ見聞ノ次第ニヨリテハ可否トモ伍長ニ開陳スヘシ若シ私曲隱蔽ノ事迹發露スルトキハ相當ノ處分ヲ免ルベカラス

第十七條 下縮ハ其負擔ノ人員ニ於テ使用スル器械要具類ノ毀損錯雜等之レナキ様注意スヘシ

第十八條 下縮ハ其負擔ノ人員中怠惰又ハ不正ノ所爲アルトキハ本人ト與ニ其責ヲ免カルヘカラス

第十九條 下縮ハ其組合ノ伍長闕席スルトキハ日給多額ノ者其代理ヲ爲スヘシ

第四章 組合員

第二十條 組合員ハ誠實ニ規則ヲ遵奉シ伍長及ヒ下縮ノ指揮ニ從ヒ協同一致其職業ニ勉勵スヘシ

第二十一條 組合員ハ他ノ組合事業繁劇ニシテ之ヲ補助スルトキハ他ノ伍長及ヒ下縮ノ指揮ニ從ヒ其業務ニ服スル等組合ノ自他ヲ以テ異同アルヘカラス

第二十二條 組合員ハ其組合中何事ニ限ラス心得違ノ者アラハ互ニ忠告スヘシ若シ忠告ヲ用ヒス其非ヲ遂ケントスル者アルトキハ直ニ下縮或ハ伍長ニ申告スヘシ

第二十三條 組合員ハ其組合中怠惰又ハ不正ノ者アルトキハ互ニ之ヲ隱蔽シ他日發露スルニ於テハ本人組合員トモ相當ノ處分ヲ免カルヘカラス

第二十四條 組合員ハ其組合ニ於テ使用スル器械要具類ヲ鄭重ニ取扱ヒ互ニ注意保護スヘシ

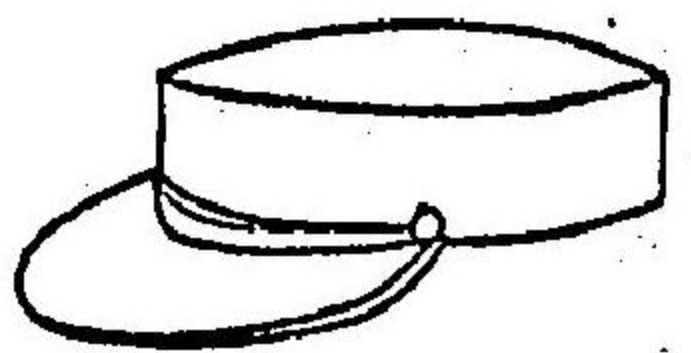
第二十五條 組合員ハ伍長及ヒ下縮闕席スルトキハ工場長ノ指揮ニ從ヒ日給多額ノ者臨時代理ヲ爲スヘシ

著帽心得

上款 伍長制帽

- 一 伍長制帽ハ其狀圖ノ如クニシテ紺地ノ羅紗ヲ以テ之ヲ製シ之レニ眞鍮製徑一寸三分以下同シノ圓形内ニ伍ノ字ヲ凸印セル前章ヲ附著スルモノトス
- 一 制帽ハ伍長ノ目標タルヲ以テ入退場ノ節ハ勿論工業中ハ必ス著用シ官事ヲ帶フルトキハ所外ト雖モ之ヲ著クルモノトス
- 一 私用外出及ヒ和服著用ノ節ハ制帽ヲ著クルヲ禁ス
- 一 所内ハ勿論著帽スヘキ場所ニ於テ濫リニ脱帽シ及脱帽ノマ、徘徊スルヲ禁ス
- 一 帽章ハ無代價下付ノモノナルニ由リ伍長ノ職ヲ失フトキハ取卸シ上納スルモノトス
- 一 下款下縮以下事業帽
- 一 下縮以下ノ事業帽ハ其狀槽形ニシテ帆布ヲ以テ之ヲ製シ之レニ工場名及ヒ番號ヲ記セル眞鍮製ノ前章ヲ附著シ其目標ヲ區分スル事左ノ如シ
- 一 下縮ノ帽ハ其周圍ノ中央ニ幅一寸ノ黑色横線ヲ帶フ但帽章ノ形狀ハ各其身分ノ本制ニ從フ
- 一 工夫ノ帽章ハ圓形ニシテ徑二寸トシ番號ハ黒字ヲ用フ
- 一 通學工夫ノ帽章ハ形狀工夫ニ同シク番號ハ朱字ヲ用フ
- 一 雇職工運搬夫傭夫ノ帽章ハ橢圓形ニシテ横徑二寸三分縱徑一寸七分トシ番號ハ黒字ヲ用フ
- 一 事業帽ハ下縮以下出業中ハ必ス著用シ故ナク之ヲ脱スルヲ許サス
- 一 所内ハ勿論所外ト雖モ官事ニ係ル工業ニハ必ス事業帽ヲ著クルモノトス
- 一 右ノ外ハ所外ニ持出テ及ヒ之ヲ著クルヲ禁ス
- 一 事業帽ハ彼我互ニ流用スルコトヲ禁ス
- 一 事業帽ノ保存期ハ滿一箇年以上トス若シ保存期內ニ於テ紛失或ハ毀損スルトキハ速ニ届出テ代品拂下ケノ上之ヲ贖フヘシ
- 一 帽章ノ番號ハ終始改竄スルコトヲ得ス假令拂下ケテ以テ贖フタルモノト雖モ亦同シ

伍長帽



横須賀鎮守府ヨリ海軍省へ届二十一年四月二十五日  
所轄横須賀造船所職工組合内則従前ノ分不充分ノ麻有之今般別紙ノ通改正致候條此段御届仕候也

小野濱海軍造船所職工組合内則 十七年六月二十五日

- 第一條 職工組合ハ各工場諸股ヲ取締リ工業ノ澁滞ナカラシメ職工各自工藝ヲ進修セシメ行狀ヲ篤厚ナラシムルヲ本旨トス
- 第二條 毎工場各職工ノ日給多寡ヲ斟酌シ大率七人以上十五人以下ヲ以テ一組ト爲シ主任ヲシテ之ヲ編成セシムルモノトス
- 一 但工業模様ト其工場總員ノ都合トニ因リ一組ノ人員本條ノ定度ニ從ヒ難キ等臨機組々ノ入替ヲ爲スハ適宜主任ノ處分スルヲ得ルモノトス
- 第三條 毎組伍長一員ヲ置キ其組合ヲ統理セシムヘシ
- 第四條 伍長ハ工手ヲ以テ之レニ任ス若シ本人ノ品行其任ニ適セサルモノアルカ又ハ不行届ト認ムルトキハ伍長ヲ免シ組合中ニ編入スヘシ
- 一 但工手職員ノ節ハ雇或ハ職工ノ内工業熟達品行端正ニシテ其任ニ適スルモノヲ人撰シ伍長心得申付ヘシ
- 第五條 主任ハ伍長及ヒ組合ヲ誘導獎勵シ工業ニ澁滞ナカラシメ其勤怠ヲ觀察シ諸事取締上ニ著目シ務メテ職場ノ弊風ヲ更正スルコトニ注意スヘシ若シ不行届ノコトアレハ主任其責ニ任スヘシ

小野濱海軍造船所職工組合内則ヲ定ム  
小野濱造船所ハ十七年一月二十五日區々所造船所ノ部ニ載ス  
二十年九月二十九日改正

第六條 各組伍長ヨリ具狀スル事件ハ明瞭ニ曲直實否ヲ糺シ其取捨ヲ誤ルヘカラス若シ或ハ其誣罔ヲ信シ失錯ノ處分アルカ又ハ私情ヲ挾ミ其惡ヲ蔽フ等ノ處置アルトキハ主任其責ニ任スヘシ

第七條 伍長ハ組合中ノ百事ヲ擔當スル職務タリ故ニ第一自己ノ品行ヲ正シ掛判任官ノ指揮ニ從ヒ組合人員ヲ誘導獎勵シテ規則ヲ遵守セシメ過誤アレハ之レヲ矯正シ協同一致工業ヲ勉勵シ若シ不行届ノコトアレハ伍長其責ニ任スヘシ

第八條 一工場ノ伍長日々協議シ公平ニ被我擔當事業ノ緩急ヲ酌量シ甲組合ノ工作繁劇ナルトキハ主任ニ具狀シテ乙組合ヨリ之レヲ補助シ緩急相助ケ工業ヲシテ流滯セシメサルヲ要ス

但本條補助員統理ノ責ハ總テ甲組伍長ノ負擔タルベシ

第九條 一組中ニ工業ノ便益ヲ發明スルモノアルカ或ハ技術拔群勉勵比類ナキカ若シハ工業拙劣ニシテ上達セス又怠惰ニシテ教誨ニ從ハス組合ノ妨害トナルヘキモノアレハ可否トモ主任へ具狀スヘシ

第十條 一組ノ者出場中ハ勿論平素ノ行狀等常ニ注意シ見聞ノ次第ニ因リ可否トモ主任へ具狀スヘシ

第十一條 一組ノ可否ヲ具狀スルニ當リ或ハ私情ヲ挾ミテ事實ヲ告ケス其善ヲ抑ヘ其惡ヲ蔽ヒ又ハ無辜ヲ讒誣スル等私曲ノ事跡他日發覺スルニ於テハ相當ノ處分ヲ爲スモノトス

第十二條 一組中怠惰又ハ犯則其他不都合ノ所爲アルトキハ本人ハ勿論伍長モ亦其責ヲ免ルヘカラス

第十三條 一組ノ中守管ノ器械要具類ハ鄭重ニ取扱ヒ毀損錯雜ナキ樣篤ク注意スヘシ

第十四條 一組中諸願伺届等差出スカ又ハ出業中發病被傷スルカ或ハ臨時退場ヲ請フモノアルトキハ其實否ヲ糺シ速カニ主任へ申立ツヘシ

第十五條 組合諸員ハ總テ規則ヲ遵奉シ職業ニ勉勵シ品行端正能ク伍長ノ指揮ニ從ヒ協同親睦諸事篤實ニ服務スヘシ

第十六條 他ノ組合中事業繁劇ニシテ之レヲ補助スル時ハ其組合伍長ノ指揮ニ從ヒ諸員ト協同其務ニ服スル等總テ自己本來ノ組合ト異同アルヘカラス

第十七條 組合中何事ニ依ラス心得違ノ者アラハ互ニ忠告スヘシ若シ忠告ヲ用ヒス我意ヲ張リ其非ヲ遂ケントスルモノアラハ猶豫ナク伍長ニ報告スヘシ

第十八條 組合中怠惰又ハ犯則其他不都合ノ所爲アルトキ本人ハ勿論組合一同其責ヲ免カルヘカラス若シ或ハ互ニ之レヲ蔽隱シ後日發覺スルニ於テハ本人組合共ニ相當ノ處分ヲ爲スモノトス

第十九條 組合中守管ノ器械要具類ハ鄭重ニ取扱互ニ注意保護スヘシ

第二十條 伍長病氣或ハ事故アリテ不參フトキハ組合中日給多額ノ者一時代理ヲ爲スヘシ

第二十一條 組合中ノ諸願伺届又ハ出業中發病被傷スルカ或ハ臨時退場ヲ請フ者アルトキハ伍長ニ申出ヘシ

主船局ヨリ海軍省へ届十七年六月二十五日  
小野濱造船所職工取締ノ爲メ横須賀造船所ノ振合ニ倣ヒ職工組合内則別紙ノ通取極條條此段御届仕候也

小野濱海軍造船所職工組合内則改正ス

小野濱海軍造船所職工組合内則 二十年九月二十九日

このきをくば やすみじかん 又は てすきのときよくくよくみ をほへきくべし伍長または下

第一章 總則

第一條 職工組合ハ工場諸般ノ整頓ヲ主トシ工業ニ滯滞ナク工夫以下ノ工藝ヲ進メ平等ニ規則ヲ遵奉セシムルヲ以テ本旨トス

第二條 工夫以下ノ日給多寡ヲ酌量シ一組凡ソ五人以上十五人以下ヲ以テ程度トナシ工場長ヲシテ組合ヲ編製セシムルモノトス

但工業ノ模様ト工場總員ノ都合トニ因リ本條ノ程度ニ從ヒ難キトキハ其人員ヲ増減シ或ハ組々ノ入

替ヲ爲ス等工場長(工場長アラサルトキハ工場掛)便宜處分スルヲ得

第二章

一組ニ伍長一人下締若干人ヲ置キ以テ其組合ノ取締ヲナシム

第四章

定人足組合ノ編制ハ總テ此内則ニ準據スルモノトス

第五章 伍長

第五條

伍長ハ技生及ヒ工夫長ヲ以テ之レニ充ツ故ニ若シ伍長副員アルトキハ下締ノ工夫職工中ヨリ拔擢シテ伍長心得ヲ命スルコトアルヘシ

第六條

伍長ハ工場長ヨリ分付セラレタル組合ノ取締ヲ擔任スルノ職務タリ故ニ首トシテ自己ノ行狀ヲ正フシ工場長及ヒ工場掛リ官ノ指揮ニ從ヒ組合員ヲ誘導シテ規則ヲ遵奉セシメ過誤アレハ之ヲ矯正シ相與ニ工業ニ勉勵スヘキモノトス

第七條

伍長ハ一工場内同職ノモノ日々協議ヲナシ彼我擔當事業ノ繁緩ヲ酌量シ甲組合繁劇ナル時ハ工場長(工場長アラサルトキハ工場掛)ニ具狀シテ乙組合之ヲ補助シ總急相助ケ工業ニ滯滞ナカラシムヘシ但本條補助中工業ニ係ル取締ノ責任ハ總テ甲組伍長ノ擔當タルヘシ

第八條

伍長ハ組合ノ者工業ノ便益ヲ發明スルカ又ハ技術拔群ニシテ勉勵比類ナキカ若シクハ工藝拙劣ニシテ進歩セス或ハ怠惰ナルカ又ハ教誨ニ從ハサル者等アルトキハ可否トモ速ニ之ヲ工場長ニ具狀シ且ツ常ニ組合員ノ素行ニ注意シ見聞ノ次第ニヨリテハ同シク工場長(工場長アラサルトキハ工場掛)ニ具狀スヘシ

第九章

伍長ハ組合員ノ動意可否ヲ具狀スルニ當リ私情ヲ挾ミ事實ヲ蔽フカ如キ所爲アル可カラズ若シ私曲ノ事跡發見スルトキハ相當ノ處分ヲ免ル可ラス

第十條

伍長ハ組合中ニ於テ使用スル器械要具類ニ注意シ其毀損錯雜等ハ勿論工業用品ノ浪費アラサル様注意スヘシ

第十一章

伍長ハ組合員ニ於テ諸願伺届等ヲ差出スカ又ハ出場中發病被傷スルカ或ハ臨時退場ヲ請フ者アルトキハ詳ニ其實情ヲ糺シ書面アル者ハ之ヲ添テ工場長(工場長アラサルトキハ工場掛)ニ申立ツヘシ

第三章 下締

第十二條

下締ハ工場長之ヲ撰定シ組合中ニ若干名ヲ置クヲ得

第十三條

下締ハ伍長ヨリ分付セラレタル組合員ノ取締ヲ負擔スルノ職務タリ故ニ首トシテ自己ノ行狀ヲ正フシ工場長以下伍長命令ニ從ヒ其負擔ノ人員ヲ誘導シテ規則ヲ遵奉セシメ過誤アレハ之ヲ矯正シ相與ニ工業ヲ勉勵スヘキモノトス

第十四條

下締ハ他ノ組合事業繁劇ニシテ其負擔ノ人員ヲ率ヒ之ヲ補助スルトキハ他ノ伍長ノ指揮ニ從ヒ其業務ニ服スヘシ組合ノ自他ヲ以テ異同アルヘカラス

第十五條

下締ハ常ニ其負擔スル人員ノ勤怠行狀ニ注意シ見聞ノ次第ニヨリテハ可否トモ伍長ニ開陳スヘシ若シ私曲隱蔽ノ事跡發露スルトキハ相當ノ處分ヲ免ルヘカラス

第十六條 下縮ハ其負擔ノ人員ニ於テ使用スル器械要具類ノ毀損錯雜等之レナキ様注意スヘシ

第十七條 下縮ハ其組合ノ伍長關所スルトキハ日給多額ノ者其代理ヲナスヘシ

第四章 組合員 第十八條 組合員ハ誠實ニ規則ヲ遵奉シ伍長及ヒ下縮ノ指揮ニ從ヒ協同一致其職業ニ勉勵スヘシ

第十九條 組合員ハ他ノ組合事業繁劇ニシテ之ヲ補助スル時ハ他ノ伍長及ヒ下縮ノ指揮ニ從ヒ其業務ニ服スル等組合ノ自他ヲ以テ異同アルヘカラス

第二十條 組合員ハ其組合中何事ニ限ラス心得違ノ者アラハ互ニ忠告スヘシ若シ忠告ヲ用ヒス其非ヲ遂ントスル者アルトキハ直ニ下縮或ハ伍長ニ申告スヘシ

第二十一條 組合員ハ其組合中怠惰又ハ不正ノ者アルモ互ニ之ヲ隱蔽シ他日發露スルニ於テハ本人組合員トモ相當ノ處分ヲ免ルヘカラス

第二十二條 組合員ハ其組合ニ於テ使用スル器械要具類ヲ鄭重ニ取扱ヒ互ニ注意保護スヘシ

第二十三條 組合員ハ伍長及ヒ下縮關員スルトキハ工場長ノ指揮ニ從ヒ日給多額ノ者臨時代理ヲナスヘシ

著帽心得 上款 伍長制帽

一 伍長制帽ハ其狀圖ノ如クニシテ紺地ノ羅紗ヲ以テ之ヲ製シ之レニ眞鍮製徑一寸三分以下同

一 内ニ伍ノ字ヲ凸印セル前章ヲ附著スルモノトス

一 制帽ハ伍長ノ目標タルヲ以テ入退場ノ節ハ勿論工業中ハ必ス著用シ官事ヲ帶フルトキハ所外ト雖モ之ヲ著クルモノトス

一 私用外出及ヒ和服著用ノ節ハ制帽ヲ著スルヲ禁ス

一 所内ハ勿論著帽スヘキ場所ニ於テ濫リニ脱帽シ及ヒ脱帽ノマ、徘徊スルヲ禁ス

一 制帽ハ無代價下付ノモノナルニ由リ伍長ノ職ヲ失フトキハ取制シ上納スルモノトス

下款 下縮以下事業帽 一 下縮以下ノ事業帽ハ其狀圖形ニシテ帆布ヲ以テ之ヲ製シ之レニ工場名及ヒ番號ヲ記セル眞鍮製ノ前章ヲ附著シ其目標ヲ區分スルコト左ノ如シ

一 下縮ノ帽ハ其周圍ノ中央ニ幅一寸ノ黑色橫線ヲ帶フ但シ帽章ノ形狀ハ各其身分ノ本制ニ從フ

一 工夫ノ帽章ハ圓形ニシテ徑二寸トシ番號ハ黒字ヲ用ユ

一 雇職工ノ帽章ハ橢圓形ニシテ横徑二寸三分縱徑一寸七分トシ番號ハ黒字ヲ用ユ

一 一定人足ノ帽章ハ圓形ニシテ徑一寸七分角トシ番號ハ黒字ヲ用ユ

一 事業帽ハ下縮以下出業中ハ必ス著帽シ故ナク之ヲ脱スルヲ許サス

一 所内ハ勿論所外ト雖モ官事ニ係ル工業ニハ必ス事業帽ヲ著クルモノトス

一 右ノ外ハ所外ニ持出ルコトヲ禁ス

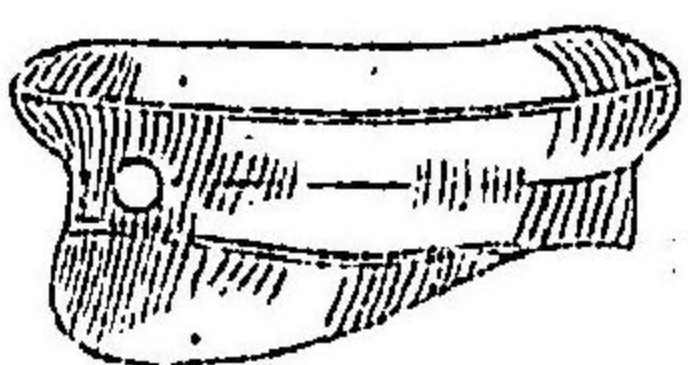
一 事業帽ハ彼我互ニ流用スルコトヲ禁ス

一 事業帽ノ保存期ハ滿一箇年以上トス若シ保存期內ニ於テ紛失或ハ毀損スルトキハ速ニ届出テ代品拂下ノ上之ヲ贖フヘシ

一 帽章ノ番號ハ終始改竄スルコトヲ得ス假令拂下ケテ以テ贖フタルモノト雖モ亦同ジ



伍長帽



艦政局ヨリ海軍省へ届二十年九月二十九日  
小野濱造船所職工組合内則別冊ノ通。改正候條此段及御届候也

水雷製造局ノ設置ス  
八年二月七日廢ス

海軍省達 七年九月二十日  
當分水雷製造局設置候事  
但省中狹少ニ付當分兵學寮へ假設候

水雷製造局ヲ廢シ局務  
ヲ武庫司所轄造兵課ニ  
合ス

海軍省ヨリ水雷製造局へ達 八年二月七日  
自今其局名相廢止局務ハ武庫司所轄造兵課へ被合併候事  
海軍省ヨリ武庫司へ達 八年二月七日  
今般水雷製造局ノ儀局名相廢止局務ノ儀ハ其司所轄造兵課へ被合併候事

水雷製造局ヲ廢シ局務  
ヲ武庫司所轄造兵課ニ  
合ス

海軍省達 十二年八月二十三日  
自今水雷術練習掛ヲ被置候條此旨爲心得相違候事  
但場所ノ儀ハ芝新錢座元水兵假分營跡へ被置候事

水雷術練習掛ヲ廢シ  
ニ置ク

海軍省達 十二年九月十日  
海軍省達 四年八月十三日  
所轄局府所校

十二年九月海軍省丙第八  
十六號達ヲ以テ水雷術習  
所ト改稱ス

芝新錢座元水兵假分營跡へ水雷術練習掛ヲ被置候旨本年丙第七十八號ヲ以相違置候處右ハ詮議ノ次第  
有之取消シ更ニ相州横須賀表へ被置候條此旨爲心得相違候

水雷術練習掛ヲ水雷術  
習所ト改稱ス

海軍省達 十二年九月十三日  
水雷術練習掛自今水雷術練習所ト被相改候條此旨爲心得相違候事

十六年二月海軍省丙第十  
二號達ヲ以テ廢ス

海軍省ヨリ水雷術練習掛へ達 十二年九月十三日  
其掛自今水雷術練習所ト被相改候條此旨相違候事

海軍省届 十二年九月十三日  
各艦船乘組及各營在勤士官ノ内水雷術習爲致度候ニ付今般横須賀造船所構内へ右練習所取設候條此段  
御届仕候也

水雷術練習所下士以下進  
退上三關スル件ハ鎮守  
府へ協議ノ上申分セシ  
ム

軍務局ヨリ海軍省へ伺十三年二月六日  
鎮守府所轄艦船第一等卒以下有年期ニシテ滿期ノ際勤績志願候者ハ該長階届ノ上可届出旨同府司令長  
官ヨリ所轄中へ相違候ニ付水路局兵學校及當局等へ通知有之候得共當局ノ儀ハ從來ノ通常局ニ於テ處  
分致候處兩應ニ於テハ同府通知ノ通該長處分致シ候然ル處横須賀港ニ被設置候水雷術練習所第一等卒以  
下ニ當テモ所長階届ノ上報告有之候抑水雷術練習所下士以下ハ常備艦船乘組ト異ナリ全ク習用端舟及  
小蒸氣船使用ノ爲メ一時艦船ヨリ派山候モノニテ進退黜陟ハ鎮守府ニ於テ處分スルモノト存候處前條  
所長ノ處分ニ係リ候テハ進退黜陟ヲモ齊シク處分致候儀ニ可有之哉右等ハ最モ該所長へ御委任相成候  
權限中ニ含有スル儀ニ可有之候哉爲念一應相伺候也  
指令 十三年三月三日

伺ノ趣水雷術練習所下士以下進退上ニ相係リ候儀ハ同所ヨリ鎮守府ニ協議シ同府ニ於テ處分可致旨相違  
候條此旨可相心得事

水雷術練習所用便一名ヲ  
増員ス  
十六年二月海軍省丙第十  
二號達ヲ以テ水雷術練習  
所ヲ廢ス

水雷術練習所ヨリ海軍省へ上申十四年四月十一日  
當所御設置以來用便一名ニテ所用相辨居候處昨今ニ至リ事務モ追々多端ニ相成差支ノ備モ有之候ニ付  
テハ今般一名増員仕度此段上申仕候也  
指令 十四年四月十五日

上申ノ通

水雷布設使用管理方等一切海軍省ニ委任ス  
十六年二月海軍省第四十三號總ヲ以テ省中ニ水雷局ヲ設ケ

海軍省上申十五年八月十九日  
凡ソ港灣海峽河口等防禦ノ爲メ海中ニ布設スヘキ水雷及其布設方使用管理ノ事ハ海防策中最モ緊要ニシタ且ツ急務ナル處今日ニ至ル迄其主管海陸軍衙ノ孰レニ屬スルカ未ダ御確定之ヲ無シ是レ實ニ關典ト云ハサルヲ得ス惟ルニ海岸砲臺ノ如キハ陸地ニ在ルヲ以テ陸軍ノ主管タル固ヨリ當然ナリト雖モ海中ノ事ニ於ルヤ其施術自ラ陸上ト相異ルアリ此ヲ以テ之ヲ參謀本部長御用取扱山縣中將ト商議スルニ固ヨリ異議ナシ依テ港灣海峽河口等水中ニ布設スヘキ水雷及其布設方其使用管理方等其防禦ニ係ル事項ハ自今一切海軍省ニ御委任相成度此旨上申仕候也  
追テ御委任相成候上ハ夫々取調意見上陳可仕候間向分ノ儀至急御評決相成度此段申添候也  
指令十五年八月二十二日

上申ノ趣聞届候事

第二局議案  
別紙海軍卿上申水雷布設管理ノ儀同卿申立之通御裁定相成可然哉御指令案ヲ附シ仰高裁候也

海軍省達 四十六年二月六日 一號

水雷練習所相廢ス此旨相達候事

海軍省達 四十六年二月六日 一號

本省中ニ水雷局ヲ設置ス此旨相達候事

海軍省達 四十六年二月六日

但横須賀水雷練習所ヲ以該局ト定ム

客歲八月十九日秘一第五十號ヲ以上申之末港灣海峽河口等水中ニ布設スヘキ水雷及其布設使用管理方等一切當省ヘ御委任相成候ニ付右ニ係ル事項取扱之爲メ今般水雷局新設水雷練習所相廢シ候條此段御届仕候也

海軍省達 四十六年二月十九日 一號

内局ヲ舊事務課ノ位置トシ水雷局ヲ兵器局ノ次ニ列ス此旨相達候事

水雷練習所ノ廢シ省中ニ水雷局ヲ設ケ

十九年一月二十九日海軍省事務ヲ横須賀鎮守府及艦政局ニ屬ス海軍一ニ載ス

水雷局ヲ兵器局ノ次ニ列ス  
十九年一月二十九日水雷局ヲ廢ス海軍一ニ載ス

水雷局員二名ヲ増員ス

十九年一月二十九日水雷局ヲ廢シ事務ヲ艦政局及横須賀鎮守府ニ屬ス海軍一ニ載ス

水電局ヨリ海軍省ヘ上申十七年三月十二日

一 塗工 二名

一 喇叭手 二名

右ハ是迄當局ニ勤務無之候處水雷船モ追々前書當局ヘ受取候ニ付ハ塗工要用ニ有之又下士以下人員モ追々増加致候ニ付ハ喇叭手モ要用ニ有之候間今般更ニ前書ノ通増員ノ儀允許相成候様仕度此段上申仕候

指令十七年四月十一日

上申ノ趣塗工二名勤務ノ儀ハ聞届鎮守府ヘ其旨相達置候條同府ヘ協議ス可シ喇叭手二名勤務ノ儀ハ難及詮議候事

但浦賀以內ニ於テ實地演習ニ當リ喇叭手ヲ要スル時ハ水兵屯營又ハ練習所ノ喇叭手貸渡ノ儀鎮守府ヘ相達置候條同府ヘ協議可致事

海軍省達 十九年一月二十九日

水雷術練習艦水雷武庫水雷營ヲ相州長浦ニ置キ横須賀鎮守府ニ屬ス

海軍省ヨリ横須賀鎮守府ヘ達 十九年二月二十五日

長浦水雷營條例長浦水雷武庫條例水雷術練習艦條例別冊ノ通相定ム

(別冊)

長浦水雷營條例

- 第一條 長浦水雷營ハ横須賀鎮守府ニ屬シ水雷隊ヲ屯在セシメ之ヲ訓練スル所トス
- 第二條 水雷隊ハ水雷術練習艦ニ於テ卒業セル兵曹水兵ヲ以テ編制ス
- 第三條 水雷隊ハ分テ若干分隊ト爲ス
- 第四條 水雷隊ハ攻守水雷ノ事ニ服從シ又水雷兵トシテ乘艦スルモノトス

長浦水雷營同水雷武庫及水雷術練習艦條例ヲ定ム

水雷術練習艦水雷武庫水雷營ヲ相州長浦ニ置キ横須賀鎮守府ニ屬ス

- 第五條 水雷營ニ隊外トシテ準士官下士卒傭夫ヲ置ク
- 第六條 水雷營ニ水雷船及若干ノ船艇ヲ屬ス
- 第七條 營長ハ部下諸員ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ營務ヲ幹理ス
- 第八條 營長ハ水雷武庫主事或ハ水雷術練習艦長ノ要スルトキハ水雷隊員ヲシテ水雷術練習艦或ハ水雷武庫ノ業務ニ從事セシムヘシ又水雷隊ヲ練習スルトキハ水雷術練習艦或ハ水雷武庫ニ助力ヲ求ムルコトヲ得
- 第九條 營長ハ營内ノ醫務衛生ノ事ヲ監督シ屯在諸員ノ健康ヲ保持ス可シ
- 第十條 營長ハ營内ニ傳染病者アルトキハ成規ニ從ヒ其處分ヲ爲シ速ニ所管長官ニ報告スヘシ
- 第十一條 營長ハ營内ノ會計給與ノ事ヲ監督シ且毎月一回會計諸帳簿及現在金額ヲ検査ス可シ
- 第十二條 營長ハ艦船ノ要求ニ應シ屯在ノ卒ニ乘員ヲ命スルコトヲ得但其都度所管長官ニ報告ス可シ
- 第十三條 營長ハ港内ノ艦船或ハ營ノ近傍ニ火災アルトキハ消防ノ處置ヲ爲シ速ニ所管長官ニ報告ス可シ
- 第十四條 副長ヲ輔佐シテ營務ヲ整理シ營長ノ命令ヲ執行シ營内ノ定則ヲ維持シ水雷隊ヲ訓練スルヲ任トス
- 第十五條 副長ハ營長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス可シ但營長ノ定メタル例規ハ之ヲ變更ス可ラス
- 第十六條 副長ハ分隊長以下諸員ノ勉否ヲ監察シ且營内警察ノ事ヲ擔任ス
- 第十七條 副長ハ營長ノ命ヲ受ケテ課業ニ係ル事ヲ擔任シ課業表及諸部署表等ヲ調製シ常ニ之ヲ整理ス可シ
- 第十八條 分隊長ハ隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ其行狀伎倆ヲ熟知シ操練作業ニ奮勵從事セシム且隊員ニ係ル事務ヲ掌理ス
- 第十九條 分隊長ハ其隊員屯在ノ兵舎ヲ整頓ス可シ
- 第二十條 分隊長ハ各部署ノ長トナリ部署員ヲ訓練シ各自負擔ノ要具ヲ整頓セシム可シ

- 第二十一條 分隊長營内ニ交替宿直シテ不虞ヲ警ムヘシ
- 第二十二條 分隊長事故アルトキハ他ノ分隊長其代理ヲ爲ス可シ
- 第二十三條 機關長ハ機關工上長木工上長火夫長鍛冶長塗工長兵器工長以下諸員ヲ統ヘ軍紀風紀ヲ維持シ其行狀伎倆ヲ熟知ス可シ
- 第二十四條 機關長ハ水雷營附屬水雷船其他船艇ノ機關ニ係ル一切ノ事ヲ擔任ス
- 第二十五條 機關長ハ主管ノ事務ニ於テハ營長ニ對シ擔保ノ責ニ任シ又機關部長ノ監督ヲ受クルモノトス
- 第二十六條 機關長ハ所屬諸員ニ係ル事務ヲ掌理ス
- 第二十七條 機關士ハ其部下ヲ統率シ機關長ヲ補助シテ各其主務ニ從事シ機關長事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲シ又交替宿直シテ不虞ヲ警ム可シ
- 第二十八條 軍醫長ハ營内ノ醫務衛生ニ係ル一切ノ事ヲ擔任シ營長ニ對シ擔保ノ責ニ任ス而シテ又軍醫部長ノ監督ヲ受クルモノトス
- 第二十九條 軍醫ハ軍醫長ヲ補助シテ各其主務ニ從事シ軍醫長事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲シ又營内ニ交替宿直ス
- 第三十條 主計長ハ營内ノ會計給與ニ係ル一切ノ事務及ヒ其他ノ庶務ヲ擔任シ營長ニ對シ擔保ノ責ニ任ス而シテ又主計部長ノ監督ヲ受クルモノトス
- 第三十一條 主計ハ主計長ヲ補助シテ各其主務ニ從事シ主計長事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲シ又營内ニ交替宿直ス
- 第三十二條 木工上長或ハ木工長ハ端舟ノ保護營内ノ匠作ヲ擔任シ其主管ニ屬スル需用物品ノ保護出納ヲ擔任ス
- 第三十三條 機關工上長或ハ機關工長ハ水雷營附屬水雷船其他船艇ノ機關ノ事ヲ擔任ス
- 第三十四條 兵曹上長或ハ兵曹長ハ各分隊ニ分屬シ營務ニ從事シ水雷及水雷屬具並兵器彈藥ヲ保護整頓シ其主管ニ屬スル需用物品ノ出納ヲ擔任ス

十九年四月海軍省訓令  
第二七二號ヲ以テ長浦水  
雷武庫條例ヲ廢ス鎮守府  
ノ部ニ載ス

第三十五條 水雷營定員中此條例ニ於テ其職務ヲ掲記セラル者ハ總テ軍艦職員條例ニ同シ  
長浦水雷武庫條例

- 第一條 水雷武庫ハ水雷及其屬具ノ貯藏準備配賦ヲ爲ス所トス
- 第二條 水雷武庫ノ下ニ水雷工場ヲ置キ水雷及其屬具ノ小修理ヲ爲ス所トス
- 第三條 水雷武庫及水雷工場ノ職員ハ左ノ如シ

水雷武庫	主事	中少佐若クハ同等機關官	一人
	副主事	機關少監或ハ大機關士	一人
	屬員	判任官	二人
	檢查課		
	課長	奏任官	二人
	檢查員	判任官	二人
	出納課		
	課長	判任官	一人
	屬員	判任官	四人
水雷工場	監務	武庫副主事ヲ以テ之ニ先ツ	一人
	機關士		二人
	工長		一人
	主簿	判任官	二人
	製圖手	判任官	二人
	工手		六人
	工夫		三十二人

十九年三月十二日第五條  
水雷工場ノ部ニ載ス

第四條 主事ハ所轄諸員ヲ統督シ主管ノ事務ヲ總理シ鎮守府長官ニ對シ其責ニ任ス

第五條 主事ハ其部下技術員ニ三十級以下ノ加俸ヲ給與シ又ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第六條 主事ハ鎮守府長官ノ命ヲ受ケ艦船營等ノ水雷及其屬具ヲ配賦交換スルヲ任トス但其定數ニ係ル者ハ艦船營長ノ要求ニ應シ成規ニ照シ直ニ配賦交換スルコトヲ得

第七條 主事ハ水雷及其屬具ノ出納ヲ明了ニシ毎年配賦ニ係ル水雷及其屬具ノ經費豫算書ヲ調製シ鎮守府長官ニ出スベシ

第八條 主事ハ水雷術練習艦長水雷營長ノ要求アルトキハ練習用トシテ水雷及其屬具ヲ使用セシムルコトヲ得又練習艦長水雷營長ニ助力ヲ要求スルコトヲ得

第九條 副主事ハ主事ヲ輔佐シテ武庫ノ事務ヲ整理シ且主トシテ水雷及其屬具ノ保護準備ヲ掌リ又水雷工場監務トナリ其主務ヲ掌理ス而シテ主事事故アルトキハ其代理ヲ爲ス

第十條 檢查課ハ水雷及其屬具等修理ノ適否受授出納ノ檢查補充配賦交換ノ調査ヲ掌ル

第十一條 出納課ハ水雷及其屬具等ノ貯藏保存配賦出納運輸等ノ事ヲ掌理ス

第十二條 屬員ハ主事副主事ノ命ヲ受ケ武庫ノ事務ニ服従ス

第十三條 監務ハ水雷及其屬具ノ修理ヲ擔任シ修理工場並諸器械ヲ管理シ工長以下諸工ノ勤怠ヲ監督スベシ

第十四條 機關士ハ工場長ヲ輔佐シ主トシテ魚形水雷調整ノ事ヲ管理ス

第十五條 工長以下ハ上官ノ命ヲ受ケ各其主務ニ従事ス

第十六條 武庫ニ鎮守府主計官ヲ派出シ金錢ノ出納需用物品ノ買辦供給水雷修理費ノ調査ヲ掌ラシム

水雷術練習艦條例

第一條 水雷術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ士官進士官下士卒ニ水雷術ヲ教授シ兼テ水雷ニ關スル諸試驗ヲ爲ス所トス

第二條 水雷術練習艦ノ下ニ附屬講堂ヲ置ク